

豊田厚生病院年報

令和5年度

Toyotakosei Hospital Annual Report 2023

豊田厚生病院理念

私たちはたえず
新しい医療のあり方を追求し
優しさと温かさを大切にして
地域の人たちと共に歩みます



基本方針

私たちは、次の基本方針に基づいて患者に適切な医療・保健・福祉サービスを提供します。

1. 公的病院として、地域住民の健康増進・病気の治療と予防に努めます。
2. 患者の権利に配慮した安全で安心できる医療・保健・福祉サービスの提供を行います。
3. 常に医学の進歩に目を向け、人的・設備的な質向上に努めます。
4. 地域の医療機関との緊密な連携を図り、患者中心の地域医療体系の構築に努めます。

患者の権利と責任

1. 個人の尊厳
人格が尊重され人間としての尊厳を守られる権利があります。
2. 平等な医療を受ける権利
良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
3. 知る権利
病状・検査・治療について十分な説明を受ける権利があります。
4. 自己決定の権利
納得できるまで説明を受けた上で、自ら治療方法を選択する権利があります。また、セカンド・オピニオンを求めることができます。
5. プライバシーが守られる権利
ご自分の情報を承諾なしに第三者に提示されない権利があります。
6. 参加と協同の責任
患者は、これらの権利を守るため、医療従事者との信頼関係の構築に努め、医療に参加、協力する責任があります。

発刊にあたり

豊田厚生病院 病院長 服部直樹



わが国の総人口は、急激な高齢化により医療・介護需要が大きく増加する一方で、社会保障の担い手となる労働力人口の減少が大きな問題となっております。社会保障給付費は年々増加し続け、国家財政のひっ迫が深刻な課題となっております。令和2年度より続いたコロナ禍の3年間を乗り越え、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きも見られています。しかしながら、賃金上昇は世界的な物価高騰に追いついておらず、個人投資や設備投資は力強さを欠いており、依然として経済再建には厳しい状況が続いています。

医療・介護の分野においては、5類移行後も新型コロナウイルス感染症の影響が残存しており、施設内感染等により苦しい経営を迫られています。他方、コロナ関連の特例診療報酬や補助金は大幅に縮小されたことで、赤字施設の割合は増加し、地域の医療提供体制の維持は困難な状況となっております。

こうしたなか、当院は西三河北部医療圏の中核病院として地域における役割を果たすとともに、地域住民に安全で安心な医療を提供するため、以下の取り組みを行いました。

- ① 感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症患者の治療を行いました。5類移行後も愛知県の要請に応え、病床を確保し中等症・重症者の受入に努めました。
- ② 救急医療体制の強化・充実を図り、病床逼迫時も極力断らない救急を継続することで、救急車受け入れ台数増加およびドクターカー出動件数は増加しました。
- ③ 放射線治療機器を更新し、定位放射線治療（SRS・SRT）、強度変調放射線治療（IMRT）といった、正常細胞へのダメージを最小限に抑える治療が可能となりました。
- ④ 画像診断体制強化のため、放射線診断医を増員しました。また、PET-CT・MRI設備を更新し、検査時間の短縮や画像精度の向上、検査中の快適性の向上を実現しています。
- ⑤ 令和4年度に導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」による低侵襲手術を積極的に行い、年間で191件実施しました。

運営面では、外来は1日当りの患者数1,340人（予算1,339人、前年度1,354人）1人当りの診療単価29,101円（予算27,490円、前年度27,706円）となりました。入院は、1日当りの患者数555人（予算533人、前年度546人）1人当りの診療単価84,352円（予算83,485円、前年度83,772円）となりました。新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、前年度を上回る結果となりました。

今後も診療機能の向上はもちろんのこと、業務改善やタスクシフティング等による働き方改革への対応を続けていきます。また、引き続き新型コロナウイルス感染症患者の治療と感染拡大防止に取り組み、ポストコロナを見据えた病院経営の更なる健全化を行います。地域医療の中核を担う基幹病院として、地域住民に安全で安心できる医療・保健・福祉サービスを提供して参ります。

令和6年10月1日

病院長 服部 直樹



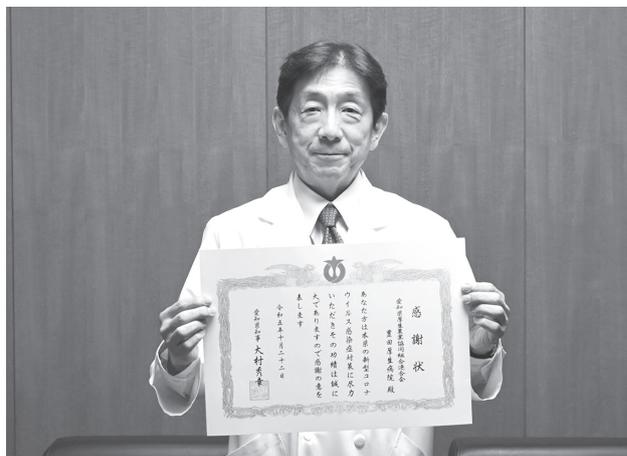
4月 無痛分娩開始



5月 昨年に続き病院敷地内にてヤギが除草開始



9月 病院コンシェルジュ導入



10月 新型コロナウイルスの医療体制に貢献したとして愛知県より表彰



10月 厚生連球技大会にてバレー部準優勝



11月 MRI・PET/CT更新



12月 定位放射線治療装置を導入



1月 能登半島地震被災地に向けDMAT 1 隊目が出発



1月 能登半島地震被災者への救護活動を終え、DMAT 2 隊目が帰還



2月 第12回愛知メディカルラリーに参加し優勝



2月 第25回市民公開講座を開催



3月 定年退職者送る会

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
 豊田厚生病院
 私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、使いやすさと安心を大切に、地域の人たちと共に歩みます

カモメイト Vol.99
 spring
 ご自由にお持ちください



特集 | アルツハイマー型認知症

INDEX

P2 アルツハイマー型認知症

P4 プレミアム脳ドック誕生

P5 豊田厚生病院で出産しませんか？

P6 連携医紹介

- 豊田しんまち耳鼻咽喉科
- ぎなげクリニック
- きたまちクリニック
- 早川内科医院
- 小石川医院
- 加藤内科医院

P8 news

take free

豊田厚生病院 広報誌
 豊田厚生 Navi

特集：乳がん検診・子宮頸がん検診



P2 — 乳がん検診・子宮頸がん検診

P5 — おかげさまで100号を迎えました

P6 — 夜のトイレで困っていませんか？

P7 — 連携医療機関紹介

- さいとう整形外科
- 岡本乳腺クリニック

P8 — news

Vol.100
 2023/summer
 ご自由にお持ちください

take free

豊田厚生病院 広報誌
 豊田厚生 Navi

特集：円形脱毛症治療



P2 — 円形脱毛症治療

P4 — 形成外科 ボトックス注射

P5 — 保体館のおはなし

P6 — 患者満足度アンケート調査結果

P7 — コンシェルジュサービスがはじまりました

P7 — 連携医療機関紹介

- こばやし内科クリニック

P8 — news

Vol.101
 2023/autumn
 ご自由にお持ちください

take free

豊田厚生病院 広報誌
 豊田厚生 Navi

特集：放射線治療・画像検査



P2 — 新年のごあいさつ

P3 — 先生のおはなし

P4 — 放射線治療・画像検査

P6 — 当院の無痛分娩のご案内

P6 — ニューボーンサポートサービス はじめました

P7 — みなさまの地域のかかりつけ医を紹介します

- かみや外科クリニック
- 成瀬内科

P8 — ニュース

Vol.102
 2024 / winter
 ご自由にお持ちください

目次

豊田厚生病院理念	1
基本方針、患者の権利と責任	2
発刊にあたり	3
主な出来事	4
広報誌院外版	6
豊田厚生病院概要	9
豊田厚生病院組織図	11
豊田厚生病院会議・委員会組織図	12
医師名簿	13
役付職員名簿	15
職員数	16
令和5年度事業計画	17

I. 医療実績

1. 診療科別延患者数 及び診療収入

1) 科別延患者数	21
2) 科別診療収入	22

2. 市町村別利用状況

1) 市町村別外来利用状況	23
2) 市町村別入院利用状況	24

3. 年齢別利用状況

1) 年齢別外来利用状況	25
2) 年齢別入院利用状況	25

4. 救命救急センター外来利用状況

1) 診療科別患者数	26
2) 月別患者数	27
3) 救急車受入状況	27

5. 手術件数

30

6. 分娩数・死亡数・剖検数

31

7. 退院患者統計

1) 診療科別・月別退院患者数	32
2) 診療科別・死亡退院患者数	32
3) 地域別・年齢階層別退院患者数	33
4) 疾病別・診療科別退院患者数	35
5) 診療科別・在院期間別退院患者数	36

6) 疾病別・在院期間別退院患者数	37
7) 疾病別・年齢階層別退院患者数	38
8) 診療科別疾患順位	40
8. 剖検数	44
II. 部署別業務実績	
1. 診療放射線室	47
2. 臨床検査室	52
3. リハビリテーション室	56
4. 臨床工学室	58
5. 栄養管理室	61
6. 薬剤部	63
7. 看護部	68
8. 医療安全管理部	72
9. 感染制御部	78
10. 地域医療連携課（地域医療連携係）	82
11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）	86
12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）	89
13. 豊田厚生訪問看護ステーション	92
14. 居宅介護支援事業所（豊田厚生介護保険センター）	95
15. 豊田厚生地域包括支援センター	97
16. 健康管理室	100
III. 職員活動	
1. 研究業績	104
2. 院内研修活動	
1) 全体講演会・全体発表会	131
2) 研修会・勉強会	132
IV. 委員会活動	
1. 委員会一覧	137



豊田厚生病院概要

令和6年3月1日現在

■ 名称

愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院

■ 所在地

〒470-0396 愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL(0565)43-5000 FAX(0565)43-5100

■ 設立年月日

昭和22年5月1日（豊田厚生病院開院 平成20年1月1日）

■ 病床数

606床（一般600床・感染症6床）

■ 標榜科目 40科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、血液内科、アレルギー科、緩和ケア内科、感染症内科、精神科、小児科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、臨床検査科、病理診断科、外科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、小児外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓外科、救急科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、ペインクリニック外科、歯科口腔外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、皮膚科、産婦人科、リハビリテーション科、化学療法内科

■ 専門外来 37科

血液内科、腎臓外来、糖尿病外来、脳神経内科、小児循環器科、小児神経科、小児血液科、小児アレルギー科、小児外科、ストーマ外来、内分泌外来、肝臓外来、ペースメーカークリニック、血管外科、膠原病外来、インプラント外来、助産師外来、乳腺外来、婦人科腫瘍外来、糖尿病フットケア外来、女性専門外来、小児腎臓外来、ボトックス外来、緩和ケア外来、肥満外来、セカンドオピニオン外来、ペインクリニック、胃瘻交換外来、母乳外来、耳鼻いんこう科腫瘍外来、糖尿病療養指導士外来、リウマチ外来、不整脈外来、骨粗鬆症外来、心不全外来、側彎症外来、無痛分娩外来

■ 関連施設

豊田厚生訪問看護ステーション、豊田厚生地域包括支援センター、豊田厚生居宅介護支援事業所、加茂看護専門学校

■ 施設認定

救急告示病院、病院群輪番制病院（二次）、臨床研修病院（医科）、臨床研修施設（歯科）、エイズ治療協力病院、難病医療協力病院、地域がん診療連携拠点病院、地域中核災害拠点病院、肝疾患専門医療機関、救命救急センター、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関、脳死下臓器提供施設、DMAT指定医療機関、地域医療支援病院、DPC特定病院群（旧：DPCⅡ群病院）、がんゲノム医療連携病院、第二種感染症指定医療機関、保険医療機関、労災保険指定医療機関、生活保護法指定医療機関、結核医療機関、更生・育成医療指定、養育医療指定、原爆医療指定（一般・認定疾病）、二次健康診断指定医療機関、病院機能評価認定病院、全国循環器撮影研究会認定被ばく線量低減推進施設、日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設、マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設、卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院、人間ドック健診施設機能評価認定病院、医療被ばく低減施設、母体保護法指定医療機関（医師研修機関）、出生前検査認証制度等運営委員会認定NIPTを実施する医療機関（連携施設）、日本高気圧環境・潜水医学会認定施設、日本栄養療法推進協議会NST稼働施設、日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設、日本適合性認定協会ISO15189認定施設、日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A）

制度) 認定施設、日本脳卒中学会一次脳卒中センター、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設、関連10学会構成胸部ステントグラフト実施施設、関連10学会構成腹部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設、日本脊椎脊髄病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設、腹腔鏡下肝切除術日本消化器外科学会連携施設、IMPELLA補助循環器用ポンプカテーテル実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術施設基準認定施設、日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設

■ 管 理 者

病院長	服部 直樹	薬剤部長	三宅 芳男
副院長	梶田 光春	診療協同部長	小澤 功
副院長	篠田 政典	看護部長	林 眞千子
副院長	久留宮康浩	事務部長	服部 学
副院長	水野 敬輔		
副院長	橋本 良博		

■ 学会認定

日本神経学会専門医制度教育施設、日本認知症学会専門医制度教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定専門研修、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設、日本精神科学会専門医制度研修施設、日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本乳癌学会専門医制度認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携)、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設、日本食道外科専門医準認定施設、日本胃癌学会認定施設B、日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本リウマチ学会教育施設、呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、日本女性医学会専門医制度認定研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本核医学会専門医教育病院、日本麻酔科学会麻酔科標榜のための研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本感染症学会研修施設、日本口腔外科学会認定研修施設、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度指定研修施設、日本口腔科学会認定医制度研修施設、日本病理学会研修認定施設B、日本臨床細胞学会教育研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本病院会病院総合医育成プログラム認定施設、人間ドック健診専門医暫定研修施設

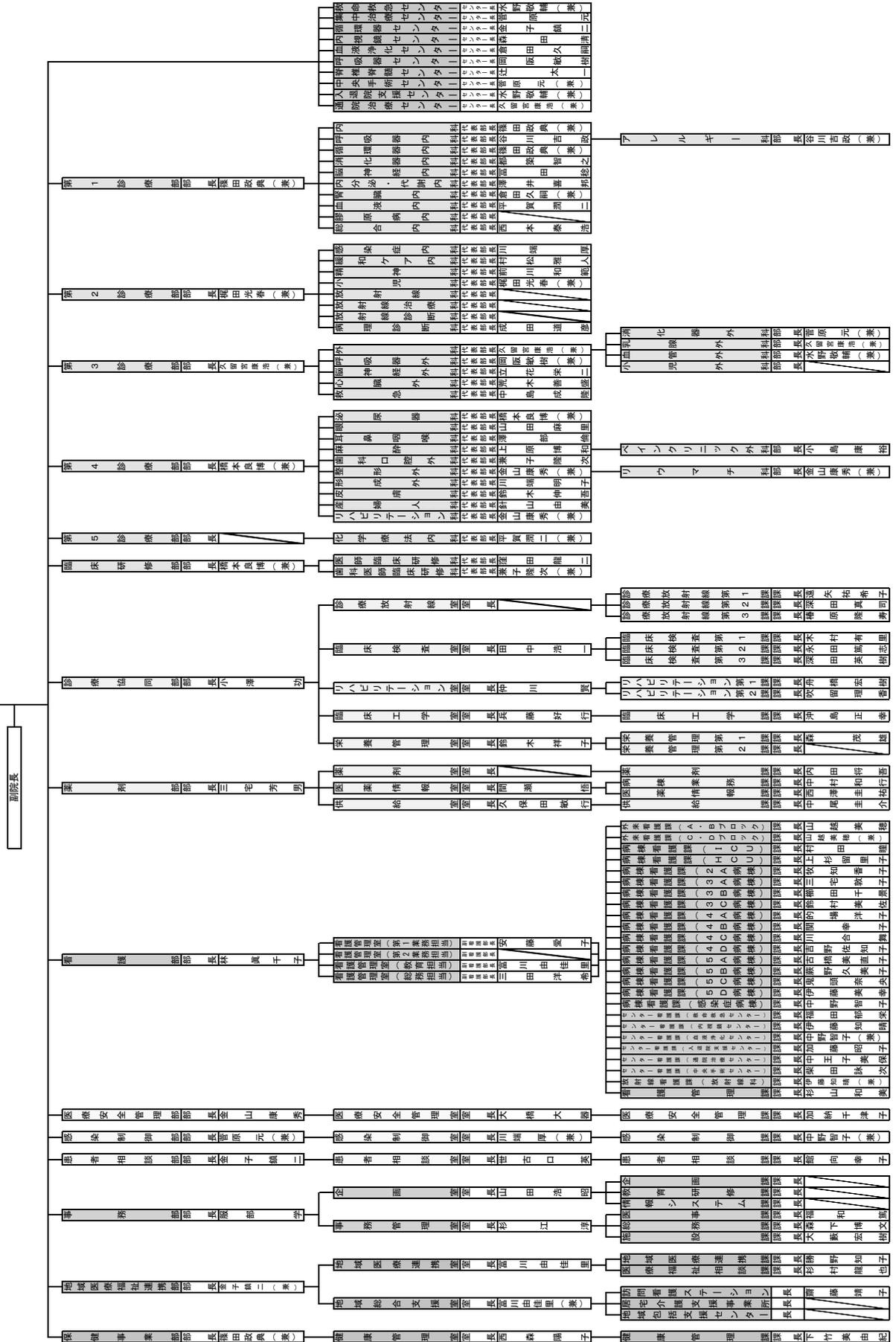


豊田厚生病院 組織図

令和6年3月1日現在

豊田厚生病院組織図

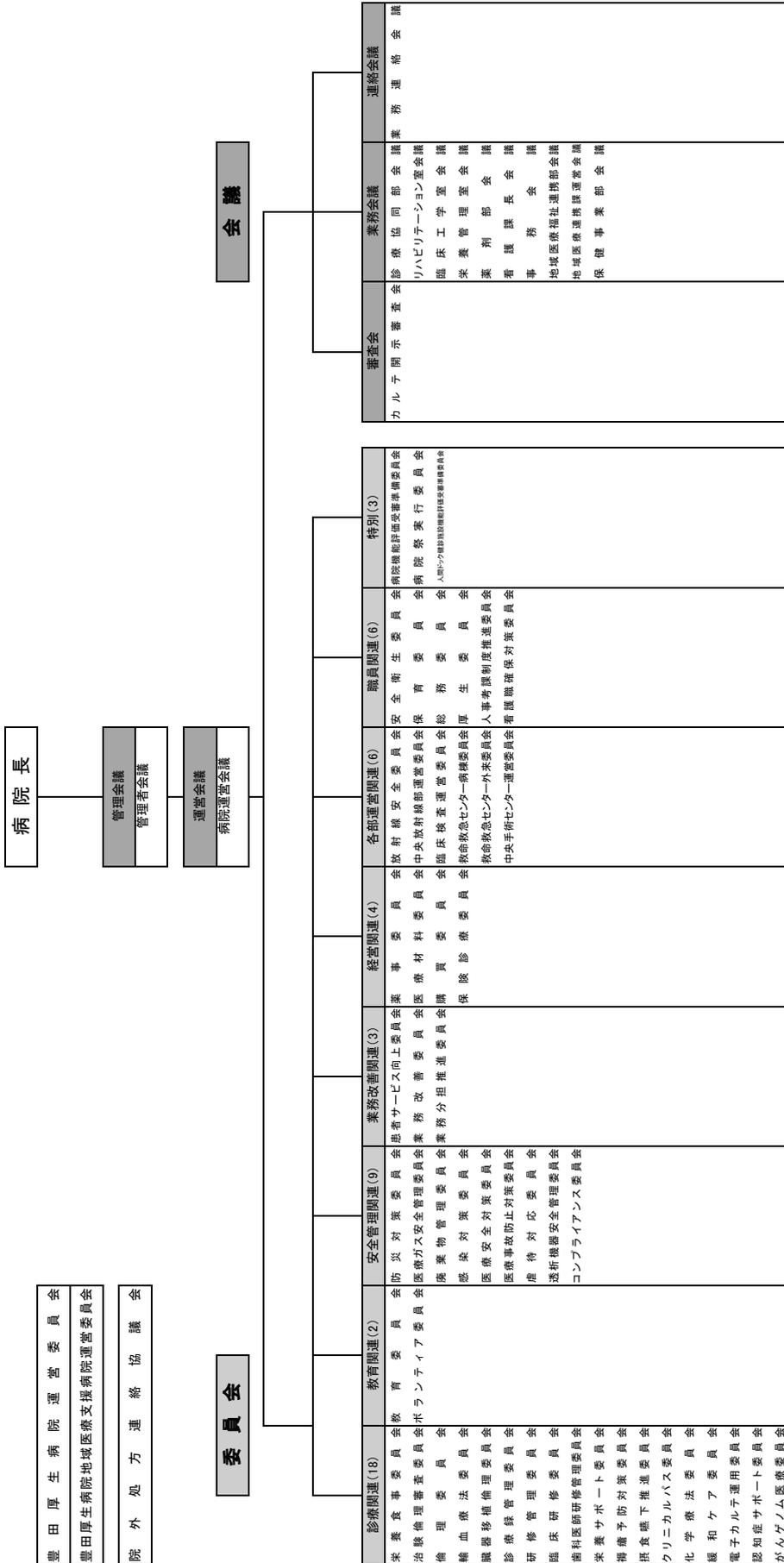
病院長 藤野直樹



豊田厚生病院 会議・委員会 組織図

令和6年3月1日現在

豊田厚生病院 会議・委員会組織図



医師名簿

令和6年3月1日現在

職名	氏名	診療科
病院長	服部 直樹	脳神経内科
加茂看護専門学校長兼豊田厚生病院副院長兼第2診療部長兼小児科代表部長	梶田 光春	小児科
副院長兼第1診療部長兼保健事業部長兼内科代表部長兼循環器内科代表部長	篠田 政典	循環器内科
副院長兼救命救急センター長兼入退院支援センター長兼血管外科部長	水野 敬輔	外科
副院長兼第3診療部長兼通院治療センター長兼外科代表部長兼乳腺外科部長	久留宮 康浩	外科
副院長兼第4診療部長兼臨床研修部長兼泌尿器科代表部長	橋本 良博	泌尿器科
患者相談部長兼地域医療福祉連携部長兼循環器センター長	金子 鎮二	循環器内科
医師臨床研修科代表部長兼循環器内科外来部長	窪田 龍二	循環器内科
医療安全管理部医療安全管理室長(代表部長待遇)兼循環器内科CCU部長	大橋 大器	循環器内科
循環器内科病棟部長	藤田 雅也	循環器内科
心血管治療部長	壘 陽祐	循環器内科
循環器内科外来医長	羽賀 智明	循環器内科
医員	中込 敏文	循環器内科
医員	堀 仁美	循環器内科
医員	佐橋 智博	循環器内科
医員	櫻井 礼子	循環器内科
医員	岡本 峻幸	循環器内科
医員	早川 輝	循環器内科
医員	桐谷 元樹	循環器内科
医員	大垣内 琢也	循環器内科
消化器内科代表部長	都築 智之	消化器内科
内視鏡センター長兼消化器内科病棟部長兼化学療法内科部長	森田 清	消化器内科
消化器内視鏡部長	竹内 淳史	消化器内科
消化器内科病棟医長	高士ひとみ	消化器内科
消化器内科外来医長	内田 元太	消化器内科
内視鏡センター医長	古根 聡	消化器内科
医員	近藤 大也	消化器内科
医員	小阪 亮介	消化器内科
医員	田ヶ原 俊徳	消化器内科
呼吸器内科代表部長兼アレルギー科部長	谷川 吉政	呼吸器内科
呼吸器内視鏡部長	指尾 豊和	呼吸器内科
呼吸器内科医長	中原 義夫	呼吸器内科
医員	柴田 寛史	呼吸器内科
医員	林 かずみ	呼吸器内科
医員	伊東 幸祐	呼吸器内科
血液浄化センター長兼腎臓内科代表部長	倉田 久嗣	腎臓内科
腎臓内科病棟部長	吉岡 知輝	腎臓内科
医員	渡邊 絢史	腎臓内科
医員	神田 亜希子	腎臓内科
医員	斉藤 絢恵	腎臓内科
医員	山田 拓弥	腎臓内科
脳神経内科代表部長	富田 稔	脳神経内科
脳神経内科外来部長	高橋 美江	脳神経内科
脳神経内科病棟医長	池田 昇平	脳神経内科
医員	佐藤 萌美	脳神経内科
医員	武重 万里子	脳神経内科
医員	大村 政人	脳神経内科
医員	市川 慶	脳神経内科
総合内科代表部長兼救命救急副センター長	西本 泰浩	総合内科
総合内科医長	渡口 賢隆	総合内科
総合内科病棟医長	加藤 誓子	総合内科

職名	氏名	診療科
医員	伊藤 怜花	総合内科
医員	山田 崇義	総合内科
内分泌・代謝内科代表部長	澤井 喜邦	内分泌・代謝内科
内分泌・代謝内科医長	増田 富	内分泌・代謝内科
医員	戸松 瑛介	内分泌・代謝内科
医員	玉腰 徳子	内分泌・代謝内科
医員	関本 ちひろ	内分泌・代謝内科
血液内科代表部長兼化学療法内科代表部長	平賀 潤二	血液内科
血液内科病棟医長	原田 靖彦	血液内科
医員	寺島 浩史	血液内科
緩和ケア内科代表部長	村松 雅人	緩和ケア内科
感染症内科代表部長兼感染制御室長	川端 厚	感染症内科
医員	小林 優大	内科
医員	鈴木 日向	内科
医員	須川 耀祥	内科
医員	松波 亜佐子	内科
医員	橋本 明香里	内科
精神科代表部長	前川 和範	精神科
精神科医長	渡邊 周一	精神科
小児科病棟部長	生駒 雅信	小児科
小児科外来部長	武田 将典	小児科
医員	柳澤 彩乃	小児科
感染制御部長兼中央手術センター長兼集中治療センター長兼消化器外科部長	菅原 元	外科
患者相談部患者相談室長兼外科外来部長	世古口 英	外科
上部消化器外科部長	井上 昌也	外科
下部消化管外科部長	加藤 健宏	外科
血管外科医長	秋田 直宏	外科
消化器外科医長	南 貴之	外科
医員	牛田 雄太	外科
医員	権田 紘丈	外科
医員	山口 真和	外科
医員	等々力 広菜	外科
医員	浜辺 健太	外科
医員	中根 有登	外科
医員	加藤 真由子	外科
医員	石田 航大	外科
医員	岩田 侑也	外科
医員	小池 愛理子	外科
医療安全管理部長兼整形外科代表部長兼リハビリテーション代表部長兼リウマチ部長	金山 康秀	整形外科
脊椎脊髄センター長	辻 太一	整形外科
整形外科病棟部長	大田 恭太郎	整形外科
整形外科医長	服部 恭典	整形外科
医員	前田 真崇	整形外科
医員	館 寛人	整形外科
医員	高山 真央	整形外科
医員	淵野 孝明	整形外科
形成外科代表部長	川端 明子	形成外科
医員	石塚 直太	形成外科
医員	大和 義崇	形成外科
脳神経外科代表部長	立花 栄二	脳神経外科
脳神経外科病棟部長	住友 正樹	脳神経外科
脳神経外科病棟医長	河村 彰乃	脳神経外科
医員	宗宮 大輝	脳神経外科
医員	渡邊 亨	脳神経外科
医員	安藤 祐人	脳神経外科
呼吸器センター長兼呼吸器外科代表部長	岡阪 敏樹	呼吸器外科
医員	伊藤 俊成	呼吸器外科
医員	石谷 紗希	呼吸器外科

職名	氏名	診療科
医員	秋葉 嘉将	呼吸器外科
心臓外科代表部長	荒木 善盛	心臓外科
心臓外科医	野田 美香	心臓外科
医員	小林 明裕	心臓外科
医員	佐久本 一樹	心臓外科
医員	川口 鎮	心臓外科
皮膚科代表部長	鈴木 伸吾	皮膚科
医員	榊原あゆみ	皮膚科
医員	竹中 花予	皮膚科
医員	中根 啓允	皮膚科
泌尿器科内視鏡部長	宇佐美雅之	泌尿器科
泌尿器科腫瘍部長	小林 大地	泌尿器科
医員	東 凌平	泌尿器科
医員	名里 瑛美	泌尿器科
医員	岩瀬 豊	泌尿器科
産婦人科代表部長	針山 由美	産婦人科
産婦人科病棟部長	新城加奈子	産婦人科
産婦人科外来部長	新保 暁子	産婦人科
医員	神谷知都世	産婦人科
医員	堂山 瑤	産婦人科
医員	田中梨紗子	産婦人科
眼科代表部長	山田 麻里	眼科
医員	加藤 房枝	眼科
医員	高野 千夏	眼科
医員	杉山 寛明	眼科
医員	北条 貴広	眼科
耳鼻咽喉科代表部長	澤部 倫	耳鼻咽喉科
医員	丹羽 正樹	耳鼻咽喉科
医員	森 浩紀	耳鼻咽喉科
医員	三田 直弥	耳鼻咽喉科
放射線診断科部長	櫻井 悠介	放射線診断科
放射線診断科核医学診断医	古橋 尚博	放射線診断科
医員	林 勇気	放射線診断科
医員	竹原 有美	放射線診断科
医員	竹下 祥敬	放射線科
麻酔科代表部長	上原 博和	麻酔科
ペインクリニック外来部長	小島 康裕	麻酔科
医員	岩 伶	麻酔科
医員	伊藤 雅人	麻酔科
医員	酒井 博生	麻酔科
医員	上甲 利南	麻酔科
医員	川口 里奈	麻酔科
医員	水野 佑哉	麻酔科
医員	佐々木 和磨	麻酔科
医員	溝口 瑛心	麻酔科
医員	丸山 航平	麻酔科
医員	吉田 英樹	麻酔科
歯科口腔外科代表部長兼 歯科医師臨床研修科代表部長	兼子 隆次	歯科口腔外科
口腔外科外来医	河合 孝真	歯科口腔外科
医員	澤木 廉	歯科口腔外科
医員	伊藤 大泰	歯科口腔外科
医員	石原 拓朗	歯科口腔外科
救急科代表部長兼救命救急副センター長	中島 成隆	救急科
救急科外来医	竹村 元太	救急科
医員	吉田 健一郎	救急科
病理診断科代表部長	成田 道彦	病理診断科
組織管理部	山下 依子	病理診断科
研修医 2年次	前野 有美	医師臨床研修科
研修医 2年次	足立 涼輔	医師臨床研修科
研修医 2年次	市野 貴大	医師臨床研修科
研修医 2年次	稲垣 智也	医師臨床研修科
研修医 2年次	笠原 史帆	医師臨床研修科

職名	氏名	診療科
研修医 2年次	鈴木 杏奈	医師臨床研修科
研修医 2年次	高木 宏輔	医師臨床研修科
研修医 2年次	田島 美咲	医師臨床研修科
研修医 2年次	野本大二郎	医師臨床研修科
研修医 2年次	藤澤 建太	医師臨床研修科
研修医 2年次	牧野 良祐	医師臨床研修科
研修医 2年次	松山 怜奈	医師臨床研修科
研修医 2年次	山岸 昂太郎	医師臨床研修科
研修医 2年次	吉川 尚吾	医師臨床研修科
研修医 2年次	加納 夏実	医師臨床研修科
研修医 1年次	五十嵐 達哉	医師臨床研修科
研修医 1年次	小早川 隼輝	医師臨床研修科
研修医 1年次	酒井 颯大	医師臨床研修科
研修医 1年次	柴田 光輝	医師臨床研修科
研修医 1年次	白石 洋介	医師臨床研修科
研修医 1年次	墨 隆紘	医師臨床研修科
研修医 1年次	高橋 泰樹	医師臨床研修科
研修医 1年次	中川 竣介	医師臨床研修科
研修医 1年次	中島 陸	医師臨床研修科
研修医 1年次	日比 大輔	医師臨床研修科
研修医 1年次	古井 香	医師臨床研修科
研修医 1年次	宮澤 実里	医師臨床研修科
研修医 1年次	森田 絵利加	医師臨床研修科
研修医 1年次	上手 万里	医師臨床研修科

役付職員名簿

令和6年3月1日現在

◆診療放射線室

部長	小澤 功
課長	遠矢祐希子
課長	深田 真司
課長	椿原 隆寿
係長	原田 和幸
係長	近藤 千晃
係長	鷹羽 正悟
係長	伊藤 友彰
係長	柴田 英輝
係長	阪口 明
係長	小林 晋也

◆臨床検査室

室長	田中 浩一
課長	木村 有里
課長	永田 篤志
課長	深田 英樹
係長	蒲澤 康晃
係長	熊谷 美希
係長	酒巻 尚子
係長	永田 悠起
係長	黒木 雅子
係長	藤田 啓介
係長	宮地 文子
係長	高橋 礼子

◆リハビリテーション室

室長	仲川 賢
課長	舟橋 宏樹
課長	吹留 理香
係長	岩附 史明
係長	足立 大典
係長	鬼頭 有子
係長	畑 康夫

◆臨床工学室

室長	兵藤 好行
課長	沖島 正幸
係長	辻川 圭亮
係長	酒出 篤弥
係長	小川 正博
係長	西山 和芳

◆栄養管理室

室長	鈴木 祥子
課長	森 茂雄
係長	脇阪 涼子
係長	江口真奈美
係長	岩本 拓郎

◆薬剤部

課長	三宅 芳男
室長	間瀬 悟
室長	久保田敏行
課長	内田 将吾
課長	中村 和行
課長	西澤 圭祐
課長	中尾 圭介
係長	各務さとみ
係長	榎原 崇芳

係長	近藤 有
係長	加藤 恭平
係長	酒井 幹康
係長	戸田 州俊
係長	横山 尚美
係長	古田 美里

◆看護部

看護部長	林 眞千子	
看護部副看護部長	富川由佳里	
看護部副看護部長	安藤 愛子	
看護部副看護部長	三田 洋希	
課長	ABCDブロック	山越 美穂
課長	I C U	村田 瞳
課長	H C U	上杉留里子
課長	2 A病棟	牧 知香子
課長	3 A病棟	三宅 敦子
課長	3 B病棟	櫛田 千景
課長	3 C病棟	鈴木 美佐
課長	4 A病棟	的場 洋子
課長	4 B病棟	関 幸子
課長	4 C病棟	川合 舞
課長	4 D病棟	吉野佐知子
課長	5 A病棟	古橋美直子
課長	5 B病棟	蕨野久美子
課長	5 C病棟	鬼頭 奈央
課長	5 D病棟	伊藤 美幸
課長	中央手術センター	柴田 詠次
課長	救命救急センター	福田 郁栄
課長	内視鏡センター	伊藤 知晴
課長	血液浄化センター	中野 智子
課長	入退院支援センター	加藤 昭子
課長	通院治療センター	中王子美保
課長	看護管理課	杉山 和美
係長	Aブロック	岩永 香
係長	Bブロック	浅井 陽子
係長	Cブロック	鈴木 幸子
係長	Dブロック	佐藤 修秀
係長	I C U	山本かおり
係長	I C U	宇佐見 彩
係長	H C U	山崎 聖絵
係長	H C U	伊藤さとみ
係長	H C U	黒木 有花
係長	2 A病棟	吉田 栄里
係長	2 A病棟	戸田 礼美
係長	3 A病棟	鈴木 尚子
係長	3 A病棟	岡野 純子
係長	3 B病棟	森 めぐみ
係長	3 B病棟	大牟田智佳子
係長	3 C病棟	石川 雅恵
係長	3 C病棟	地引 雅子
係長	4 A病棟	加藤 敏子
係長	4 A病棟	森下美紗子
係長	4 A病棟	富岡 祐衣
係長	4 B病棟	岩屋奈央子
係長	4 B病棟	伊藤亜利沙
係長	4 C病棟	稲熊 幸子
係長	4 C病棟	豊田 恵
係長	4 D病棟	小澤 秀子
係長	4 D病棟	武山 忍
係長	5 A病棟	村井奈津子
係長	5 A病棟	渡部 志保

係長	5 B病棟	渡邊かおる
係長	5 B病棟	鈴木 香澄
係長	5 C病棟	藤原民智代
係長	5 D病棟	小野田結花
係長	中央手術センター	竹内さより
係長	中央手術センター	伊藤真由美
係長	放射線看護課	河村 恵子
係長	救命救急センター	岩下 香代
係長	内視鏡センター	杉浦 公重
係長	入退院支援センター	米澤 康子
係長	看護管理課	山内 悦子
係長	看護管理課	武藤 聡恵

◆事務部

部長	服部 学
企画室長	山田 浩昭
企画係長	目谷 怜士
医療情報係長	桑原 涼介
診療情報係長	岡田 高明
教育研修係長	國定賢一郎
事務管理室長	杉江 淳
医事課長	福和 篤
医療第一係長	金田 麻美
医療第二係長	柴田孝太郎
医療第三係長	酒井 良英
総務課長	森下 博文
庶務係長	野々山章斗
経理係長	内川 雄太
施設課長	大藪 宏樹
エネルギーセンター係長	近藤 隼

◆地域医療福祉連携部

地域医療連携課長	勝野 知子
地域医療連携係長	白川 尚毅
在宅支援コーディネーター係長	古賀 智美
医療福祉相談課長	杉村 龍也
医療福祉相談係長	八木 隆太
がん相談支援係長	片寄智香子
訪問看護ステーション訪問看護係長	阿部 美香
訪問看護ステーション長	齋藤 靖子
居宅介護支援係長	清水 浩子
地域包括支援センター係長	小林 宏美

◆医療安全管理部

課長	加納千津子
----	-------

◆感染制御部

課長	中野 智子
係長	駒井 博子

◆患者相談部

課長	館向 幸子
----	-------

◆保健事業部

室長	西森 陽子
課長	下竹美由紀
係長	浦野美和子
係長	石原 清美
係長	原 明子

職員数

令和6年3月1日現在

職種		年度	令和6年	令和5年	備 考	
常勤職員	医師		195	198	研修医29名含む	
	医療技術職	薬剤師	52	54		
		診療放射線技師・医学物理士	36	36		
		臨床検査技師	59	60		
		理学療法士	26	26		
		作業療法士	8	8		
		言語聴覚士	5	5		
		管理栄養士	10	12	栄養士	
		臨床工学技士	20	21		
		ソーシャルワーカー	13	14		
		歯科衛生士	4	4		
		その他	6	6	臨床心理士・視能訓練士	
	小 計		239	246		
	看護部門	保健師		6	6	
		助産師		17	17	
		看護師		632	656	
		准看護師		5	5	
		看護助手		54	53	
		小 計		709	737	
	その他	事務員		125	127	
協助部門補助		6	6	検査科・放射線科補助等		
管理技術者		34	33	ボイラ技士、保育士、調理師等		
管理補助者		10	10	調理員等		
小 計		175	176			
合 計		1,318	1,357			
非常勤職員	医師		53	69		
	看護部門		54	48	看護助手含む	
	その他		37	44		
	合 計		144	161		
総 合 計		1,462	1,518			



令和5年度 豊田厚生病院事業計画

1. 環境認識

西三河北部医療圏では2025年までは人口は増加するが、65歳以上の増加率が高く高齢化が急速に進む医療圏と認識されている。この地域では医療需要の高い年齢層が増加していくことで医療・介護の需要はさらなる増加が見込まれています。

当院は救急救命センターを有し、国指定の地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける「地域の中核病院」として、高度急性期・急性期医療を担い、豊田市の市民病院的な役割を果たすとともに、地域医療支援病院として回復期・慢性期を担う医療機関や診療所等との連携を進めることが求められています。さらに、長引く新型コロナウイルスの対応については行政や近隣の医療機関と連携し地域の医療を崩壊させないように尽力します。

また、当該医療圏は広大なへき地対象地域を抱えているため、医療従事者の確保や適切な救急搬送計画の推進が求められます。

2. 事業方針

高度急性期病院として計画最終年度（令和9年度）に向けて外来患者数の適正化（抑制）と病床利用率の向上に取り組み、西三河北部医療圏の今後の医療需要および地域住民のニーズ応えるため下記を事業方針として取り組む。

- ① 救急・集中治療・がん医療体制及び看護体制の充実
- ② 医療の質向上と医療安全の強化
- ③ 地域医療連携・地域住民との連携強化
- ④ 地域包括ケアシステムの構築と医療・介護連携の強化
- ⑤ 保健事業の充実
- ⑥ 安定的な経営基盤の構築
- ⑦ タスクシフト・ワークシェアを推進し、医師・看護師の業務支援体制を構築

3. 重点事項と実施目標

(1) 医療事業

救急医療・集中治療体制の充実

- ① ICU・HCUの効率的運用
- ② 急性期充実体制加算の維持
- ③ 放射線撮影機器の更新
- ④ 治験業務の院内体制の充実
- ⑤ 入退院支援センター業務の充実
- ⑥ 手術支援ロボットの充実
- ⑦ 豊田・尾三消防本署および各分署との連携強化

がん医療の充実

- ① 地域がん診療連携拠点病院の機能向上
- ② がんゲノム医療連携病院としての機能の充実
- ③ PET-CTの更新
- ④ 放射線治療機器（ライナック）の更新

看護体制の充実

- ① 7対1入院基本料、夜間看護配置換算12対1の安定的運用

(2) 医療の質・安全強化

資格取得の推進

- ① 認定・専門資格取得の推進
- ② 論文・学会発表の推進

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 医療の質向上 | ① クリニカルパスの見直しと適用率向上 |
| | ② 救命救急センター充実（ドクターカー、救急搬送件数向上） |
| 医療安全の充実 | ① インシデント・アクシデントレポート提出の推進 |
| | ② 放射線読影レポート及び病理・細胞診報告書の未読削減 |
| | ③ 医療機器安全管理における研修会の充実 |
| | ④ 感染対策の意識向上に向けた教育 |

（3）地域との連携強化

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 地域医療連携の強化 | ① 行政、地元医師会・薬剤師会、各医療機関等との連携強化 |
| | ② 地域連携パスの推進 |
| | ③ 入院時からの退院調整の実施 |
| | ④ 紹介・逆紹介の推進 |
| 地域団体・住民との連携強化 | ① 地元JAとの連携継続 |
| | ② 市民公開講座の開催 |

（4）介護事業

- | | |
|------------------|--------------------------------------------------|
| 在宅医療・介護の推進 | ① ターミナルケアの充実 |
| | ② 在宅療養支援の推進 |
| 地域包括ケアシステム運用への協働 | ① 豊田市の関連会議への参画 豊田市在宅医療・福祉連携推進
会議・豊田市介護認定審査会 等 |
| | ② 地域の介護支援専門員等との関わり強化 |

（5）保健事業

- | | |
|---------|---------------------------|
| 保健事業の充実 | ① 人間ドック施設機能評価の受審（令和5年12月） |
| | ② 専任医師の確保 |
| | ③ 健診メニューの見直しによる効率化 |

（6）経営管理

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 経営の安定 | ① 紹介・逆紹介の推進 |
| | ② 病床利用率の向上 |
| | ③ DPCデータの分析、係数の向上 |
| | ④ 査定減、返戻対策の強化 |
| | ⑤ 保守点検費用・委託費の見直し |
| 適正な要員管理 | ① 業務量、育成、人件費、加算等を含めた適切な人財確保 |
| | ② 研修医の確保 |
| | ③ 看護師の離職防止 |
| 新たな施設基準の検討 | ① 新たな施設基準取得に向けた検討 |

（7）その他

- | | |
|-----------|--------------------|
| 広報活動の充実 | ① 広報誌・ホームページの充実と開拓 |
| | ② ブランディング向上に向けた検討 |
| 働き方改革への対応 | ① 医師の時間外勤務削減 |
| | ② タスクシフト・ワークシェアの推進 |
| 障がい者雇用の推進 | ① 法定雇用率の達成に向けた取り組み |

I 医療実績

1. 診療科別延患者数及び診療収入

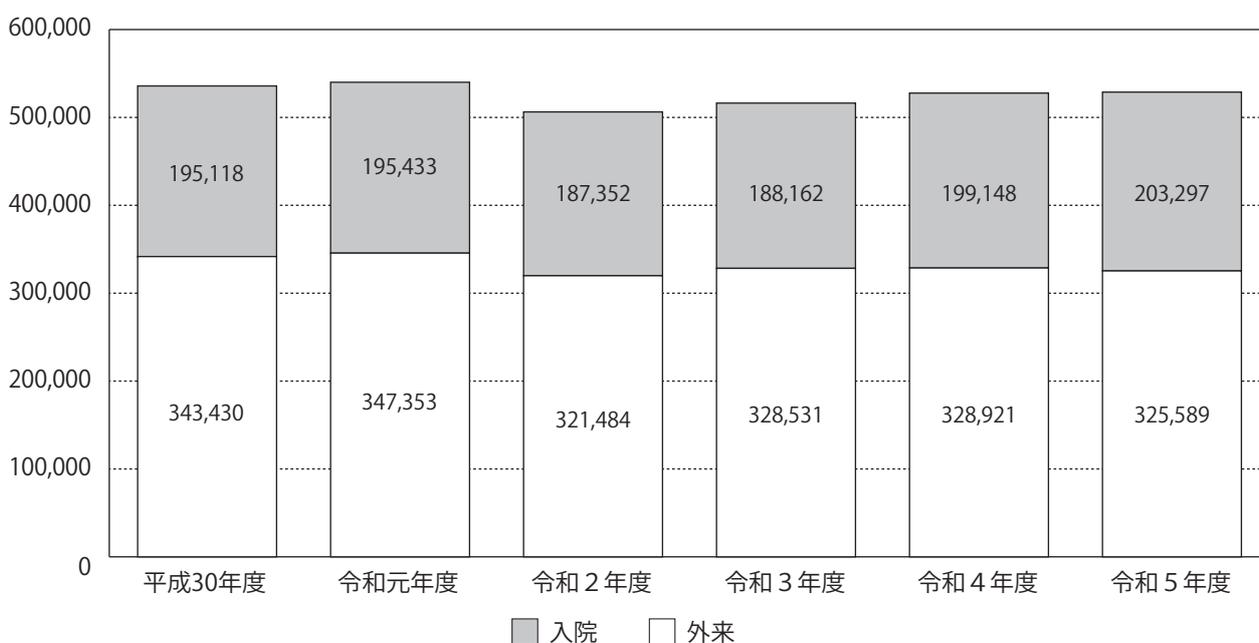
診療日数 外来：243日 入院：366日

1. 科別延患者数

(単位：人)

	外 来			入 院		
	令和5年度	令和4年度	前年対比	令和5年度	令和4年度	前年対比
内 科	128,633	131,247	98.0%	107,418	110,032	97.6%
精 神 科	7,456	7,835	95.2%	-	-	-
小 児 科	9,747	10,228	95.3%	3,626	2,569	141.1%
外 科	22,112	23,151	95.5%	25,657	26,352	97.4%
整 形 外 科	32,390	32,517	99.6%	22,481	18,839	119.3%
形 成 外 科	8,897	8,695	102.3%	1,928	1,997	96.5%
脳 神 経 外 科	7,940	8,204	96.8%	9,161	9,662	94.8%
呼 吸 器 外 科	1,924	2,214	86.9%	2,452	2,169	113.0%
心 臓 外 科	2,486	2,657	93.6%	3,092	2,677	115.5%
皮 膚 科	17,245	17,343	99.4%	1,861	1,439	129.3%
泌 尿 器 科	20,451	19,774	103.4%	9,528	8,304	114.7%
産 婦 人 科	14,936	14,320	104.3%	7,137	6,192	115.3%
眼 科	14,074	13,136	107.1%	2,165	2,617	82.7%
耳 鼻 咽 喉 科	16,184	15,468	104.6%	3,994	3,482	114.7%
放 射 線 科	2,964	4,988	59.4%	-	-	-
麻 酔 科	4,182	3,909	107.0%	84	56	150.0%
歯科口腔外科	13,968	13,235	105.5%	2,713	2,761	98.3%
合 計	325,589	328,921	99.0%	203,297	199,148	102.1%
一 日 平 均	1,340	1,354	99.0%	555	546	101.8%

年度別延患者数 (人)



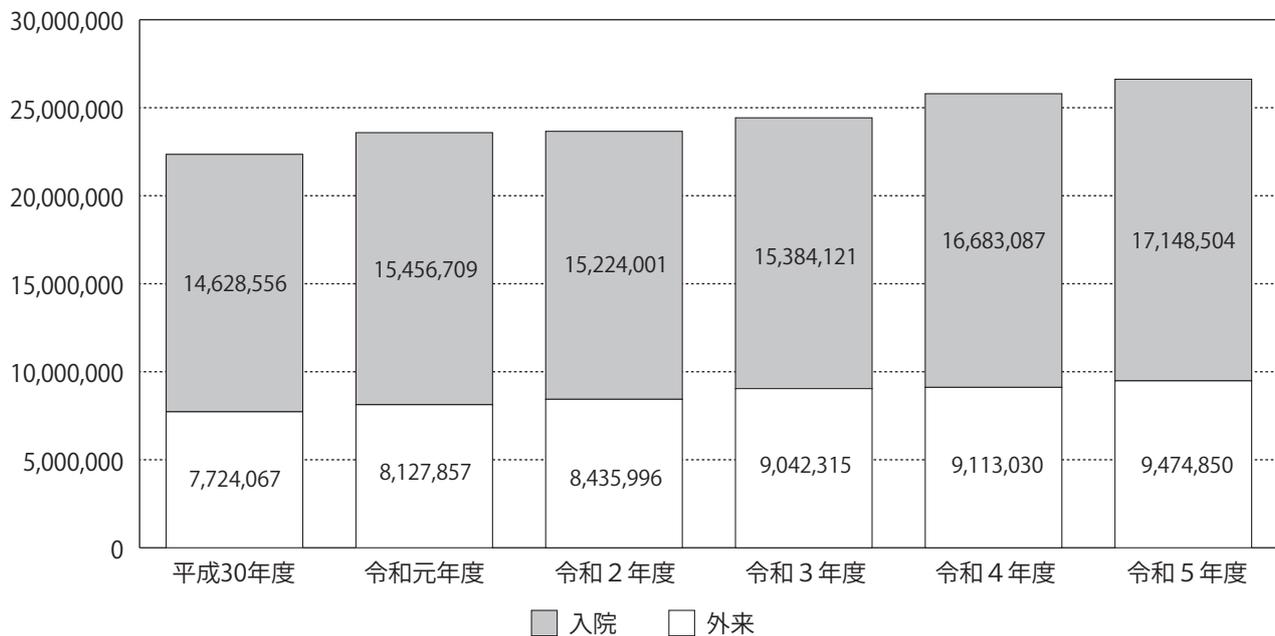
診療日数 外来：243日 入院：366日

2. 科別診療収入

(単位：千円)

	外 来			入 院		
	令和5年度	令和4年度	前年対比	令和5年度	令和4年度	前年対比
内 科	5,212,699	4,927,514	105.8%	8,340,505	8,272,419	100.8%
精 神 科	67,167	71,891	93.4%	—	—	—
小 児 科	135,552	166,343	81.5%	209,054	157,159	133.0%
外 科	1,035,901	1,015,083	102.1%	2,361,260	2,425,385	97.4%
整 形 外 科	669,902	667,181	100.4%	2,146,529	2,118,352	101.3%
形 成 外 科	75,913	79,545	95.4%	135,742	140,358	96.7%
脳 神 経 外 科	123,370	125,235	98.5%	789,755	778,138	101.5%
呼 吸 器 外 科	41,384	104,577	39.6%	326,390	305,638	106.8%
心 臓 外 科	29,633	33,354	88.8%	680,035	517,701	131.4%
皮 膚 科	229,638	215,238	106.7%	92,798	78,341	118.5%
泌 尿 器 科	877,738	785,068	111.8%	669,628	586,995	114.1%
産 婦 人 科	265,883	251,682	105.6%	655,462	600,651	109.1%
眼 科	226,499	207,061	109.4%	210,391	238,847	88.1%
耳 鼻 咽 喉 科	223,229	182,112	122.6%	310,811	268,706	115.7%
放 射 線 科	66,769	103,684	64.4%	—	—	—
麻 酔 科	49,387	47,371	104.3%	42,786	15,785	271.1%
歯科口腔外科	144,186	130,090	110.8%	177,358	178,613	99.3%
合 計	9,474,850	9,113,030	104.0%	17,148,504	16,683,087	102.8%

年度別診療収入（人）



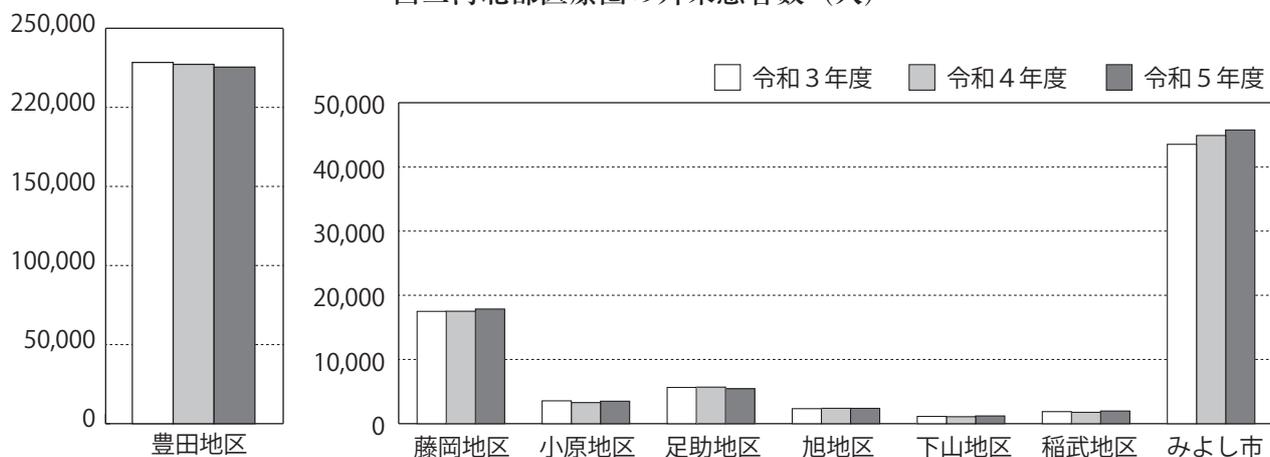
2. 市町村別利用状況

1. 市町村別外来利用状況（延患者数）

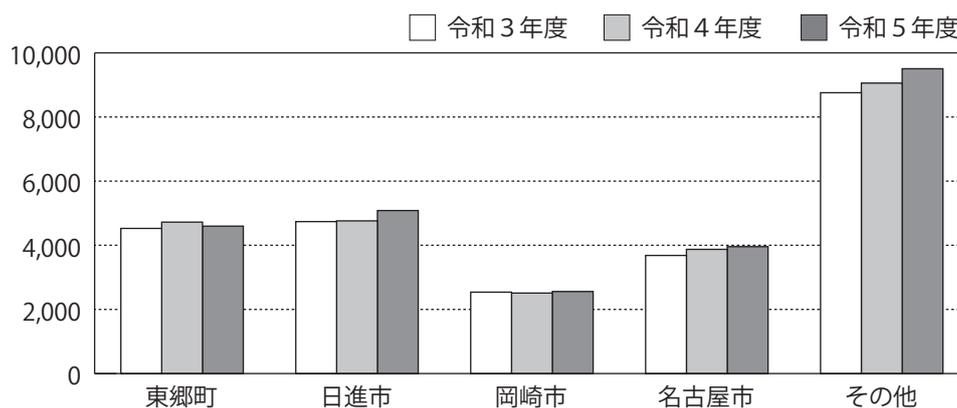
（単位：人）

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
豊田市全域	257,817	78.3%	259,168	78.8%	260,769	79.4%
* 豊田地区	225,467	68.5%	227,440	69.1%	228,744	69.6%
* 藤岡地区	17,857	5.4%	17,511	5.3%	17,492	5.3%
* 小原地区	3,496	1.1%	3,280	1.0%	3,554	1.1%
* 足助地区	5,441	1.7%	5,691	1.7%	5,642	1.7%
* 旭地区	2,385	0.7%	2,394	0.7%	2,333	0.7%
* 下山地区	1,202	0.4%	1,083	0.3%	1,130	0.3%
* 稲武地区	1,969	0.6%	1,769	0.5%	1,874	0.6%
みよし市	45,755	13.9%	44,893	13.6%	43,519	13.2%
小計	303,572	92.2%	304,061	92.4%	304,288	92.6%
東郷町	4,597	1.4%	4,722	1.4%	4,526	1.4%
日進市	5,083	1.5%	4,761	1.4%	4,738	1.4%
岡崎市	2,557	0.8%	2,510	0.8%	2,539	0.8%
名古屋市	3,956	1.2%	3,873	1.2%	3,683	1.1%
その他	9,505	2.9%	9,057	2.8%	8,757	2.7%
小計	25,698	7.8%	24,923	7.6%	24,243	7.4%
合計	329,270	100.0%	328,984	100.0%	328,531	100.0%

西三河北部医療圏の外来患者数（人）



西三河北部医療圏以外の外来患者数（人）

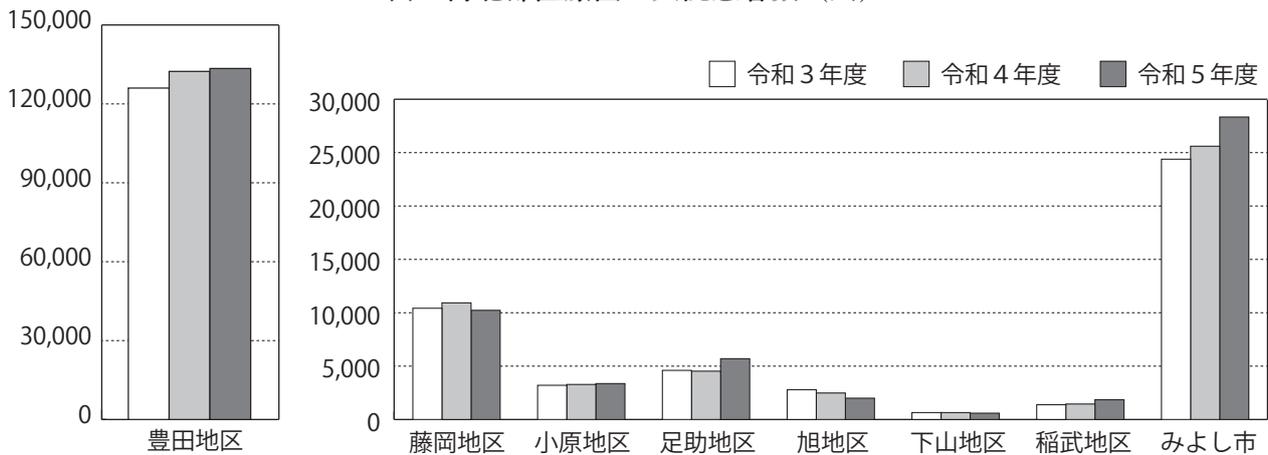


2. 市町村別入院利用状況 (延患者数)

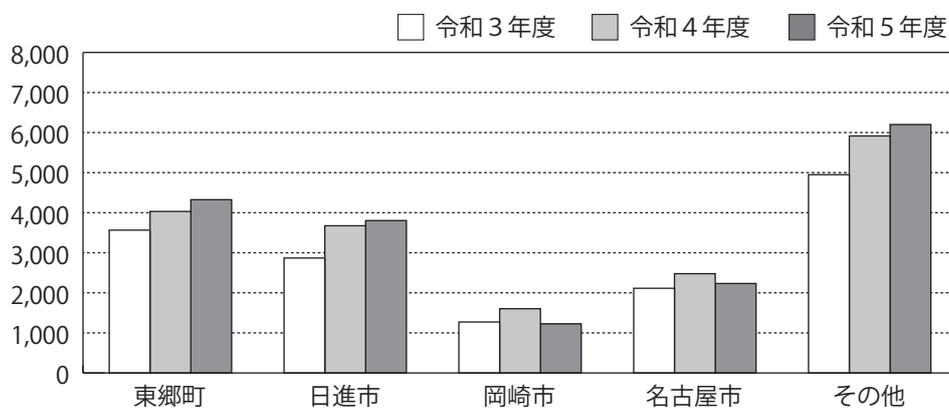
(単位：人)

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
豊田市全域	157,213	77.3%	155,875	78.3%	149,009	79.2%
* 豊田地区	133,479	65.6%	132,555	66.6%	125,956	66.9%
* 藤岡地区	10,230	5.0%	10,928	5.5%	10,423	5.5%
* 小原地区	3,365	1.7%	3,282	1.6%	3,205	1.7%
* 足助地区	5,696	2.8%	4,528	2.3%	4,602	2.4%
* 旭地区	1,997	1.0%	2,483	1.2%	2,790	1.5%
* 下山地区	592	0.3%	648	0.3%	648	0.3%
* 稲武地区	1,854	0.9%	1,451	0.7%	1,385	0.7%
みよし市	28,336	13.9%	25,600	12.9%	24,385	13.0%
小計	185,549	91.3%	181,475	91.1%	173,394	92.2%
東郷町	4,325	2.1%	4,031	2.0%	3,565	1.9%
日進市	3,804	1.9%	3,675	1.8%	2,869	1.5%
岡崎市	1,226	0.6%	1,604	0.8%	1,272	0.7%
名古屋市	2,233	1.1%	2,478	1.2%	2,114	1.1%
その他	6,201	3.0%	5,916	3.0%	4,948	2.6%
小計	17,789	8.7%	17,704	8.9%	14,768	7.8%
合計	203,338	100.0%	199,179	100.0%	188,162	100.0%

西三河北部医療圏の入院患者数 (人)



西三河北部医療圏以外の入院患者数 (人)

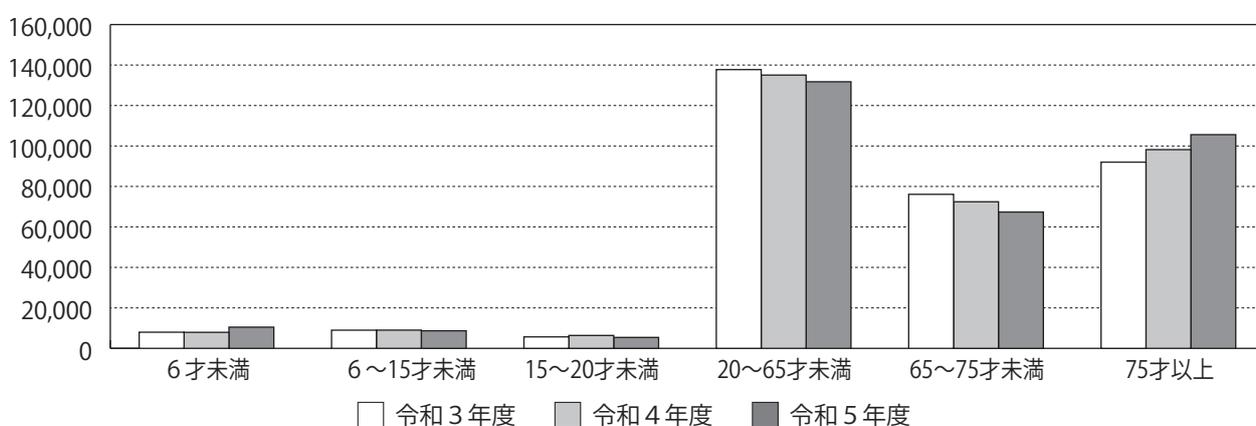


3. 年齢別利用状況

1. 年齢別外来利用状況（延患者数）

（単位：人、％）

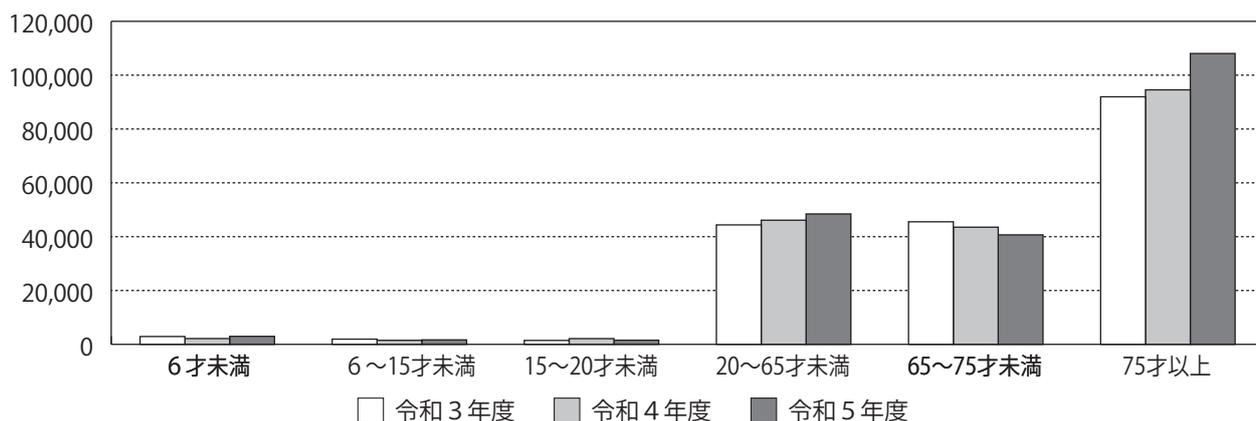
	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	10,483	3.2%	7,927	2.4%	7,987	2.4%
6～15才未満	8,687	2.6%	9,015	2.7%	8,986	2.7%
15～20才未満	5,397	1.6%	6,373	1.9%	5,674	1.7%
20～65才未満	131,740	40.0%	135,037	41.0%	137,750	41.9%
65～75才未満	67,363	20.5%	72,433	22.0%	76,118	23.2%
75才以上	105,600	32.1%	98,199	29.8%	92,016	28.0%
合計	329,270	100.0%	328,984	100.0%	328,531	100.0%



2. 年齢別入院利用状況（延患者数）

（単位：人、％）

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	2,980	1.5%	2,150	1.1%	2,905	1.5%
6～15才未満	1,661	0.8%	1,500	0.8%	1,938	1.0%
15～20才未満	1,546	0.8%	2,122	1.1%	1,458	0.8%
20～65才未満	48,444	23.8%	46,113	24.3%	44,371	23.6%
65～75才未満	40,671	20.0%	43,526	22.9%	45,528	24.2%
75才以上	108,036	53.1%	94,541	49.8%	91,962	48.9%
合計	203,338	100.0%	189,952	100.0%	188,162	100.0%



4. 救命救急センター外来利用状況

1. 診療科別患者数

(単位：人)

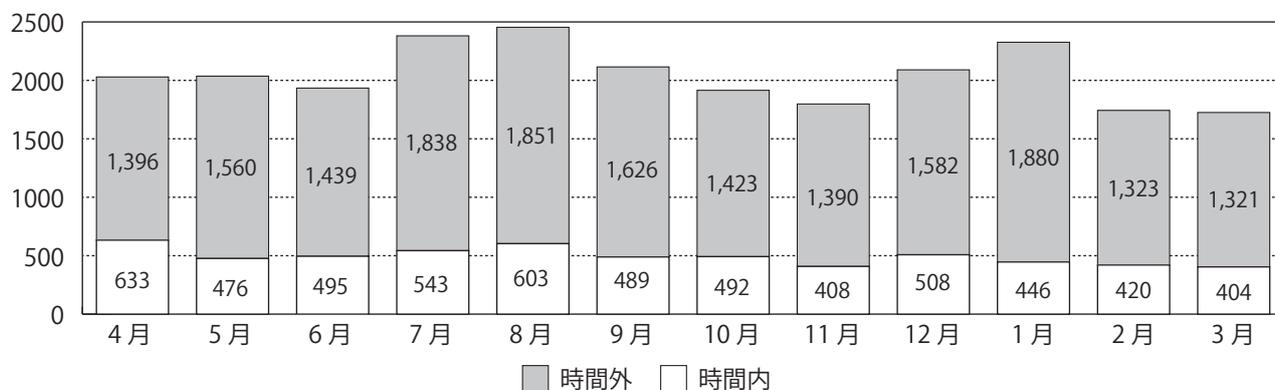
診療科	時間内		時間外				時間外 合計	合計
	延患者数	入院 (再掲)	日直		当直			
			延患者数	入院	患者数	入院(再掲)		
内科	1,722	37	2,023	13	4,536	14	6,559	8,281
脳神経内科	281	176	132	95	277	221	409	690
呼吸器内科	229	167	143	91	247	192	390	619
消化器内科	375	256	232	167	526	423	758	1,133
循環器内科	476	305	219	161	471	358	690	1,166
内分泌代謝科	56	42	23	19	43	35	66	122
腎臓内科	70	62	55	35	55	46	110	180
膠原病内科	1	0	1	0	0	0	1	2
血液内科	49	33	61	15	29	27	90	139
総合内科	167	125	82	68	181	162	263	430
肝臓内科	3	3	0	0	1	1	1	4
精神科	13	0	13	0	30	0	43	56
小児科	441	44	788	116	1,719	162	2,507	2,948
外科	76	7	111	4	168	7	279	355
消化器外科	130	124	91	85	256	253	347	477
血管外科	14	12	2	1	16	13	18	32
乳腺外科	5	4	7	6	12	11	19	24
整形外科	682	171	649	77	1,234	166	1,883	2,565
脊椎外科	6	6	2	2	5	4	7	13
形成外科	119	2	175	2	369	2	544	663
脳神経外科	405	135	296	67	690	157	986	1,391
呼吸器外科	22	16	15	13	16	14	31	53
心臓外科	9	7	7	4	14	10	21	30
皮膚科	70	12	161	14	307	41	468	538
泌尿器科	178	45	254	44	573	75	827	1,005
産婦人科	44	9	117	14	160	41	277	321
眼科	25	0	29	1	97	0	126	151
耳鼻咽喉科	228	17	267	28	511	33	778	1,006
麻酔科	1	0	1	0	6	0	7	8
歯科口腔外科	20	1	42	2	82	1	124	144
合計	5,917	1,818	5,998	1,144	12,631	2,469	18,629	24,546
前年度	11,161	1,832	6,788	1,061	12,697	2,540	19,485	25,402
前年度対比	53.0%	99.2%	88.4%	107.8%	99.5%	97.2%	95.6%	96.6%



2. 月別患者数

(単位：人)

年月日	時間内		時間外				時間外 合計	合計	
			日直		当直				
	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)			
R 5	4月	633	145	431	102	965	188	1,396	2,029
	5月	476	136	497	104	1,063	208	1,560	2,036
	6月	495	170	402	78	1,037	194	1,439	1,934
	7月	543	154	581	110	1,257	222	1,838	2,381
	8月	603	159	583	108	1,268	202	1,851	2,454
	9月	489	151	493	85	1,133	197	1,626	2,115
	10月	492	153	435	75	988	205	1,423	1,915
	11月	408	136	475	90	915	206	1,390	1,798
	12月	508	175	510	98	1,072	196	1,582	2,090
R 6	1月	446	149	688	128	1,192	250	1,880	2,326
	2月	420	136	474	77	849	186	1,323	1,743
	3月	404	154	429	89	892	215	1,321	1,725
合計	5,917	1,818	5,998	1,144	12,631	2,469	18,629	24,546	

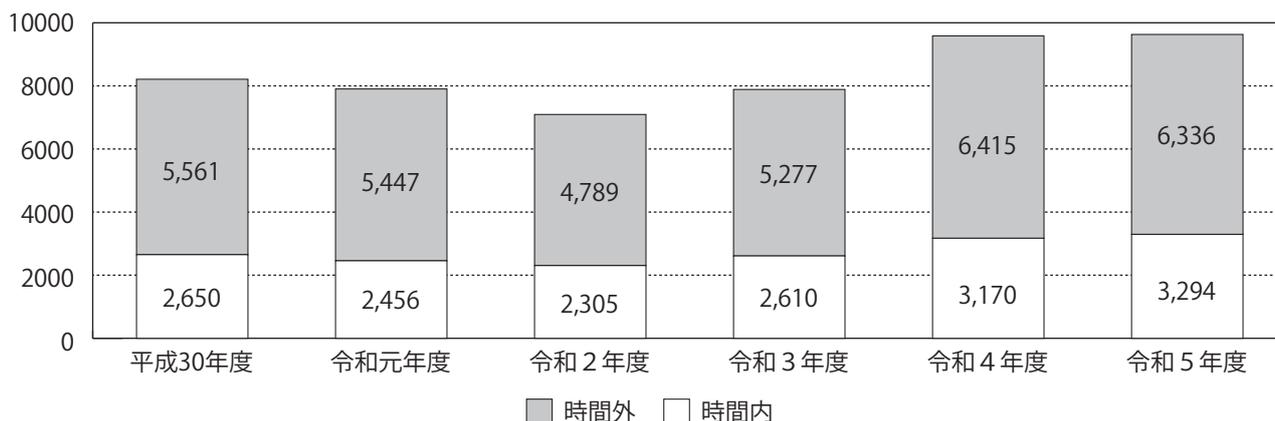


3. 救急車受入状況

①救急車受入数推移

(単位：人)

	時間内	時間外	総数	前年比
平成27年度	2,290	4,912	7,202	96.6%
平成28年度	2,338	4,954	7,292	101.2%
平成29年度	2,484	5,393	7,877	108.0%
平成30年度	2,650	5,561	8,211	104.2%
令和元年度	2,456	5,447	7,903	96.2%
令和2年度	2,305	4,789	7,094	89.8%
令和3年度	2,610	5,277	7,887	111.2%
令和4年度	3,170	6,415	9,585	121.5%
令和5年度	3,294	6,336	9,630	100.5%



②診療科別救急車受入数

(単位：人)

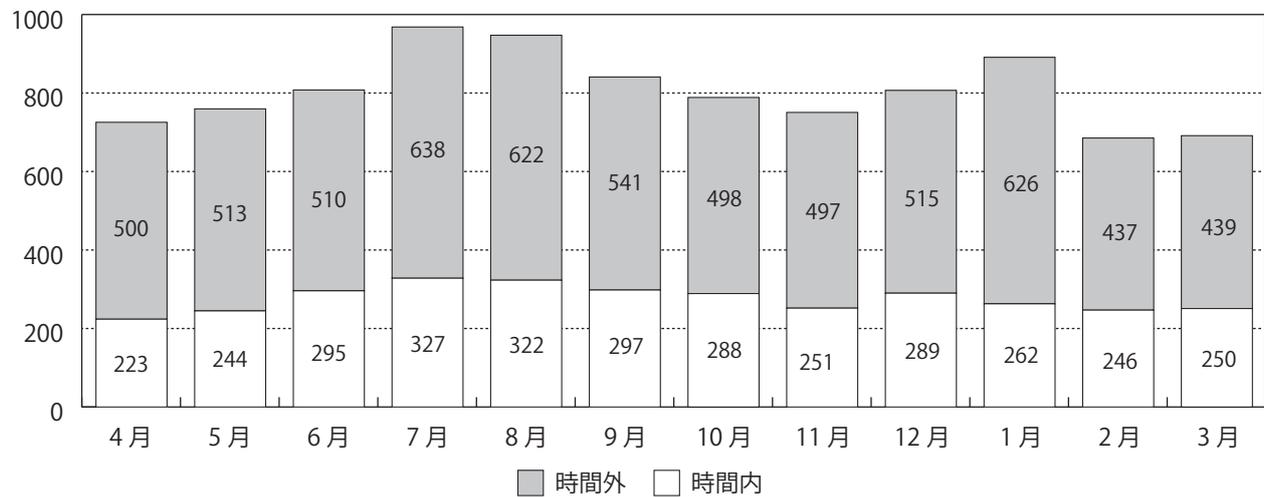
診療科	時間内		時間外				時間外 合計	合計
	患者数	入院(再掲)	日直		当直			
			患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)		
内科	708	31	395	3	1426	5	1,821	2,529
脳神経内科	204	141	88	69	195	159	283	487
呼吸器内科	147	132	54	49	166	141	220	367
消化器内科	236	194	102	88	309	268	411	647
循環器内科	324	263	120	96	321	264	441	765
内分泌代謝科	43	35	16	15	36	30	52	95
腎臓内科	54	49	26	24	36	33	62	116
膠原病内科	1	0	0	0	0	0	0	1
血液内科	25	21	11	11	18	16	29	54
総合内科	117	114	47	47	131	120	178	295
肝臓内科	3	3	0	0	0	0	0	3
精神科	10	0	4	0	18	0	22	32
小児科	121	28	93	17	294	36	387	508
外科	34	5	15	3	47	5	62	96
消化器外科	98	104	29	28	135	134	164	262
血管外科	13	11	0	0	13	12	13	26
乳腺外科	5	3	2	2	7	6	9	14
整形外科	480	162	252	57	601	136	853	1,333
脊椎外科	6	6	0	0	4	4	4	10
形成外科	48	2	36	0	76	2	112	160
脳神経外科	297	122	144	52	375	138	519	816
呼吸器外科	17	13	11	10	11	11	22	39
心臓外科	9	8	4	3	10	9	14	23
皮膚科	27	11	9	4	40	20	49	76
泌尿器科	98	37	54	25	209	53	263	361
産婦人科	24	7	11	6	31	14	42	66
眼科	7	0	4	0	8	0	12	19
耳鼻咽喉科	128	12	69	9	207	16	276	404
麻酔科	1	0	1	0	0	0	1	2
歯科口腔外科	9	1	3	0	12	0	15	24
合計	3,294	1,515	1,600	618	4,736	1,632	6,336	9,630
前年度	3,170	1,393	1,534	592	4,881	1,778	6,415	9,585
前年対比	103.9%	108.8%	104.3%	104.4%	97.0%	91.8%	98.8%	100.5%



③月別救急車受入数

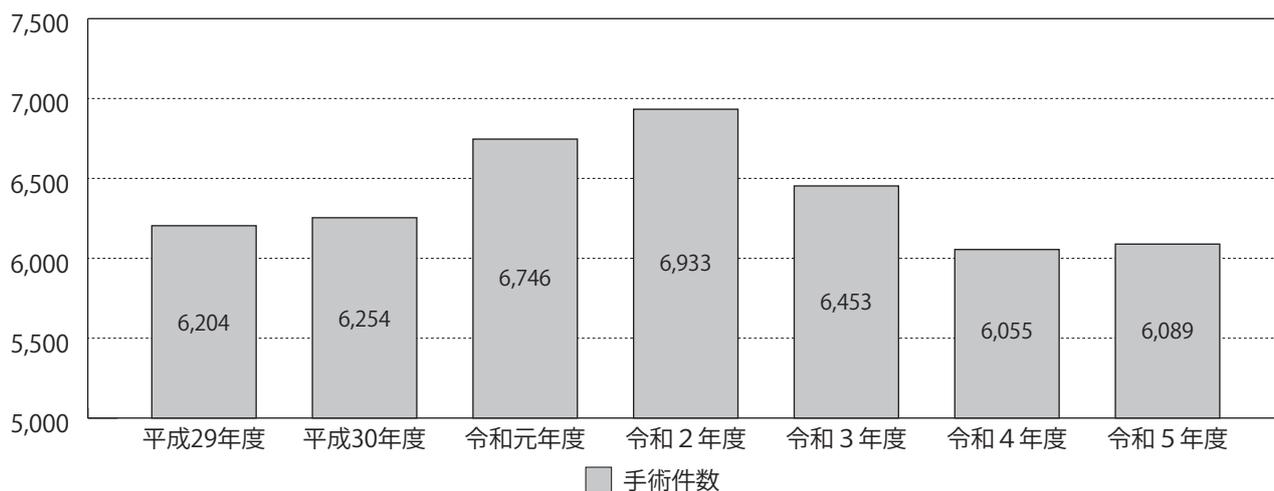
(単位：人)

年月日	時間内		時間外					合計	
			日直		当直		時間外 合計		
	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)			
R 5	4月	223	103	142	53	358	111	500	723
	5月	244	103	129	55	384	123	513	757
	6月	295	140	124	43	386	118	510	805
	7月	327	129	144	56	494	163	638	965
	8月	322	129	157	62	465	144	622	944
	9月	297	123	117	39	424	134	541	838
	10月	288	125	130	45	368	124	498	786
	11月	251	114	119	50	378	143	497	748
	12月	289	132	132	51	383	139	515	804
R 6	1月	262	175	176	67	450	175	626	888
	2月	246	114	116	46	321	133	437	683
	3月	250	128	114	51	325	125	439	689
合計	3,294	1,515	1,600	618	4,736	1,632	6,336	9,630	



5. 手術件数

	令和5年度		令和4年度	
	件数	緊急件数(再掲)	件数	緊急件数(再掲)
内科	135	9	121	6
外科	1,651	441	1,634	397
整形外科	1,297	259	1,301	345
形成外科	327	3	353	8
脳神経外科	266	154	240	132
呼吸器外科	181	0	173	0
心臓外科	112	19	92	15
皮膚科	15	0	15	1
泌尿器科	435	14	360	10
産婦人科	490	43	504	52
眼科	682	17	730	12
耳鼻咽喉科	269	8	315	13
歯科口腔外科	214	0	201	1
麻酔科	15	1	16	0
合計	6,089	968	6,055	992



6. 分娩数・死亡数・剖検数

(単位：人)

		令和5年度	令和4年度
分 娩 数		230	220
死 亡 数	悪 性 新 生 物	315	336
	心 疾 患	68	70
	肺炎及び気管支炎	48	45
	脳 血 管 疾 患	47	52
	老 衰	12	12
	不 慮 の 事 故	22	10
	腎 疾 患	16	13
	肝 疾 患	17	7
	自 殺	2	0
	高 血 圧 性 疾 患	0	0
	そ の 他	247	300
	合 計	794	845
剖 検 数		12	9

- (注) 1) 当院の死亡数は、入院中に死亡した数
2) 豊田市の人数は、1月～12月の数字を計上

悪性新生物（発生臓器別内訳）

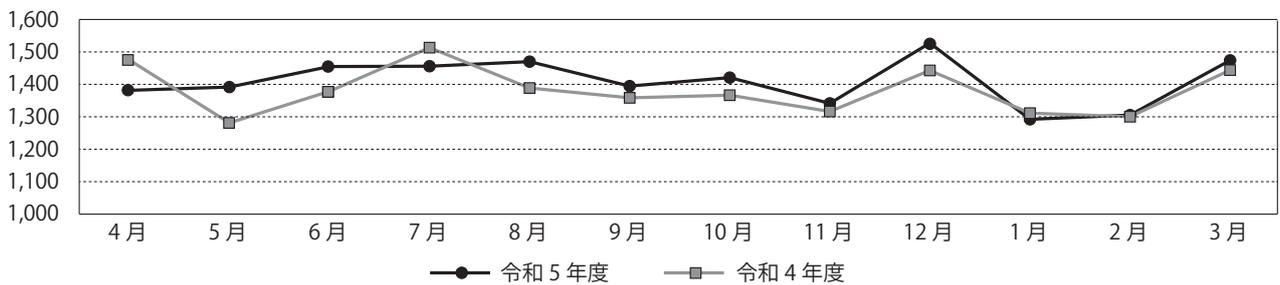
順位	臓器別	令和5年度	令和4年度
		件数	件数
1	肺	78	71
2	膵	38	59
3	胃	33	44
4	結腸	27	24
5	肝／リンパ	14	22

7. 退院患者統計

集計の対象は入院年月日にかかわらず、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの退院患者とした。
データは退院サマリおよび電子カルテ本文より抽出した。

1. 診療科別・月別退院患者数

	総数	比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡
総 数	16,889	100.0%	1,380	1,390	1,453	1,454	1,468	1,393	1,419	1,340	1,525	1,291	1,304	1,472	794
内 科	7,493	44.4%	616	617	636	626	647	626	620	585	688	570	595	667	595
小 児 科	754	4.5%	64	87	99	98	59	47	62	61	55	45	40	37	0
外 科	1,967	11.6%	178	151	171	180	168	149	177	157	191	147	137	161	89
整形外科	1,473	8.7%	114	114	112	103	135	114	147	122	152	122	110	128	6
形成外科	321	1.9%	19	25	42	25	27	22	21	26	25	26	31	32	1
脳神経外科	492	2.9%	35	39	49	46	43	33	34	54	42	35	36	46	40
呼吸器外科	236	1.4%	19	14	19	22	23	25	19	13	24	20	14	24	5
心臓血管外	119	0.7%	13	9	8	4	11	10	10	8	12	10	9	15	5
皮 膚 科	157	0.9%	6	19	15	23	14	15	15	11	8	10	14	7	0
泌尿器科	1,063	6.3%	92	93	90	93	87	91	83	84	98	77	91	84	26
産婦人科	934	5.5%	65	74	69	71	83	88	80	80	79	81	78	86	17
眼 科	655	3.9%	46	56	55	54	48	70	57	50	53	57	54	55	0
耳鼻咽喉科	450	2.7%	44	47	35	47	44	31	29	32	35	38	32	36	4
麻 酔 科	22	0.1%	2	2	2	0	4	1	2	2	3	2	0	2	0
歯科口腔外	730	4.3%	67	41	51	57	74	68	59	54	58	50	60	91	1
救 急 科	23	0.1%	0	2	0	5	1	3	4	1	2	1	3	1	5
令和4年度	16,557		1,473	1,280	1,377	1,511	1,387	1,357	1,365	1,315	1,441	1,310	1,299	1,442	



2. 診療科別・死亡退院患者数

診療科	総数	比率	剖検数	剖検率	平均在院日数	48時間以内死亡	粗死亡率	精死亡率
総 数	794	100.0%	12	1.5%	20.1	119	4.7%	4.0%
内 科	595	74.9%	11	1.8%	20.1	75	7.9%	6.9%
小 児 科	0	-	-	-	-	-	-	-
外 科	89	11.2%	0	0.0%	22.3	13	4.5%	3.9%
整形外科	6	0.8%	0	0.0%	19.2	1	0.4%	0.3%
形成外科	1	0.1%	0	0.0%	21.0	0	0.3%	0.3%
脳神経外科	40	5.0%	0	0.0%	6.7	18	8.1%	4.5%
呼吸器外科	5	0.6%	0	0.0%	20.4	1	2.1%	1.7%
心臓血管外	5	0.6%	0	0.0%	24.0	0	4.2%	4.2%
皮 膚 科	0	-	-	-	-	-	-	-
泌尿器科	26	3.3%	0	0.0%	25.7	6	2.4%	1.9%
産婦人科	17	2.1%	1	5.9%	28.5	0	1.8%	1.8%
眼 科	0	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻咽喉科	4	0.5%	0	0.0%	43.8	0	0.9%	0.9%
麻 酔 科	0	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外	1	0.1%	0	0.0%	34.0	0	0.1%	0.1%
救 急 科	5	0.6%	0	0.0%	1.2	5	21.7%	0.0%

※精死亡率：(総死亡数 - 入院後48時間以内死亡数) / 退院患者数 × 100を表す



3. 地域別・年齢階層別退院患者数

地域	性別	総数	比率(%)	平均年齢	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~
総数	計	16,889	100.0	63.40	819	493	716	714	1,048	1,744	2,281	4,510	3,721	843
	男	9,283	100.0	63.80	472	243	308	280	528	958	1,454	2,742	1,995	303
	女	7,606	100.0	62.90	347	250	408	434	520	786	827	1,768	1,726	540
井郷地区	計	821	4.9	64.10	44	17	33	48	49	67	90	236	190	47
	男	471	5.1	63.30	28	13	12	23	26	48	60	138	110	13
	女	350	4.6	65.10	16	4	21	25	23	19	30	98	80	34
猿投地区	計	497	2.9	64.50	17	21	13	15	31	59	66	151	92	32
	男	285	3.1	63.70	10	14	6	8	12	32	47	108	40	8
	女	212	2.8	65.70	7	7	7	7	19	27	19	43	52	24
猿投台地区	計	681	4.0	66.20	26	9	24	33	37	62	94	180	176	40
	男	377	4.1	66.70	16	2	12	13	23	31	57	103	101	19
	女	304	4.0	65.50	10	7	12	20	14	31	37	77	75	21
逢妻地区	計	1,186	7.0	64.20	58	35	44	43	68	112	155	355	254	62
	男	676	7.3	64.50	32	15	19	16	39	66	111	224	133	21
	女	510	6.7	63.70	26	20	25	27	29	46	44	131	121	41
朝日丘地区	計	765	4.5	64.10	31	20	25	36	59	83	103	186	186	36
	男	428	4.6	66.10	13	9	8	15	29	56	62	109	108	19
	女	337	4.4	61.70	18	11	17	21	30	27	41	77	78	17
崇化館地区	計	1,175	7.0	65.20	45	19	47	46	76	147	155	286	264	90
	男	634	6.8	64.40	24	10	24	20	44	84	85	178	135	30
	女	541	7.1	66.10	21	9	23	26	32	63	70	108	129	60
豊南地区	計	265	1.6	61.10	15	6	20	9	9	34	45	69	48	10
	男	137	1.5	61.50	11	4	5	4	3	12	32	33	30	3
	女	128	1.7	60.60	4	2	15	5	6	22	13	36	18	7
保見地区	計	819	4.8	62.00	51	19	43	41	58	61	122	206	185	33
	男	462	5.0	60.80	36	12	26	15	29	35	73	128	101	7
	女	357	4.7	63.60	15	7	17	26	29	26	49	78	84	26
梅坪台地区	計	612	3.6	62.30	15	19	40	31	29	81	112	130	137	18
	男	330	3.6	63.20	8	11	12	6	19	48	80	78	64	4
	女	282	3.7	61.20	7	8	28	25	10	33	32	52	73	14
浄水地区	計	729	4.3	56.00	71	46	39	50	52	61	60	202	136	12
	男	388	4.2	57.20	37	23	22	16	25	37	29	113	82	4
	女	341	4.5	54.60	34	23	17	34	27	24	31	89	54	8
益富地区	計	251	1.5	69.50	3	5	3	3	16	14	36	111	47	13
	男	139	1.5	71.40	1	1	1	0	8	5	17	80	25	1
	女	112	1.5	67.20	2	4	2	3	8	9	19	31	22	12
美里地区	計	513	3.0	66.00	21	8	21	10	37	50	66	154	130	16
	男	284	3.1	67.60	10	4	7	2	19	23	45	102	65	7
	女	229	3.0	64.00	11	4	14	8	18	27	21	52	65	9
高橋地区	計	821	4.9	66.20	31	19	29	20	57	70	103	242	212	38
	男	456	4.9	67.00	16	8	14	9	22	44	68	140	122	13
	女	365	4.8	65.20	15	11	15	11	35	26	35	102	90	25
石野地区	計	211	1.2	65.70	11	3	8	10	11	17	24	58	54	15
	男	121	1.3	65.40	7	2	1	5	5	11	19	39	29	3
	女	90	1.2	66.20	4	1	7	5	6	6	5	19	25	12
松平地区	計	155	0.9	66.70	7	3	2	6	6	18	28	31	46	8
	男	83	0.9	65.00	4	3	1	4	1	6	21	20	21	2
	女	72	0.9	68.60	3	0	1	2	5	12	7	11	25	6
前林地区	計	364	2.2	67.50	12	4	18	6	20	32	49	110	98	15
	男	192	2.1	69.10	5	1	8	2	9	14	26	72	50	5
	女	172	2.3	65.60	7	3	10	4	11	18	23	38	48	10
竜神地区	計	453	2.7	65.60	11	16	21	12	30	49	36	148	115	15
	男	234	2.5	67.50	7	6	6	5	13	23	21	81	66	6
	女	219	2.9	63.50	4	10	15	7	17	26	15	67	49	9
若園地区	計	154	0.9	66.20	8	6	5	4	6	11	18	43	46	7
	男	83	0.9	68.60	4	3	0	2	2	7	10	23	30	2
	女	71	0.9	63.50	4	3	5	2	4	4	8	20	16	5
高岡地区	計	266	1.6	69.10	3	5	8	8	10	28	42	75	69	18
	男	162	1.7	70.70	2	2	4	3	3	18	26	50	45	9
	女	104	1.4	66.50	1	3	4	5	7	10	16	25	24	9

地域	性別	総数	比率(%)	平均年齢	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~
上郷地区	計	144	0.9	63.40	9	8	1	5	5	10	23	45	34	4
	男	74	0.8	63.50	5	2	1	2	3	4	17	25	14	1
	女	70	0.9	63.40	4	6	0	3	2	6	6	20	20	3
末野原地区	計	216	1.3	60.90	15	9	8	11	13	14	31	72	35	8
	男	138	1.5	60.60	9	6	5	5	9	10	18	57	18	1
	女	78	1.0	61.40	6	3	3	6	4	4	13	15	17	7
藤岡地区	計	429	2.5	67.30	10	7	8	11	21	55	83	115	94	25
	男	209	2.3	67.60	5	3	2	6	6	14	58	77	30	8
	女	220	2.9	67.10	5	4	6	5	15	41	25	38	64	17
藤岡南地区	計	470	2.8	61.10	33	14	15	14	38	50	81	136	60	29
	男	245	2.6	61.00	22	5	6	5	15	26	45	78	28	15
	女	225	3.0	61.20	11	9	9	9	23	24	36	58	32	14
小原地区	計	236	1.4	72.10	4	3	2	3	6	12	41	90	52	23
	男	150	1.6	71.30	2	3	1	1	4	4	30	62	35	8
	女	86	1.1	73.60	2	0	1	2	2	8	11	28	17	15
足助地区	計	373	2.2	73.70	9	2	4	2	5	16	58	135	103	39
	男	209	2.3	74.30	4	1	2	2	1	5	28	90	56	20
	女	164	2.2	73.00	5	1	2	0	4	11	30	45	47	19
下山地区	計	64	0.4	71.30	0	0	0	2	4	3	14	24	15	2
	男	45	0.5	73.00	0	0	0	2	3	0	5	21	13	1
	女	19	0.2	67.30	0	0	0	0	1	3	9	3	2	1
稲武地区	計	130	0.8	72.70	1	2	1	0	8	11	14	45	37	11
	男	82	0.9	73.40	1	0	0	0	3	9	10	32	20	7
	女	48	0.6	71.60	0	2	1	0	5	2	4	13	17	4
旭地区	計	172	1.0	74.20	2	1	4	1	9	6	23	43	64	19
	男	95	1.0	74.40	1	1	1	1	7	3	8	21	44	8
	女	77	1.0	73.90	1	0	3	0	2	3	15	22	20	11
みよし市	計	128	0.8	53.10	5	13	7	10	15	17	26	19	14	2
	男	77	0.8	56.80	3	3	3	3	11	12	21	13	7	1
	女	51	0.7	47.50	2	10	4	7	4	5	5	6	7	1
東郷町	計	31	0.2	35.90	0	9	6	5	2	4	0	4	1	0
	男	10	0.1	52.10	0	0	1	1	2	4	0	1	1	0
	女	21	0.3	28.20	0	9	5	4	0	0	0	3	0	0
日進市	計	194	1.1	56.50	7	8	24	19	12	23	27	33	33	8
	男	97	1.0	59.10	3	6	9	5	4	9	21	19	17	4
	女	97	1.3	54.00	4	2	15	14	8	14	6	14	16	4
岡崎市	計	47	0.3	50.00	2	11	4	2	4	1	1	12	9	1
	男	26	0.3	53.40	1	4	2	1	3	1	1	8	5	0
	女	21	0.3	45.90	1	7	2	1	1	0	0	4	4	1
刈谷市	計	40	0.2	53.00	4	2	5	1	1	10	5	4	8	0
	男	23	0.2	49.60	4	1	1	1	1	7	2	2	4	0
	女	17	0.2	57.50	0	1	4	0	0	3	3	2	4	0
名古屋市	計	74	0.4	54.60	4	1	4	13	5	11	18	8	5	5
	男	36	0.4	55.00	1	0	2	7	2	6	12	3	1	2
	女	38	0.5	54.30	3	1	2	6	3	5	6	5	4	3
安城市	計	2,473	14.6	60.00	182	75	103	98	176	351	342	568	480	98
	男	1,369	14.7	59.40	118	41	53	45	86	187	225	325	252	37
	女	1,104	14.5	60.80	64	34	50	53	90	164	117	243	228	61
知立市	計	291	1.7	62.60	19	7	15	12	21	31	25	73	74	14
	男	126	1.4	63.70	5	4	5	4	10	14	21	26	33	4
	女	165	2.2	61.80	14	3	10	8	11	17	4	47	41	10
瀬戸市	計	290	1.7	62.40	13	11	21	17	18	25	34	63	65	23
	男	150	1.6	62.60	7	6	10	6	10	13	19	36	35	8
	女	140	1.8	62.10	6	5	11	11	8	12	15	27	30	15
長久手市	計	22	0.1	48.10	1	1	4	4	2	3	0	4	3	0
	男	10	0.1	52.30	0	0	2	1	2	2	0	1	2	0
	女	12	0.2	44.70	1	1	2	3	0	1	0	3	1	0
その他市外	計	204	1.2	51.99	3	25	23	30	14	22	22	22	40	3
	男	106	1.1	54.93	1	12	7	11	9	16	18	13	18	1
	女	98	1.3	48.79	2	13	16	19	5	6	4	9	22	2
県外	計	123	0.7	46.60	16	4	14	23	8	13	9	22	10	4
	男	64	0.7	48.50	9	2	7	3	6	12	6	13	5	1
	女	59	0.8	44.50	7	2	7	20	2	1	3	9	5	3



4. 疾病別・診療科別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総	内	小	外	整	形	脳	呼	心	皮	泌	産	眼	耳	麻	歯	救	死	剖
		数	科	児	科	形	成	神	吸	臓	膚	尿	婦	科	鼻	酔	科	急	亡	検
総 数	計	16,889	7,493	754	1,967	1,473	321	492	236	119	157	1,063	934	655	450	22	730	23	794	12
	男	9,283	4,532	407	1,090	675	144	287	162	81	92	862	0	310	274	14	343	10	468	8
	女	7,606	2,961	347	877	798	177	205	74	38	65	201	934	345	176	8	387	13	326	4
I 感染症及び寄生虫症	計	340	168	92	4	2	0	0	1	1	33	13	5	0	17	3	0	1	22	1
	男	190	101	50	2	1	0	0	0	0	19	6	0	0	8	2	0	1	13	0
	女	150	67	42	2	1	0	0	1	1	14	7	5	0	9	1	0	0	9	1
II 新生物	計	3,152	1,215	2	663	13	76	39	132	0	20	428	431	0	104	3	26	0	304	5
	男	1,664	792	2	288	9	35	13	78	0	10	348	0	0	75	2	12	0	186	3
	女	1,488	423	0	375	4	41	26	54	0	10	80	431	0	29	1	14	0	118	2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	102	58	7	11	2	0	0	5	0	0	7	11	0	1	0	0	0	4	0
	男	45	26	4	4	1	0	0	4	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	57	32	3	7	1	0	0	1	0	0	2	11	0	0	0	0	0	4	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	334	268	16	13	3	3	0	2	0	2	2	0	10	13	0	0	2	8	0
	男	170	143	5	6	3	3	0	1	0	1	2	0	3	3	0	0	0	4	0
	女	164	125	11	7	0	0	0	1	0	1	0	0	7	10	0	0	2	4	0
V 精神及び行動の障害	計	23	21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	16	14	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VI 神経系の疾患	計	383	287	22	0	25	5	30	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	8	2
	男	238	177	13	0	19	1	18	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	4	2
	女	145	110	9	0	6	4	12	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0
VII 眼及び付属器の疾患	計	768	2	0	0	0	128	0	0	0	0	0	0	636	2	0	0	0	0	0
	男	357	2	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	303	2	0	0	0	0	0
	女	411	0	0	0	0	78	0	0	0	0	0	0	333	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	64	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	63	0	0	0	0	0
	男	35	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	34	0	0	0	0	0
	女	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0
IX 循環器系の疾患	計	2,851	2,358	0	137	1	1	235	2	114	0	0	0	0	0	0	0	3	154	1
	男	1,782	1,467	0	95	1	1	138	2	77	0	0	0	0	0	0	0	1	78	0
	女	1,069	891	0	42	0	0	97	0	37	0	0	0	0	0	0	0	2	76	1
X 呼吸器系の疾患	計	1,467	802	384	10	0	0	0	63	1	0	2	1	0	203	0	1	0	154	1
	男	887	499	205	4	0	0	0	51	1	0	2	0	0	124	0	1	0	102	1
	女	580	303	179	6	0	0	0	12	0	0	0	1	0	79	0	0	0	52	0
XI 消化器系の疾患	計	2,627	918	6	1,007	1	0	0	0	0	0	1	4	0	5	0	685	0	70	1
	男	1,481	532	3	619	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	322	0	44	1
	女	1,146	386	3	388	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	0	363	0	26	0
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	178	26	14	3	7	42	0	0	0	79	0	0	0	7	0	0	0	1	0
	男	98	10	6	0	6	23	0	0	0	50	0	0	0	3	0	0	0	1	0
	女	80	16	8	3	1	19	0	0	0	29	0	0	0	4	0	0	0	0	0
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	474	93	16	0	341	5	0	0	0	2	2	0	0	13	0	2	4	0	
	男	214	42	9	0	147	5	0	0	0	1	2	0	0	7	0	1	3	0	
	女	260	51	7	0	194	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	1	1	0	
XIV 尿路性器系の疾患	計	1,030	406	20	21	0	2	1	0	0	0	396	182	0	2	0	0	0	17	1
	男	502	193	11	5	0	1	1	0	0	0	290	0	0	1	0	0	0	8	1
	女	528	213	9	16	0	1	0	0	0	0	106	182	0	1	0	0	0	9	0
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	286	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	284	0	0	0	0	0	0	0
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	286	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	284	0	0	0	0	0	0	0
XVI 周産期に発生した病態	計	33	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	17	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	16	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	22	2	0	6	2	1	0	0	0	0	0	1	0	10	0	0	0	0	0
	男	11	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
	女	11	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0

国際分類大項目分類	総数	内科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外	救急科	死亡数	剖検数
VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	152	64	57	11	2	0	2	1	0	8	2	0	3	1	0	1	10	0
	男	88	34	31	7	2	0	2	1	0	7	0	0	2	1	0	1	3	0
	女	64	30	26	4	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	7	0
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,254	103	20	58	762	29	167	30	3	20	15	8	9	4	2	10	14	25
	男	614	49	14	38	315	19	107	25	3	10	14	0	4	2	2	6	6	15
	女	640	54	6	20	447	10	60	5	0	10	1	8	5	2	0	4	8	10
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,194	554	56	22	312	29	18	0	0	189	5	0	1	0	8	0	1	0
	男	784	366	31	16	169	6	8	0	0	186	0	0	0	0	2	0	1	0
	女	410	188	25	6	143	23	10	0	0	3	5	0	1	0	6	0	0	0
XXI 特殊目的用コード(新型コロナウイルス感染症を含む)	計	155	146	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	12	0
	男	90	85	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
	女	65	61	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0

※主病名に対する死亡数であるため、死因統計とは異なる

5. 診療科別・在院期間別退院患者数

		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総数	計	16,889	9,584	3,468	1,573	968	1,025	193	69	8	1	0	11.9
	男	9,283	5,301	1,869	833	537	587	113	39	4	0	0	12.0
	女	7,606	4,283	1,599	740	431	438	80	30	4	1	0	11.9
内科	計	7,493	3,535	1,799	828	555	642	104	24	5	1	0	14.1
	男	4,532	2,251	1,071	460	308	367	58	15	2	0	0	13.4
	女	2,961	1,284	728	368	247	275	46	9	3	1	0	15.0
小児科	計	754	705	40	5	3	1	0	0	0	0	0	4.8
	男	407	378	24	2	3	0	0	0	0	0	0	4.8
	女	347	327	16	3	0	1	0	0	0	0	0	4.9
外科	計	1,967	991	531	181	104	122	28	8	2	0	0	13.0
	男	1,090	564	263	100	60	78	18	6	1	0	0	13.3
	女	877	427	268	81	44	44	10	2	1	0	0	12.7
整形外科	計	1,473	608	295	286	136	111	22	14	1	0	0	15.2
	男	675	338	110	97	62	48	14	5	1	0	0	14.2
	女	798	270	185	189	74	63	8	9	0	0	0	16.1
形成外科	計	321	281	19	4	4	6	2	5	0	0	0	6.3
	男	144	123	4	3	3	5	2	4	0	0	0	9.4
	女	177	158	15	1	1	1	0	1	0	0	0	3.8
脳神経外科	計	492	153	136	73	57	49	16	8	0	0	0	18.8
	男	287	84	85	41	34	27	11	5	0	0	0	19.2
	女	205	69	51	32	23	22	5	3	0	0	0	18.1
呼吸器外科	計	236	53	154	16	7	4	2	0	0	0	0	11.4
	男	162	40	99	11	6	4	2	0	0	0	0	12.0
	女	74	13	55	5	1	0	0	0	0	0	0	10.1
心臓血管外	計	119	4	8	54	34	13	4	2	0	0	0	25.9
	男	81	4	5	38	23	7	3	1	0	0	0	25.4
	女	38	0	3	16	11	6	1	1	0	0	0	27.1
皮膚科	計	157	89	42	10	4	11	0	1	0	0	0	11.3
	男	92	56	20	6	4	6	0	0	0	0	0	10.6
	女	65	33	22	4	0	5	0	1	0	0	0	12.2
泌尿器科	計	1,063	718	190	70	37	40	6	2	0	0	0	9.1
	男	862	605	138	55	27	33	3	1	0	0	0	8.5
	女	201	113	52	15	10	7	3	1	0	0	0	11.7
産婦人科	計	934	716	172	13	12	12	6	3	0	0	0	7.6
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	934	716	172	13	12	12	6	3	0	0	0	7.6



		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
眼 科	計	655	612	26	12	5	0	0	0	0	0	0	3.3
	男	310	287	15	8	0	0	0	0	0	0	0	3.4
	女	345	325	11	4	5	0	0	0	0	0	0	3.2
耳鼻咽喉科	計	450	375	48	11	5	8	2	1	0	0	0	8.3
	男	274	220	31	9	3	8	2	1	0	0	0	9.2
	女	176	155	17	2	2	0	0	0	0	0	0	6.8
麻 酔 科	計	22	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.8
	男	14	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.9
	女	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.8
歯科口腔外	計	730	700	7	10	5	6	1	1	0	0	0	3.7
	男	343	327	4	3	4	4	0	1	0	0	0	4.0
	女	387	373	3	7	1	2	1	0	0	0	0	3.5
救 急 科	計	23	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2.3
	男	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.1
	女	13	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5

6. 疾病別・在院期間別退院患者数（大分類）

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総 数	計	16,889	9,584	3,468	1,573	968	1,025	193	69	8	1	0	11.9
	男	9,283	5,301	1,869	833	537	587	113	39	4	0	0	12.0
	女	7,606	4,283	1,599	740	431	438	80	30	4	1	0	11.9
I 感染症及び寄生虫症	計	340	199	63	29	18	24	5	1	1	0	0	13.5
	男	190	106	38	18	14	10	4	0	0	0	0	12.8
	女	150	93	25	11	4	14	1	1	1	0	0	14.5
II 新生物	計	3,152	1,300	961	354	221	257	43	15	1	0	0	14.4
	男	1,664	627	496	226	124	158	25	8	0	0	0	15.3
	女	1,488	673	465	128	97	99	18	7	1	0	0	13.4
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	102	49	24	15	9	5	0	0	0	0	0	12.3
	男	45	19	12	9	3	2	0	0	0	0	0	12.8
	女	57	30	12	6	6	3	0	0	0	0	0	12.0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	334	185	74	26	16	26	3	4	0	0	0	14.0
	男	170	98	36	15	8	8	1	4	0	0	0	14.2
	女	164	87	38	11	8	18	2	0	0	0	0	13.7
V 精神及び行動の障害	計	23	6	7	5	1	3	0	1	0	0	0	19.6
	男	16	6	3	2	1	3	0	1	0	0	0	21.9
	女	7	0	4	3	0	0	0	0	0	0	0	14.3
VI 神経系の疾患	計	383	224	63	31	24	27	12	0	1	1	0	14.3
	男	238	143	44	19	13	15	4	0	0	0	0	11.3
	女	145	81	19	12	11	12	8	0	1	1	0	19.3
VII 眼及び付属器の疾患	計	768	732	25	10	1	0	0	0	0	0	0	2.9
	男	357	335	15	7	0	0	0	0	0	0	0	3.1
	女	411	397	10	3	1	0	0	0	0	0	0	2.6
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	64	61	2	0	1	0	0	0	0	0	0	6.0
	男	35	34	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5.9
	女	29	27	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6.1
IX 循環器系の疾患	計	2,851	1,434	630	323	218	189	41	14	2	0	0	13.3
	男	1,782	957	396	170	122	103	24	9	1	0	0	12.5
	女	1,069	477	234	153	96	86	17	5	1	0	0	14.7
X 呼吸器系の疾患	計	1,467	731	259	153	130	161	26	7	0	0	0	15.4
	男	887	423	166	92	88	97	17	4	0	0	0	15.8
	女	580	308	93	61	42	64	9	3	0	0	0	14.7

国際分類大項目分類		総数	1~8日	9~15日	16~22日	23~31日	1~2月	2~3月	3~6月	6月~1年	1~2年	2年~	平均在院日数
XI 消化器系の疾患	計	2,627	1,730	531	170	78	92	19	6	1	0	0	9.4
	男	1,481	961	310	87	45	64	9	4	1	0	0	9.8
	女	1,146	769	221	83	33	28	10	2	0	0	0	9.0
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	178	87	45	14	8	19	4	1	0	0	0	13.9
	男	98	53	20	9	4	9	3	0	0	0	0	13.2
	女	80	34	25	5	4	10	1	1	0	0	0	14.9
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	474	82	185	115	38	40	10	4	0	0	0	18.4
	男	214	47	83	36	18	21	8	1	0	0	0	18.7
	女	260	35	102	79	20	19	2	3	0	0	0	18.1
XIV 尿路性器系の疾患	計	1,030	664	200	73	40	46	5	2	0	0	0	9.9
	男	502	316	100	36	15	30	3	2	0	0	0	10.6
	女	528	348	100	37	25	16	2	0	0	0	0	9.3
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	286	214	68	2	0	1	1	0	0	0	0	7.4
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	286	214	68	2	0	1	1	0	0	0	0	7.4
XVI 周産期に発生した病態	計	33	27	6	0	0	0	0	0	0	0	0	7.5
	男	17	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	7.8
	女	16	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7.1
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	22	17	4	1	0	0	0	0	0	0	0	6.0
	男	11	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6.5
	女	11	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5.5
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	152	102	30	9	3	5	1	1	1	0	0	10.8
	男	88	54	20	8	2	1	1	1	1	0	0	12.7
	女	64	48	10	1	1	4	0	0	0	0	0	8.2
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,254	533	212	221	142	113	20	12	1	0	0	16.2
	男	614	309	79	88	67	54	12	4	1	0	0	15.2
	女	640	224	133	133	75	59	8	8	0	0	0	17.1
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,194	1,154	35	3	1	0	1	0	0	0	0	2.8
	男	784	761	20	1	1	0	1	0	0	0	0	2.7
	女	410	393	15	2	0	0	0	0	0	0	0	2.9
XXI 特殊目的用コード (新型コロナウイルス感染症を含む)	計	155	53	44	19	19	17	2	1	0	0	0	17.0
	男	90	32	22	10	12	12	1	1	0	0	0	18.3
	女	65	21	22	9	7	5	1	0	0	0	0	15.2

7. 疾病別・年齢階層別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~	平均年齢
総数	計	16,889	819	493	716	714	1,048	1,744	2,281	4,510	3,721	843	63.40
	男	9,283	472	243	308	280	528	958	1,454	2,742	1,995	303	63.80
	女	7,606	347	250	408	434	520	786	827	1,768	1,726	540	62.90
I 感染症及び寄生虫症	計	340	84	18	16	17	11	19	29	49	77	20	50.00
	男	190	47	10	10	11	6	10	16	29	40	11	49.00
	女	150	37	8	6	6	5	9	13	20	37	9	51.20
II 新生物	計	3,152	9	14	33	86	229	416	524	1,120	657	64	68.50
	男	1,664	6	6	11	29	51	129	341	673	385	33	71.20
	女	1,488	3	8	22	57	178	287	183	447	272	31	65.40
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	102	5	3	2	3	6	16	12	32	17	6	63.90
	男	45	3	1	1	3	1	4	6	17	9	0	62.70
	女	57	2	2	1	0	5	12	6	15	8	6	64.80
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	334	14	4	10	13	32	45	51	77	76	12	63.70
	男	170	5	1	7	11	19	21	32	40	32	2	61.60
	女	164	9	3	3	2	13	24	19	37	44	10	66.00



国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
V 精神及び行動の障害	計	23	1	2	1	0	3	3	2	6	4	1	58.90
	男	16	1	2	0	0	3	1	2	4	3	0	56.40
	女	7	0	0	1	0	0	2	0	2	1	1	64.60
VI 神経系の疾患	計	383	17	17	12	21	31	53	52	111	58	11	60.30
	男	238	12	9	4	14	19	43	35	65	33	4	59.60
	女	145	5	8	8	7	12	10	17	46	25	7	61.50
VII 眼及び付属器の疾患	計	768	2	2	6	10	19	74	131	302	198	24	72.00
	男	357	2	1	1	5	12	40	38	172	78	8	71.40
	女	411	0	1	5	5	7	34	93	130	120	16	72.50
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	64	4	2	3	1	7	11	15	12	8	1	57.70
	男	35	3	1	2	0	3	6	10	7	2	1	56.50
	女	29	1	1	1	1	4	5	5	5	6	0	59.20
IX 循環器系の疾患	計	2,851	0	4	9	18	129	291	397	928	858	217	73.70
	男	1,782	0	2	5	15	95	219	295	608	464	79	71.70
	女	1,069	0	2	4	3	34	72	102	320	394	138	77.10
X 呼吸器系の疾患	計	1,467	383	41	74	50	54	75	99	227	346	118	51.50
	男	887	207	24	51	27	29	43	74	167	217	48	52.90
	女	580	176	17	23	23	25	32	25	60	129	70	49.40
XI 消化器系の疾患	計	2,627	67	172	328	170	194	252	330	477	501	136	57.50
	男	1,481	47	73	147	92	130	156	220	290	274	52	58.10
	女	1,146	20	99	181	78	64	96	110	187	227	84	56.70
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	178	14	9	12	10	12	30	19	31	32	9	56.30
	男	98	6	8	4	5	10	18	14	15	14	4	55.00
	女	80	8	1	8	5	2	12	5	16	18	5	57.90
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	474	22	42	17	11	17	49	70	157	75	14	60.60
	男	214	13	11	7	7	12	27	32	66	36	3	60.40
	女	260	9	31	10	4	5	22	38	91	39	11	60.80
XIV 尿路性器系の疾患	計	1,030	19	15	27	54	137	112	159	238	225	44	64.40
	男	502	12	7	6	13	42	57	99	136	113	17	66.60
	女	528	7	8	21	41	95	55	60	102	112	27	62.40
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	286	0	5	81	173	27	0	0	0	0	0	32.40
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	286	0	5	81	173	27	0	0	0	0	0	32.40
XVI 周産期に発生した病態	計	33	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	男	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	22	2	8	2	3	3	0	0	4	0	0	33.90
	男	11	1	5	1	1	1	0	0	2	0	0	31.30
	女	11	1	3	1	2	2	0	0	2	0	0	36.50
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	152	51	8	4	1	1	9	8	25	35	10	47.00
	男	88	26	6	3	1	1	5	2	17	23	4	48.30
	女	64	25	2	1	0	0	4	6	8	12	6	45.30
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,254	38	59	53	43	68	137	157	262	321	116	65.30
	男	614	29	45	36	31	47	82	85	115	120	24	58.10
	女	640	9	14	17	12	21	55	72	147	201	92	72.30
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,194	47	68	23	30	65	141	217	408	180	15	62.20
	男	784	31	31	10	15	45	90	147	288	121	6	63.60
	女	410	16	37	13	15	20	51	70	120	59	9	59.40
XXI 特殊目的用コード (新型コロナウイルス感染症を含む)	計	155	7	0	3	0	3	11	9	44	53	25	74.40
	男	90	4	0	2	0	2	7	6	31	31	7	72.50
	女	65	3	0	1	0	1	4	3	13	22	18	77.10

8. 診療科別疾患順位（細分類）

細分類病名のままではわかりにくいものに関しては、一部修正を加え掲載

<内科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I500	うっ血性心不全	441	19.8	34	166	2
2	I208	労作性狭心症	328	4.9	10.5	344	2
3	I633	血栓性脳梗塞	180	18.3	24.5	79	2
4	I480	発作性心房細動	177	4.6	8	39	1
5	I200	不安定狭心症	165	4.9	10.5	36	1
6	Z136	心臓カテーテル検査入院	160	2.7	2.5	3	2
7	U071	新型コロナウイルス感染症	146	17.8	19	112	1
8	Z138	その他の検査（睡眠時無呼吸、腎生検、気管支鏡）入院	145	2.7	5	15	2
9	I481	持続性心房細動	131	4.3	6	13	2
10	C341	上葉肺の悪性新生物	128	16.1	20	50	1

<小児科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J189	急性肺炎	83	5.1	7	11	4
2	J209	急性気管支炎	43	4.6	5.5	9	2
3	J450	小児気管支喘息	40	5.3	6	9	3
4	A099	急性胃腸炎	36	3.4	4	7	1
5	Z130	食物負荷試験	35	1	1	1	1
6	J210	RSウイルス細気管支炎	32	6	7	11	3
7	R560	熱性けいれん<痙攣>	29	3.4	3.5	5	2
8	J121	RSウイルス肺炎	25	4.9	5.5	9	3
9	P071b	低出生体重(児)のうち、出生体重1500グラム-2499グラムの児	24	7.8	8	11	6
10	J029	急性咽頭炎	23	4.1	4.5	7	3

<外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K409	片側鼠径ヘルニア	128	3.7	3.5	14	1
2	K801	慢性胆のう炎を伴う胆のう結石	96	7.5	8	87	4
3	K913	術後腸閉塞	84	11.5	13.5	55	3
4	K358	急性虫垂炎	77	5.4	7	14	1
5	K353	限局性腹膜炎を伴う急性虫垂炎	75	8.9	12	26	4
6	C504	乳房上外側4分の1の悪性新生物	64	10.4	10.5	70	2
7	C162	胃体部の悪性腫瘍	61	19.6	19	65	1
8	K403	閉塞を伴う片側鼠径ヘルニア	58	5.1	6	58	2
9	K623	直腸脱	52	7.0	7	17	1
10	K810	急性胆のう炎	47	10.3	12	80	5

<整形外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	Z138	脊髄腔造影検査入院	224	2.0	2	3	2
2	S7210	閉鎖性転子貫通骨折	152	20.1	23	63	4
3	S7200	閉鎖性大腿骨頸部骨折	132	23.0	25.5	107	2



4	Z470	術後抜釘入院	88	2.9	5	18	2
5	M4806	脊柱管狭窄症	49	14.5	29	51	7
6	S5250	閉塞性橈骨遠位端骨折	46	3.1	6	27	2
7	M4712	頸髄症性脊椎症	37	14.7	18.5	36	7
8	S141	頸髄損傷	33	20.8	20	61	4
9	M170	原発性膝関節症	31	18.9	19	26	15
10	M4125	特発性脊柱側弯症	28	13.5	13.5	19	10

＜形成外科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H024	眼瞼下垂	105	1.6	2.5	4	1
2	C443	顔面の皮膚悪性新生物	22	3.7	3	26	1
3	H020	眼瞼内反症	21	1.5	2	3	1
4	D171	体幹の皮膚及び皮下腫瘍	18	1.8	1.5	2	1
5	Z421	術後乳房再建	16	7	8.5	16	2

＜脳神経外科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	S0650	外傷性硬膜下出血	120	13.5	19	144	1
2	I610	脳内出血、皮質下出血	90	24.1	24.5	123	1
3	I652	頸動脈の閉塞及び狭窄	32	12.2	13.5	31	8
4	S0660	外傷性くも膜下出血	21	10.2	10.5	41	2
5	Z138	脳血管造影検査入院	18	2.1	2	3	2
6	G408	症候性てんかん	17	6.6	7	25	1
7	I614	小脳の脳内出血	16	22.8	18	67	1
8	I634	塞栓性脳梗塞	11	36.3	30.5	111	4
9	I613	脳幹の脳内出血	10	15.3	14	39	1
10	I600	頸動脈分岐部くも膜下出血	9	49.7	45.5	98	1

＜呼吸器外科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	C343	下葉、気管支又は肺の悪性新生物	53	10.8	14	30	8
2	C341	上葉、気管支又は肺の悪性新生物	45	10.1	12	20	8
3	J931	自然気胸	38	8	9.5	14	5
4	C780	肺の転移性悪性新生物	12	9.7	9	10	8
5	J938	続発性気胸	9	15.2	13	28	7

＜心臓血管外科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I208	労作性狭心症	24	23.5	23.5	32	16
2	I710	大動脈の解離	19	32.1	21.5	178	5
3	I350	大動脈弁狭窄症	12	23.3	22	46	16
4	I340	僧帽弁閉鎖不全症	11	32	22	97	15
5	I351	大動脈弁閉鎖不全症	10	22.2	21.5	33	16

<皮膚科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	L031	四肢の蜂窩織炎	50	13.2	15	52	3
2	T630	マムシ咬傷	14	6.9	7.5	17	2
3	B027	播種性帯状疱疹	7	8.4	8	12	6
	B022	帯状疱疹後神経痛	7	8.9	10	12	8
4	B029	合併症を伴わない帯状疱疹	6	7.8	7.5	8	7
5	L518	その他の多形紅斑	4	10.5	10.5	15	6
	B023	結膜炎を伴う帯状疱疹	4	9	8	13	7
	C447	下肢の皮膚悪性新生物	4	3.8	3	8	2

<泌尿器科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	Z125	前立腺生検入院	183	2.1	3	9	1
2	N201	尿管結石	131	5	9.5	37	1
3	C678	膀胱の境界部病巣の悪性新生物	91	9	12	73	3
4	C61	前立腺の悪性新生物	69	15.9	19	57	1
5	N10	急性尿細管間質性腎炎	57	15.2	15	95	2
6	C672	膀胱側壁の悪性新生物	48	9.6	16.5	49	4
7	C676	尿管口の悪性新生物	39	5.7	8	11	5
8	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	36	18.5	13	132	1
9	C621	精巣の悪性新生物	35	18.8	20	34	2
10	N40	前立腺肥大症	33	6	6	7	5

<産婦人科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	O800	自然頭位分娩	122	7.9	8.5	64	6
2	C541	子宮内膜の悪性新生物	121	7.8	11	98	1
3	C56	卵巣の悪性新生物	71	10	14	49	2
4	D27	卵巣の良性新生物	47	7	8.5	13	5
5	O342	既往帝王切開後妊娠	38	8.6	7.5	9	1
6	D259	子宮平滑筋腫、その他	33	6.6	7	19	2
7	D069	子宮頸部の良性新生物	32	3.9	4.5	6	3
8	O814	吸引娩出術を伴う自然分娩	31	7.5	7.5	9	6
9	N840	子宮体部ポリープ	29	3	3	3	3
10	D250	粘膜下子宮平滑筋腫	25	5	5	11	2
	N871	中等度子宮頸部異形成	25	3.4	4.5	6	3

<眼科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H250	老人性初発白内障	317	2.2	5	17	2
2	H251	老人性核白内障	188	2.1	4	6	2
3	H258	その他の老人性白内障	35	3.1	4.5	14	2
4	H353	黄斑及び後極の変性	25	7.7	9.5	24	5
5	H431	硝子体出血	18	7	8	17	4

＜耳鼻咽喉科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J36	扁桃周囲膿瘍	55	5.3	6	10	3
2	J350	慢性扁桃炎	36	8.2	10	13	7
3	H813	末梢性めまい症	28	5.1	5.5	29	2
4	H912	突発性難聴（特発性）	20	7.4	6.5	8	4
	J342	鼻中隔彎曲症	20	6.2	7	8	6
5	C73	甲状腺の悪性新生物	19	9.2	9.5	15	5
	J324	慢性汎副鼻腔炎	19	6.2	6.5	7	6
6	J328	その他の慢性副鼻腔炎	14	6.1	6.5	8	5
7	G510	ベル<Bell>麻痺	13	7.8	7.5	9	6
8	D110	耳下腺の良性腫瘍	10	6.8	6.5	7	6
	E049	非中毒性甲状腺腫	10	7.6	8	9	7
9	J353	アデノイド肥大を伴う扁桃肥大	9	7.7	6.5	8	5
	Q181	前耳介洞及びのう胞	9	3.1	3	4	2
	C12	梨状陥凹の悪性新生物	9	33.8	17	102	7

＜麻酔科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	M4806	腰部脊柱管狭窄症	7	4.7	4	5	3
2	M511	腰部椎間板ヘルニアに伴う神経根症	3	2	2	2	2
	B022	带状疱疹後神経痛	3	5	5	5	5

＜歯科口腔外科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K073	下顎水平埋伏智歯	495	2.3	2.5	6	1
2	K011	埋伏歯<impacted teeth>	74	2.6	2	3	1
3	K048	歯根のう<囊>胞	28	3.4	3.5	5	2
4	K090	発育性歯原性のう<囊>胞	27	3.9	4	9	2
5	K010	埋伏歯<embedded teeth>	14	2.7	3	4	2

＜救急科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	S011	眼瞼及び眼球周囲部の開放創	2	2	2	2	2

8. 剖検数

No.	年齢	性別	診療科	主臨床診断名
1	88	女	総合内科	敗血症 肝腫瘍 自己免疫性溶血性貧血
2	72	男	消化器内科	胃体部 Car Meta 性肝腫瘍
3	64	女	総合内科	誤嚥性肺炎 Malg リンパ腫の疑い MRSA 感染症
4	76	男	呼吸器内科	喀血
5	52	男	脳神経内科	脳膿瘍
6	90	男	救急科	循環血液量減少性ショック
7	88	男	総合内科	EB ウイルス関連免疫不全症
8	47	女	血液内科	うっ血性心不全 POEMS 症候群 好酸球増加症
9	83	女	救急科	敗血症性ショック
10	78	男	内科	溺水
11	65	女	産婦人科	子宮 Car
12	82	男	内科	誤嚥性肺炎
13	71	男	消化器内科	動脈炎 急性肺炎 心外膜炎
14	37	男	内科	出血性ショック
15	75	男	呼吸器内科	急性呼吸窮迫症候群
16	86	男	救急科	来院時心肺停止

Ⅱ 部署別業務実績

1. 診療放射線室

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 令和5年度診療放射線技師労務状況

- 有休取得：平均11.0日取得、時間外就労：年360時間超える者なし
- 男性技師延べ4名育休取得（2週～6か月）、女性技師育休取得なし

2. 高額医療機器等の導入及び更新

- 放射線治療装置（バリアン社製 TrueBeam）：令和5年12月4日より稼働
- 放射線治療計画用CT装置（シーメンス社製 SOMATOM go Sim）：令和5年12月4日より稼働
- X線骨密度測定装置（GE社製 Prodigy Fuga Advance）：令和6年3月18日より稼働
- PET-CT装置（GE社製 Discovery IQ2.0X）：令和5年7月10日導入

3. 放射線レポート未読・既読管理

- 報告書管理加算（7点）取得
- 30日以上未読状況“ゼロ”継続
- 放射線診断医が発する重要レポートに対する診断対応管理を実施

4. 医療放射線の管理

- 「放射線管理WG」及び「線量管理WG」にて、患者および医療従事者の医療放射線ひばく管理実施
- 放射線管理WG：令和5年度 計10回開催（水晶体被ばくを中心とした医療従事者の監視）
- 線量管理WG：令和5年度 計3回開催（DRLとの比較による患者被ばく線量監視）

5. CT共同研究の継続

- フジフィルムヘルスケアと共同研究継続（令和7年度末まで）

6. マンモグラフィポジションコンテストと施設認定更新

- 第33回日本乳癌検診学会学術総会にて優秀賞受賞（田島技師）
- マンモグラフィ検診施設画像認定を更新

2. 令和5年度実績

1. 診療放射線室取扱件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比（%）
一般撮影	122,429	124,397	101.61%
X線テレビ	12,593	11,834	93.97%
血管撮影	2,541	2,713	106.77%
C T	42,031	45,122	107.35%
M R I	16,419	16,306	99.31%
骨塩定量	1,894	1,970	104.01%
R I	2,594	2,308	88.97%
放射線治療	6,014	3,106	51.65%
合計	206,515	207,756	100.60%

2. MRI検査件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比 (%)
内科	4,432	4,330	97.7%
心療精神科	43	24	55.8%
小児科	153	160	104.6%
外科	569	541	95.1%
整形外科	2,468	2,237	90.6%
脳神経外科	3,344	3,154	94.3%
皮膚科	69	75	108.7%
泌尿器科	521	507	97.3%
産婦人科	658	618	93.9%
眼科	92	101	109.8%
耳鼻咽喉科	316	504	159.5%
放射線科	601	639	106.3%
麻酔科	54	66	122.2%
歯科口腔外科	58	48	82.8%
形成外科	93	126	135.5%
心臓外科	82	87	106.1%
呼吸器外科	101	96	95.1%
健診センター	1,218	1,402	115.1%
救急科	1,547	1,591	102.8%
合計	16,419	16,306	99.3%

3. X線CT検査件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比 (%)
内科	14,171	14,509	102.4%
心療精神科	6	6	100.0%
小児科	34	37	108.8%
外科	5,314	5,384	101.3%
整形外科	2,111	2,403	113.8%
脳神経外科	2,300	2,370	103.0%
皮膚科	147	231	157.1%
泌尿器科	2,058	2,317	112.6%
産婦人科	583	625	107.2%
眼科	27	44	163.0%
耳鼻咽喉科	1,240	1,710	137.9%
放射線科	791	855	108.1%
麻酔科	19	32	168.4%
歯科口腔外科	690	688	99.7%
形成外科	131	197	150.4%
心臓外科	400	471	117.8%
呼吸器外科	984	958	97.4%
健診センター	392	342	87.2%
救急科	10,633	11,943	112.3%
合計	42,031	45,122	107.4%

4. 血管撮影件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
内 科	1,827	1,943	106.3%
外 科	167	173	103.6%
麻 酔 科	310	322	103.9%
脳 神 経 外 科	83	69	83.1%
救 急 科	141	199	141.1%
形 成 外 科	1	0	0%
心 臓 外 科	2	2	100%
放 射 線 科	3	1	33.3%
産 婦 人 科	7	4	57.1%
合 計	2,541	2,713	106.8%

5. アイソトープ検査件数

	令和4年度	令和5年度	前年度比(%)
脳 血 流	342	283	82.7%
甲 状 腺	21	7	33.3%
副 甲 状 腺	9	9	100.0%
肺 血 流	14	8	57.1%
心 筋 負 荷	933	768	82.3%
心 筋 無 負 荷	145	162	111.7%
心 プ ー ル	0	0	—
肝	0	0	—
腎	10	2	20.0%
副 腎	5	8	160.0%
メ ッ ケ ル	3	0	—
消 化 管	1	1	100.0%
骨	222	193	86.9%
ガ リ ウ ム	9	11	122.2%
P E T	620	677	109.2%
そ の 他	260	179	72.7%
合 計	2,594	2,308	89.4%

その他：肺換気6件、センチネルリンパ100件、DATシンチ67件、ソフトスタチン6件

豊田厚生病院 診療放射線室 設置装置一覧

令和6年6月26日調査

設置場所	装置種類	装置名 (メーカー)		取得年月日	使用期間(年)
第1撮影室	X線一般撮影装置	UD150B-40	高津製作所	2021/6	2.0
	CALNEO GL1(長尺用)	DR-ID1305SE(14/11)	FUJIFILM	2019/9	4.0
	長尺撮影用 立臥位兼用撮影台	FM-PL1(16/03)	FUJIFILM	2019/9	4.0
	立・臥位型FPD画像読み取り装置	CALNEO Smart C77	FUJIFILM	2021/5	2.0
	FPD(14×17半切サイズ)	DR CALNEO C 1417 Wireless(SE X)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(12×14四ツ切サイズ)	DR CALNEO C mini Wireless SQ	FUJIFILM	2014/11	9.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2019/9	4.0
	CRシステム	FCR Spedia CS Plus	FUJIFILM	2014/12	9.0
第2撮影室	一般撮影装置	UD150L-40	高津製作所	2007/12	16.0
	立・臥位型FPD画像読み取り装置	DR CALNEO HC SQ(SE)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(14×17半切サイズ)	DR CALNEO C 1417 Wireless(SE X)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(12×14四ツ切サイズ)	DR CALNEO C mini Wireless SQ	FUJIFILM	2014/11	9.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2014/9	9.0
第3撮影室	一般撮影装置	UD150L-40	高津製作所	2007/12	16.0
	立・臥位型FPD画像読み取り装置	DR CALNEO HC SQ(SE)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(14×17半切サイズ)	DR CALNEO C 1417 Wireless(SE X)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(12×14四ツ切サイズ)	CALNEO Smart C12	FUJIFILM	2021/5	2.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2014/9	9.0
第4撮影室	一般撮影装置	UD150L-40	高津製作所	2007/12	16.0
	立・臥位型FPD画像読み取り装置	DR CALNEO HC SQ(SE)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(14×17半切サイズ)	DR CALNEO C 1417 Wireless(SE X)	FUJIFILM	2014/11	9.0
	FPD(12×14四ツ切サイズ)	DR CALNEO C mini Wireless SQ	FUJIFILM	2014/11	9.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2014/9	9.0
第5撮影室	乳房X線撮影装置	AMULET Innovality	FUJIFILM	2016/7	7.0
	マンモグラフィ画像ビューア	MammoRead	東陽テクニカ	2007/12	16.0
	マンモグラフィ画像診断ワークステーション	Mammary	クライムメディカル	2019/1	5.0
第6撮影室	CR対応X線パノラマ撮影装置	AutoAZ3000CMR	朝日レントゲン	2007/12	16.0
	CR読取システム	FCR XL-2	FUJIFILM	2007/8	16.0
第7撮影室	一般撮影装置	UD150L-40	高津製作所	2007/12	16.0
	臥位CRシステム	FCR VELOCITY T	FUJIFILM	2003/3	21.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2014/9	9.0
第8撮影室	X線骨密度測定装置	Prodigy Fuga Advance	GEヘルスケア	2024/3	0.0
救命救急センター	一般撮影装置	UD150L-40	FUJIFILM	2007/12	16.0
	立・臥位型FPD画像読み取り装置	DR CALNEO HC SQ(SE)	FUJIFILM	2018/3	6.0
	FPD(14×17半切サイズ)	CALNEO Smart S47	FUJIFILM	2018/3	6.0
	FPD(12×14四ツ切サイズ)	DR CALNEO C mini Wireless SQ	FUJIFILM	2014/11	9.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2014/9	9.0
第1透視室	X線透視撮影装置	Sonialvision Safire	高津製作所	2007/12	16.0
第2透視室	X線透視撮影装置	VersiFlex VISTA	FUJIFILM	2021/9	2.0
第3透視室	X線透視撮影装置	Ultimax- I	CANON	2011/3	13.0
第1CT室	全身用X線CT装置	SCENARIO VIEW 64	FUJIFILM	2021/1	3.0
	造影剤注入装置	Dualshot GX7	Nemoto	2021/2	3.0
第2CT室	マルチスライスCT SENARIA(64列)	SCENARIO 64	FUJIFILM	2012/11	11.0
	造影剤注入装置	Dualshot GX7	Nemoto	2012/11	11.0
第3CT室	マルチスライスCT SENARIA(64列)	SCENARIO VIEW 64	FUJIFILM	2023/5	0.0
	造影剤注入装置	Dualshot GX7	Nemoto	2012/11	11.0
	炭酸ガス送気装置	KSC-130(12/08)	Nemoto	2015/3	9.0

設置場所	装置種類	装置名 (メーカー)		取得年月日	使用期間(年)
第1 MRI室	3T 磁気共鳴断層撮影装置	MAGNETOM Skyra(10/02)	シーメンス	2017/1	7.0
	造影剤注入装置	SONICshot 7	Nemoto	2017/1	7.0
第2 MRI室	磁気共鳴断層診断装置(1.5T)	MAGNETOM Aera 1.5T(17/11)	シーメンス	2019/1	5.0
	造影剤注入装置	SONICshot 7	Nemoto	2019/1	5.0
第3 MRI室	3T 磁気共鳴断層撮影装置	Ingenia Evolution 3.0T	フィリップス	2023/10	0.0
	造影剤注入装置	SONICshot 7	Nemoto	2023/10	0.0
PET-CT室	ポジトロン断層撮影装置(PETCT)	Discovery IQ2.0X	GEヘルスケア	2023/7	0.0
	自動投与装置	UG-1000M	ユニバーサル技研	2023/7	0.0
SPECT室	ガンマカメラ装置	Infinia 3	GEヘルスケア	2007/12	16.0
第1心臓カテーテル室	バイプレーン血管撮影システム	TriniasB8uityedition	島津製作所	2019/9	4.0
	アンギオ用造影剤注入装置	Zone Master Neo	Nemoto	2019/9	4.0
第2心臓カテーテル室	バイプレーン血管撮影システム	TriniasB12uityedition	島津製作所	2019/9	4.0
	アンギオ用造影剤注入装置	Zone Master Neo	Nemoto	2019/9	4.0
ハイブリッド手術室	血管造影X線診断装置	Azurion7B20/15 R2.1	Philips	2021/3	3.0
	アンギオ用造影剤注入装置	PRESS DUO elite	Nemoto	2021/3	3.0
放射線治療室	放射線治療装置	TrueBeam 120MLC	バリアン	2023/9	0.0
	放射線治療計画装置	RayStation	レイサーチ・ジャパン	2023/9	0.0
シミュレータCT室	治療計画用全身X線CT診断装置16列	SOMATOM go Sim	シーメンス	2023/9	0.0
	多相電動式造影剤注入装置	Smart Shot	Nemoto	2023/9	0.0
手術室	移動型X線透視診断装置(Cアーム)	OPESCOPE ACTIVO WHA-200	島津製作所	2011/5	12.0
	移動型X線透視診断装置(Cアーム)	CiosSelect	シーメンス	2019/9	4.0
	移動型X線透視診断装置(Cアーム)	OEC Brivo Essential	GEヘルスケア	2014/3	10.0
	移動型X線透視診断装置(Oアーム)	O-arm	メドトロニクス	2022/1	2.0
	移動型X線ポータブル撮影装置	Tiara(緑)	FUJIFILM	2021/3	3.0
	FPD(14×17半切サイズ)	CALNEO Smart S47	FUJIFILM	2021/3	3.0
2F・ICU	移動型X線ポータブル撮影装置	MobileArtEvolutionMX7	島津製作所	2017/10	6.0
	ポータブル撮影対応モバイルコンソール	DR-ID 300CL	FUJIFILM	2017/3	7.0
	FPD(14×17半切サイズ)	CALNEO Smart S47	FUJIFILM	2017/6	6.0
3F病棟	移動型X線ポータブル撮影装置	MobileArt Evolution(MX8)	島津製作所	2024/1	0.0
	ポータブル撮影対応モバイルコンソール	DR-ID 300CL	FUJIFILM	2024/1	0.0
	ポータブル対応FPD読取システム	CALNEO Smart S47	FUJIFILM	2024/1	0.0
4F病棟	移動型X線ポータブル撮影装置	Tiara(紫)	FUJIFILM	2021/3	3.0
	FPD(14×17サイズ)	CALNEO Smart S47	FUJIFILM	2021/3	3.0
感染病棟	移動型X線ポータブル撮影装置	Tiara(黄)(救外に貸出)	FUJIFILM	2021/3	3.0
	FPD(17×17サイズ)	CALNEO Smart S77	FUJIFILM	2021/3	3.0
救命救急センター	移動型X線ポータブル撮影装置	MUX-100HJE	島津製作所	2007/12	16.0
	CR読取システム	FCR SppediaCS	FUJIFILM	2007/12	16.0
健診胸部X線撮影室	胸部X線撮影装置	UD150L-40	島津製作所	2021/6	2.0
	立位型FPD画像読み取り装置	CALNEO Smart C77	FUJIFILM	2021/5	2.0
	画像処理・解析装置	Console Advance	FUJIFILM	2021/5	2.0
健診乳房X線撮影室	乳房X線撮影装置	AMULET Innovality	FUJIFILM	2022/3	2.0
	マンモグラフィ画像診断ワークステーション	Mammary	クライムメディカル	2019/1	5.0
健診透視室14	X線透視撮影装置	FLEXAVISION F3	島津製作所	2017/3	7.0
健診透視室15	X線透視撮影装置	FLEXAVISION F4	島津製作所	2023/3	1.0
健診透視室16	X線透視撮影装置	FLEXAVISION F4	島津製作所	2023/3	1.0

2. 臨床検査室

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 診療機能への貢献

- ・呼吸器手術材料のホルマリン固定：依頼時全件実施（10月より）。
- ・臨床検査技師による尿路バックからの検体採取を開始。
- ・臨床検査技師によるERへの診療支援を開始（平日診療日：午後）。
- ・安心・安全な診療を目的にパニック値報告に対するフローチャートを作成。
- ・自己血フィブリン糊作製を2023年8月より開始。

2. 業務改善と効率化

- ・働き方改革による超過勤務削減を実施し、昨年度比20%（560時間）削減。
（令和3年度：3,966時間、令和4年度：2,795時間、令和5年度：2,235時間）。
- ・臨床検査室「やりがい」調査：やりがい満足度77%。
- ・ERにおける超音波検査コスト漏れ改善への取り組み実施（約100万円増加/月）。
- ・外注委託検査会社の見直しによるコスト削減（約135万円増加/年）。
- ・自己血フィブリン糊作製による増収（昨年度67件実施 約220万円増加）。

3. チーム医療および医療安全

- ・能登半島地震に対してJMATから日本臨床衛生検査技師会を通じて4名の技師を派遣。
- ・ハイブリットOPE室でのLAAC実施に向けた担当者の育成（2名）。
- ・ERへの技師派遣と新たな支援業務の確立（2名）。
- ・健康管理センターにおける超音波業務支援（2～3日/月）。
- ・造影超音波検査時の薬剤投与（医師より委託された検査）（34件/年）。
- ・骨髄検査業務の介助と骨髄像カウント・レポート作成（354件/年）。
- ・持続血糖測定器リブレの装着業務（35件/年）。
- ・未読管理システムを利用した病理細胞・生理レポートの未読管理を実施。
（令和5年度：病理細胞未読率0%、超音波検査未読率0%）
- ・初回肝炎ウイルス検査（HBs抗原およびHCV抗体）陽性者に対する医師への報告と患者への通知について管理（令和5年度患者報告率：HBs抗原86%、HCV抗体82%）。

4. 人材育成と施設認証

- ・ER担当技師育成：1名。
- ・学会・研修会等の講師依頼：14件。
- ・学会・研修会での演題発表：13演題。
- ・認定資格取得：10種14名。
（超音波検査士（消化器領域）：1名、緊急臨床検査士：2名、JHRS認定心電図専門士：2名、細胞検査士：1名、二級臨床検査士（免疫血清学）：1名、心電図検定1級：2名、心電図検定2級：1名、植込み型心臓デバイス認定士：1名、登録ソノグラファー：1名、精度管理責任者：2名）。



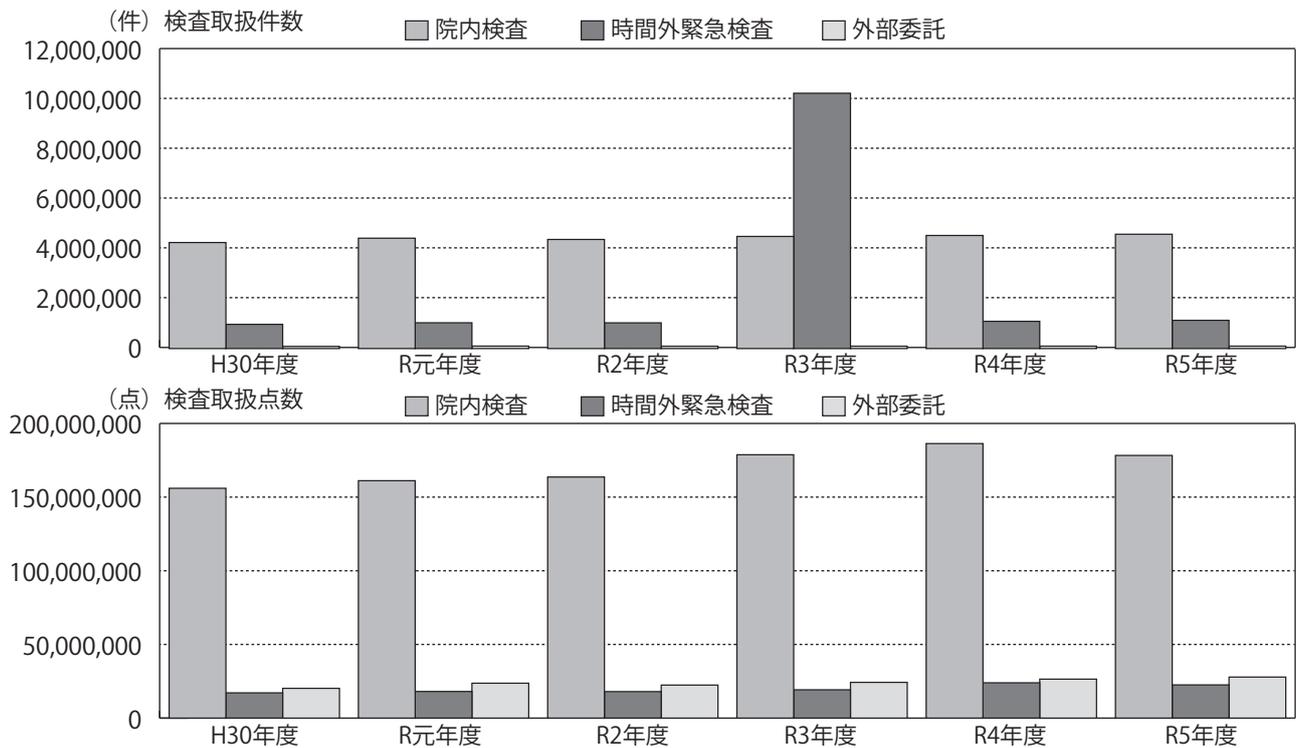
2. 令和5年度実績

1. 整備機器（高額医療機器および固定資産機器）

部署	機器名	機種名	メーカー	数量
生理検査	一酸化窒素ガス分析装置	NIOX VERO	チェスト	1
生理検査	超音波画像診断装置	Aplio i700	キャノンメディカルシステムズ	1
輸血検査	全自動輸血検査装置	ビジョンSwift	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス	2
輸血検査	無菌接合装置	TSCD-II ME-SC203A	テルモ	1
輸血検査	血液保冷库	MBR-506T4-PJ	PHC	1
血液一般	便潜血測定装置	OC-SENSOR PLEDIA	栄研化学	1
生化学免疫	卓上冷却遠心機	S300TR	久保田商事	1
微生物遺伝子	CO ₂ インキュベーター	MCO-17AICUV-PJ	PHC	1

2. 検査取扱件数・点数

検査大項目	検査小項目	令和5年度件数	令和5年度点数
一般検査	尿	135,944	3,591,863
	便	25,964	1,064,127
	体液	3,264	68,891
血液検査	血液	549,748	15,240,369
輸血検査	輸血	73,710	4,012,565
臨床化学	化学Ⅰ	2,971,357	38,281,913
	化学Ⅱ	112,441	13,958,023
	血液ガス	41,743	5,802,277
	負荷試験	137	22,200
免疫検査	免疫	313,057	19,375,095
微生物検査	一般細菌	83,587	11,394,158
	核酸検査	315	116,529
	その他	2,567	0
病理検査	病理組織	12,212	12,027,530
	細胞診	12,914	2,406,346
生理検査	肺機能	16,586	1,616,880
	心電図	53,963	13,267,500
	超音波	39,401	23,469,420
	脳波	2,046	2,672,440
	その他	30,741	3,123,079
その他	採血・検体採取	107,715	3,856,541
	病理解剖	16	400,000
	検査外業務	602	0
院内合計		4,590,066	175,767,746
外部委託		98,024	27,461,790
総合計		4,688,090	203,229,536
時間外緊急検査		1,133,920	22,224,876



3. 外注検査依頼状況

S R L		令和5年度
保険収載分	件数	66,229
	点数	19,595,483
薬物濃度	件数	1,448
	点数	680,560
保険未収載	件数	1,808
	支払金額	7,173,757
B M L		令和5年度
保険収載分	件数	58,518
	点数	7,151,094
L S I メディエンス		令和5年度
保険収載分	件数	2
	点数	4,253

*外注の保険収載・薬物分は稼働点数、未収載は支払い金額を計上

4. 加算件数・点数

項目	令和5年度	
	件数	点数
時間外加算	7,302	1,460,400
入院初回加算	547	10,940
検体管理加算 I	96,495	3,859,800
検体管理加算 IV	1,280	640,000
外来迅速加算	67,241	2,755,553
病理診断料(加算Ⅱ含)	24,760	8,532,440
輸血管理料・適正加算 I	4,738	782,900
骨髓診断加算	220	52,800
国際標準検査管理加算	7,060	282,400
合計	209,643	18,327,233

5. 検査判断件数・点数

項目	令和5年度	
	件数	点数
尿	27,645	939,930
血液検査	83,155	10,394,375
臨床化学Ⅰ	83,999	12,095,856
臨床化学Ⅱ	29,366	4,228,704
免疫血清	65,334	9,408,096
微生物検査	11,756	1,763,400
遺伝子・染色体	863	86,300
病理細胞検査	1,749	227,370
生理検査	6,308,511	988,560
合計	310,175	40,132,591

6. 外部精度管理調査結果

調査年度	外部精度管理種類	評点
令和5年度	日本医師会	95.9点 D: 0
令和5年度	日本臨床衛生検査技師会	A + B : 261/264(98.8%) C: 1 D: 0
令和5年度	愛知県臨床検査技師会	A + B : 210/210(100%) C: 0 D: 0

7. 臨床検査室認証・認定

認証・認定団体	令和5年度
日臨技精度保証施設認証	認証
日本臨床細胞学会施設認定	認定
日本臨床細胞学会教育研修施設認定	認定
日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度認証施設(I&A)	認定
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設	認定
ISO15189施設認定(RML02250)	認定

8. 学会認定資格者

学会認定資格	令和5年度
超音波検査士	13名
細胞検査士	6名
輸血認定技師	2名
細胞治療認定管理師	1名
第1種衛生管理士	5名
衛生工学衛生管理者	2名
認定臨床微生物検査技師	1名
認定血液検査技師	4名
認定心電図検査技師	1名
認定病理検査技師	3名
認定一般検査技師	1名
緊急検査認定技師	2名
緊急臨床検査士	21名
二級臨床検査士(病理学)	2名
二級臨床検査士(微生物学)	6名
二級臨床検査士(血液学)	4名
二級臨床検査士(免疫血清学)	1名
認定腎臓病検査技師	1名
心電図検定(一級・二級)	9名
血管診療技師	1名
術中脳脊髄モニタリング認定技術師	3名
専門技術師(筋電図・神経伝導分野)	2名
専門技術師(脳波分野)	2名
JHRS認定心電図専門士	7名
植込み型心臓デバイス認定士	1名
精度管理責任者	6名
認定サイトメトリー技術者	1名
医用質量分析認定士	1名
リウマチ学会登録ソノグラファー	5名
特化物及び四アルキル鉛等作業主任者	4名
睡眠健康指導士(初級)	1名

3. リハビリテーション室

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 教育活動として、臨床実習生の受け入れの取り組み

- ・リハビリ学生：3校3名 ・他職種の臨床実習協力：29名

2. 地域の支援活動

- ・介護認定審査会協力 【人数】1名派遣【期間】通年【頻度】2回／1か月
- ・JAあいち豊田広報誌「グリーンボイス」健康の話へ投稿
- ・豊田市療法士幹事会への参加

3. 職員の資質向上

- ・部署内勉強会（全体会：3回／年、職種別勉強会：理学2回／年、言語5回／年、作業10回／年）
- ・他職種勉強会・研修会への講師派遣（院内）10回（院外）7回
- ・学会発表 1題（ST：0題、PT：1題、OT：0題）
- ・臨床実習指導者講習会修了者 PT：2名

4. 診療機能の充実

- ・特定集中治療室早期離床・リハビリテーション加算への参加協力の維持。
- ・褥瘡回診への参加。
- ・PCTラウンドへの参加。

2. 令和5年度実績

1. 部門別件数・単位数

			理学療法		作業療法		言語聴覚療法	
			外来	入院	外来	入院	外来	入院
個 別 療 法	脳血管疾患等 リハ料	患者数	386	10,577	210	7,984	24	4,263
		単位数	663	12,972	329	10,630	43	5,845
	廃用症候群 リハ料	患者数	0	8,165	0	1,376	0	889
		単位数	0	9,061	0	1,623	0	1,509
	運動器リハ料	患者数	1,627	12,424	2,288	1,896		
		単位数	2,724	16,929	3,125	2,334		
	呼吸器リハ料	患者数	17	10,690	2	2,903	0	4,506
		単位数	37	13,024	6	3,729	0	7,614
	心大血管疾患 リハ料	患者数	743	7,751	0	495		
		単位数	1,474	9,553	0	618		
	がん患者 リハ料	患者数		2,870		307		126
		単位数		3,354		375		188
早期加算				48,462		14,776		12,136
退院前訪問リハ指導				0		0		0
退院時リハビリ指導				1,921		523		13
リハビリ総合計画評価			536	4,478	435	1,031	4	38
摂食機能療法								904
件数合計			2,773	52,477	2,500	14,961	24	9,784
単位数合計			4,898	64,893	3,460	19,309	43	15,156
診療点数			1,133,279	17,848,394	790,655	5,539,724	11,735	4,020,091

- ・心肺運動負荷試験 年間41件

2. 科別件数

	理学療法		作業療法		言語聴覚療法	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院
内科	148	2,003	18	809		628
精神科						
脳神経内科	50	4,693	44	3,861	10	2,530
呼吸器内科	11	4,061	2	1,341		729
消化器内科		3,058	22	521		575
循環器内科	186	7,420	3	506	1	1,000
小児科		10				
外科	12	3,836	2	419		516
整形外科	1516	7,471	2,235	934		95
形成外科		245	27	31		10
脳神経外科		3,180	6	2,890	11	1,305
呼吸器外科		804		353		26
心臓外科	461	1,577		138		97
小児外科						
皮膚科	1	361		22		12
泌尿器科		1,194		114		66
血管外科		607		14		26
乳腺科						
産婦人科		605		65		11
眼科						
耳鼻咽喉科	48	287		18	2	110
放射線科						
麻酔科						
アレルギー科						
リウマチ科						
リハビリ科						
感染症科						
歯科口腔外科		44				9
消化器外科		1,642		213		27
内分泌代謝科	4	732	2	56		222
腎臓内科		1,369		258		418
膠原病内科						
血液内科		822		148		87
総合内科		27,96		1,059		796
健診科						
緩和ケア科						
肝臓内科		349		26		18
脊椎外科	336	2,397	137	695		86
医事						
新生児科						
救急科		914	2	470		385
合計	2,773	52,477	2,500	14,961	24	9,784

4. 臨床工学室

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 医療機器における安全教育及び医療機器研修会の実施

- ・ Safety plusを活用した安全教育をはじめ、医師、看護師、臨床工学技士を中心に47回にも及ぶ医療機器研修会、勉強会を行った。

2. 地域医療連携の強化

- ・ 西三河北西部地区の透析関連機関に呼びかけ、定期定な会議を開催し災害対策への取り組みと連携の強化を図った。

3. タスクシフト・ワークシェアの推進

- ・ 集中治療室においてSBT（人工呼吸器離脱試験）を積極的に取り入れ、医師の夜間呼び出し減少に取組み成果を上げた。

4. 学会発表・論文投稿の推進

- ・ 学会発表、シンポジスト、パネリスト／25演題 ・ 座長、講師、講演、寄稿／12回
20名のスタッフに対して非常に多くの学術参加であり、また病院のブランディングにも貢献した。

5. MACT（モニターアラームコントロールチーム）の発足

- ・ 臨床工学室が中心となり医療安全管理部、RRTと組織横断的に情報を共有、患者監視モニターに関する諸問題の検討を行い、安全な医療の提供と質の向上を目的に活動を開始した。

6. 更新医療機器の充実

- ・ 院内のシリンジポンプ全台を更新。

7. 2023年度の業務実績

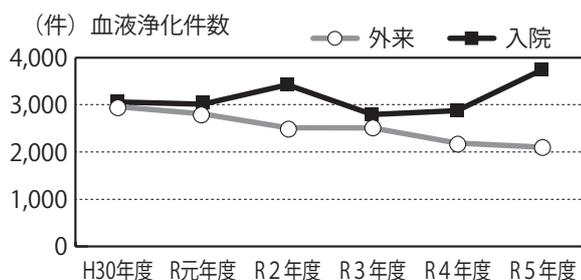
業務内容		2023年	2022年	比較(%)		
保守 管理	医療機器点検	67,187	47,795	141		
	医療機器修理	1,041	986	106		
診療 支援	心 カテ	CAG・PCI	1,290	1,154	112	
		ペース メーカー	インプラント	263	232	113
			チェック	8,311	7,530	110
		アブレーション	455	474	94	
	特殊	補助循環装置	110	95	116	
	血液 浄化	慢性期(透析)	5,487	4,800	114	
		特殊血液浄化	359	264	136	
	手術 室	体外循環装置	91	71	128	
		自己血回収	174	175	99	
		その他	494	307	161	
	高気圧酸素療法	1,747	1,545	113		
	人工呼吸器監視	5,102	3,447	148		
	腹水ろ過	63	30	210		
	血液採取業務	9	5	180		
	診療支援その他	9,923	8,217	121		
教育	医療機器安全研修	35	19	184		
合 計		102,131	77,146	132		

- ① 業務全体では前年比132%と増加が著しい。
- ② 医療機器点検では新規導入機器の増加に伴い、前年比141%、+19,392件と顕著。
- ③ 診療支援業務においても15項目中13項目で前年を上回っており、その全てにおいて前年比110%を超えている。残りの2項目においても前年比99%と94%であり、診療支援業務全体で増加がみられる。
- ④ 機器管理業務全体における前年比は140%、診療支援業務全体においても前年比で121%と、両業務において件数の増加がみられた。
- ⑤ スタッフ稼働率は前年の15.0件/人から20.7件/人と飛躍しており過去最高の稼働率であった。

2. 令和5年度実績

1. 血液浄化

分類	件数
外来	2,104
入院	3,742
計	5,846
末抹血幹細胞	9
腹水濾過濃縮	63
シャントエコー	1,463

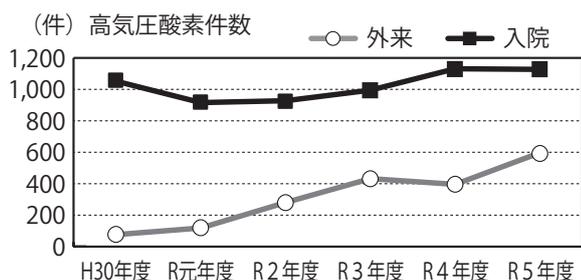


浄化法別分類	件数
血液透析 HD	1,750
血液濾過透析 I-HDF	3,923
ECUM	136
血漿交換 PE/SePE	45
血液吸着 DHP	19
持続血液浄化療法	134

患者動向分類	件数
新規導入	114
他院転入	307
転出	366
死亡 慢性	12
死亡 急性	24

2. 高気圧酸素

分類	件数
外来	605
入院	1,142
計	1,747



科別分類	件数
内科	450
外科	211
整形外科	85
耳鼻科	712
泌尿器科	226
皮膚科	13
形成外科	44
その他	6
計	1,747

疾患別分類	件数
突発性難聴	646
骨髄炎	192
腸閉塞	236
難治性潰瘍	124
放射性膀胱炎	168
脊髄神経疾患	279
その他	102
計	1,747

3. 心臓カテーテル

分類	件数
緊急症例	375
予定症例	915
計	1,290

心カテ分類	件数
PCI	459
CAG	831
アブレーション	445
3D mapping	445
CIEDs 新規	87
CIEDs 交換	43
CIEDs チェック	7,831
体外式ペースメーカ	480日 (133)
IABP	373日 (92)
PCPS	85日 (18)

4. 内視鏡

分類	件数
GIF	2,967
CF	810
EUS	61
ERCP	75
ESD	53
止血術	7
小腸内視鏡	8
カプセル内視鏡	13
計	3,995

5. 自己血回収術件数

科別分類	件数
心臓外科	107
血管外科	10
整形外科	161
その他	4
計	282

6. 心臓血管外科

分類	件数
緊急症例	13
予定症例	75
計	88

症例分類	件数
虚血性心疾患	33
弁膜症	46
大動脈疾患	23
その他	6
計	108

7. Navigation

科別分類	件数
脳外科	45
耳鼻科	54
整形外科	149
計	248

8. ロボット手術支援

科別分類	件数
外科	105
泌尿器	39
婦人科	48
呼吸器外科	6
計	198

9. TAVI

分類	件数
経大動脈弁治療	31

10. 集中治療補助

分類	件数
診療支援業務	4,829

詳細	件数
人工呼吸器管理	4,227
血液浄化	319
補助循環管理	137
POCUS	146
計	4,829

11. 機器管理

修理分類	件数
院内修理	947
委託修理	94
計	1,041

修理機器分類	件数
心電図モニター	265
人工呼吸器	15
輸液ポンプ	86
血圧計	77
パルスオキシメーター	38
血液浄化関連装置	285
その他	220
計	986

機器点検件数	件数
点検件数	67,187

5. 栄養管理室

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 医療の質向上

- ・栄養食事指導の強化
年間4,000件以上を目標とする。
入退院支援センターと連携した術前・術後の栄養指導を強化する。
- ・ICU、HCU、2A病棟（循環器内科・心臓外科）の栄養関連のサポートを強化する。

2. 医療安全の充実

- ・HACCPに基づく衛生基準の実施
主厨房およびパントリー洗浄業務の見直し

3. 人材育成

- ・厚生連栄養士会相互啓発研修会への参加
- ・厚生連栄養士会新人教育プログラムの実施
- ・部署内勉強会（管理栄養士：7回／年）
- ・学会・研究会発表8題（管理栄養士）

4. 地域との連携強化

- ・JAとの連携継続、健康啓発活動（JA広報誌への投稿、JA料理教室への講師派遣）

2. 令和5年度実績

1. 令和5年度 食事提供数

① 患者食

	食数(食)	比率
常食	141,171	30.2
軟食	99,276	21.2
流動食	98	0.3
特別食 A	134,622	28.8
特別食 B	91,089	19.5
合計	467,359	100.0%

② 賄食

	食数(食)
職員食	81,804
付添食	0
合計	81,804

2. 令和5年度 診療報酬算定

① 個人栄養食事指導

	外来(人)	入院(人)
糖尿病	771	622
心臓・高血圧症	217	929
脂質異常症	166	36
肥満	2	0
腎臓病	232	196
肝臓病	14	46
糖尿病透析予防	201	0
その他	169	873
合計	1,772	2,702

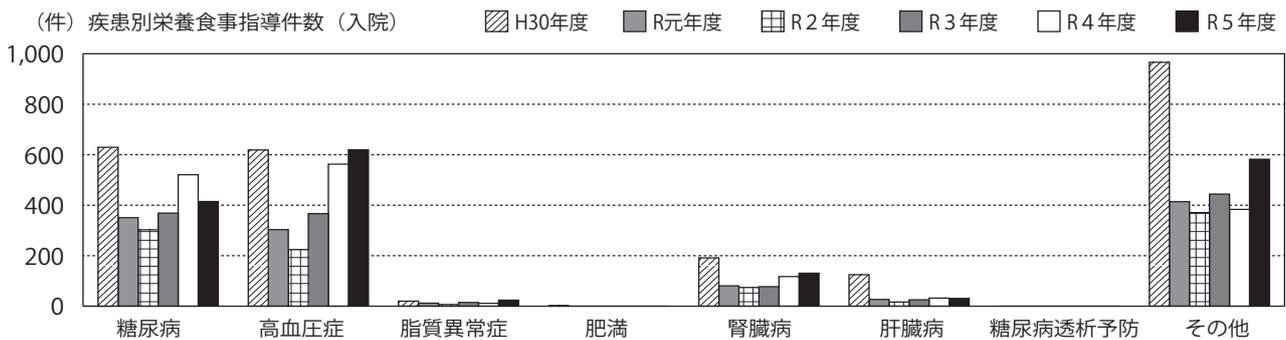
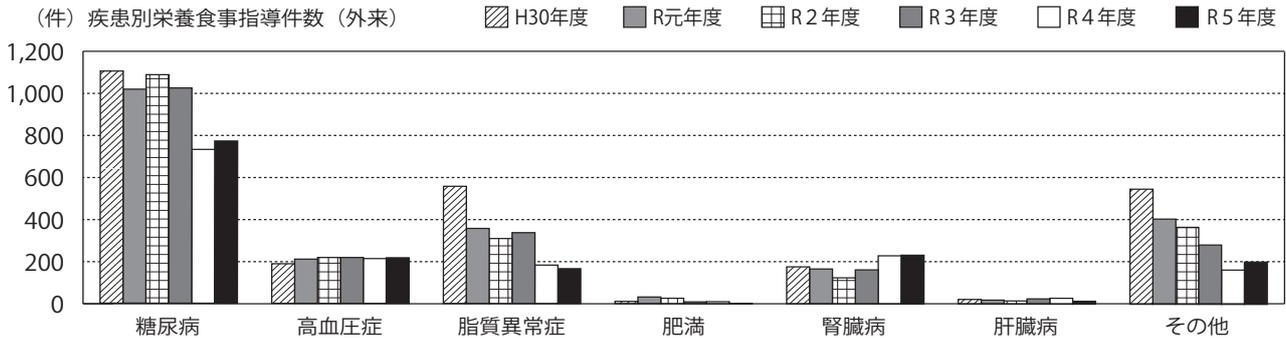
② 集団栄養食事指導

	(人)
糖尿病	34
腎臓病	0
合計	34

③ チーム医療

種類	各種算定名称	算定件数 (件)
ICU・HCU	早期栄養介入管理加算	250点：722
		400点：75
NST (栄養サポートチーム)	NST加算	200点：488
	歯科医師連携加算	50点：210
緩和ケアチーム	個別栄養食事管理加算	70点：59
摂食嚥下	摂食嚥下機能回復体制加算2	190点：496
化学療法	連携充実加算	150点：534

その他：褥瘡回診



3. 令和5年度 院内・院外活動

① JAあいち豊田料理教室

	(回数)	(人)
松平教室	12	78
保見教室	24	198
高橋教室	36	309
三好教室	24	181
合計	96	766

② 市民講座

	食数(食)	
腎臓病教室	2	57
糖尿病教室	2	25
合計	4	82

4. 認定資格者

認定資格	令和5年度
NST専門療法士	2名
臨床栄養代謝専門療法士	1名
日本糖尿病療養指導士	2名
病態栄養専門管理栄養士	4名
在宅訪問管理栄養士	1名
在宅栄養専門管理栄養士	1名
給食用特殊料理専門調理師	1名
病院調理師	2名

6. 薬剤部

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 診療機能の充実

- ・入退院支援センター業務体制の整備
 (入退院支援センターおよび持参薬外来における薬剤師の業務手順確立、薬剤師面談場所の一元化)
 →薬剤師面談場所を20番入退院支援センターに一元化した。また、入退院支援センターおよび持参薬外来の業務手順を確立し、標準業務手順書を作成した。
- ・通院治療センターにおける服薬指導の充実
 →年間1,900件(月平均158件)の指導を実施した。適宜、処方提案やプレアボイド報告などを行った。
- ・免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象(irAE)対応アルゴリズムの作成
 →追加項目として皮膚障害、肝障害のマニュアルを作成した。化学療法委員会にて承認され、免疫関連有害事象(irAE)対応マニュアルを改訂した。

2. 治験業務の充実

- ・院内治験コーディネーターを利用した治験の充実(治験組み入れ患者数10件/年)
 →令和5年度における治験組み入れ患者数は9件となり、目標は未達となった。しかしながら、治験組み入れ患者数および治験に関連する収入は過去5年間で最高値となった。

3. 医薬情報業務の充実と病棟薬剤業務における薬物治療管理の推進

- ・機能評価係数I後発医薬品使用体制加算3の維持(後発医薬品使用割合80%以上)
 →9品目の先発医薬品採用薬を後発医薬品に切り替えた。また、特殊使用で処方されていた先発医薬品1品目を後発医薬品区分とした。令和5年度の使用割合(数量ベース)は84.2%であった。
- ・病棟薬剤師による入院時持参薬報告の一元化
 →薬剤部内のシフト配置を中央持参薬報告業務2人体制から病棟持参薬報告業務2~4人体制に変更した。結果として、入院受付から提出された持参薬の報告書作成を主とした業務に追加して、緊急入院した患者の持参薬回収・報告書を作成する体制を構築した。令和5年度4月に病棟担当薬剤師が病棟で作成した持参薬報告書件数は506件、所要時間4,337分であったものを、令和5年度3月には176件(65%減)、所要時間1,620分(63%減)とし、病棟担当者が患者に介入できる時間を増加させた。
- ・薬剤管理指導業務の推進(平均1,800件/月)
 →薬剤管理指導件数は通年で22,540件を算定し、平均は1,878件/月であった。
- ・薬剤総合評価調整加算の充実(算定目標60件/年)
 →薬剤総合評価調整加算は229件/年であった。
- ・薬剤に関する研修会の充実(関連部署への情報提供)
 →前年度年間16回開催であったが、令和5年度は年間103回(前年比643.8%)に上昇した。
- ・プレアボイド報告の推進(20件以上/月)
 →通年で450件、37.5件/月を報告した。
- ・術後疼痛管理チーム加算の推進
 →看護部門の担当者が決定せず術後疼痛管理チーム加算の算定開始には至らなかった。しかしながら、来年度の算定開始に向けて薬剤部の研修修了者が合計2名に増員し、実際の回診方法などについて医師と情報共有した。

4. 病院薬剤師連携および薬-薬連携の強化

- ・医療情報室と連携した電子処方箋への対応

- 適時医療情報室に進捗確認を行った。今年度中に着手できる事がなく、状況の把握に終始した。
- ・地域薬剤師会・保険薬局との連携強化
 - 主に医薬品の供給状況について、地域薬剤師会・保険薬局と連携を図り、対応が絶対的に立ちいかなくなる状況は回避した。簡素化プロトコルについては院内の一部部署との内容協議に留まった。
- ・退院時薬剤情報連携加算の算定推進（70件以上／年）
 - 退院時薬剤情報連携の算定件数は135件／年であった。
- ・地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修の充実
 - 月3回の連携研修を実施、年4回の薬剤師勉強会への参加、さらに研修報告会（5／16開催）にむけて研修生と協議し、症例ベースの報告会へと変更した。
- ・通院治療センターにおける連携充実加算の算定推進（40件以上／月）
 - 通年で596件、平均49.6件／月を算定した。

5. 病院機能評価の準備

- ・採用医薬品の見直しと整理
 - 規約について委員会で協議し、薬価策定が原価計算方式の医薬品について考え方を変更した。使用頻度が高い薬品、診療部より採用申請があった医薬品30品目を仮採用医薬品とした。使用頻度が低い医薬品を中心に23品目を採用削除医薬品とした。
- ・医薬情報室、病棟業務課との連携強化
- ・副作用発現状況の把握と情報集約と活用（方略の見直し）
 - 前年はPMDAに副作用報告した内容のみ把握していたが、軽微な副作用についても情報を集積できるようになった。206件／年の副作用情報の入力を確認した。
- ・開封後の調剤用医薬品の使用期限管理方法の確立
 - 倉庫在庫は棚卸し時に期限チェックを実施し、期限切迫薬剤（10ヶ月以内）はリストアップして返品可能な薬剤は問屋へ返品した。
 - 調剤棚は不動薬剤（10ヶ月）及び返品不可な期限切迫薬剤は箱で棚詰し、期限が把握できる運用とした。調剤棚端数は繁用薬剤でも端数が不動となって期限切迫の恐れがあるため、実棚時（3、9月）に期限が把握できない薬剤は破棄する運用とした。
- ・ゼロレベル（ヒヤリハット事例）のインシデントレポート提出の推進
 - 「事象レベル0」のレポート提出基準を設けインシデントレポートの提出を推進した。6件／年提出した。

6. 認定・専門資格取得の推進および教育体制の整備

- ・各種専門・認定薬剤師の資格取得への指導・教育
 - 各種専門・認定薬剤師資格取得のため、講習会および学会等に参加した。
 - 以下に2023年度新規資格取得者数を示す。
 - ・日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師 1名
 - ・日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師 1名
 - ・日本薬剤師研修センター漢方薬生薬認定薬剤師 1名
 - ・日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 3名
 - ・日本アンチドーピング機構 公認スポーツファーマシスト 1名
 - ・NST専門療法士認定規程に定める実地修練修了者 1名
 - ・術後疼痛管理研修修了者 1名
- ・長期実務実習生の受入れ拡大に伴う教育体制の整備及び指導薬剤師の育成
 - 実務実習サブ担当は、業務マニュアルおよびメイン担当者の指示に従って実習中のスケジュール管理や準備を行うことが出来た。

- 薬剤部実務実習手順書を改訂し、これまでカリキュラムで未実施であったSBOsを実施する体制とした。
- 2023年度は実務実習生10名（過去最高数）を受け入れ指導した。（2021、2022年度7名）

7. 供給室（SPD）の管理体制の充実

- ・医薬品の管理強化（規制医薬品、高額医薬品等）
 - 症例数の少ない高額医薬品に関してはスズケンのキュービックスを利用し当日払出で対応。
 - また、アルフレッサの冷蔵薬品管理システムNOVUMを導入し、アルフレッサ、メディセオ、中北薬品からの高額冷所医薬品についても返品対応可能な体制を整えた。キュービックス及びNOVUMで対応できない薬品に関しては、当日配送依頼で実施確認後に払出を行い管理。規制医薬品に関してはその都度卸しと医薬品情報室と連携を取り在庫の確保に努めた。
- ・医療材料の管理強化（コスト削減、定数見直し、物品システムの活用等）
 - コロナ禍や燃料費の高騰から非償還品の値上げが多かったが、ホギ手術キットの交渉を行い12月より約300万円／年を値下げした。EEGセンサーの変更を行い約300万円／年の費用を削減した。
- ・不動薬品および不動材料の整理及び削除
 - 各部署に関しては年2回、在庫の回転率についてリストを作成し定数の削除・変更の依頼を行った。倉庫在庫に関しては月1回回転率を確認し在庫の削減に努めた。また、不動在庫に関しては医薬品情報室と連携を取り採用中止の検討を行った。不動薬品に関しては医薬品情報室と連携を取り5品目を採用中止とした。
- ・インボイス制度への対応
 - 本部主導で物流システムの改修作業を行った。各取引業者が免税業者なのかを調査して業者マスタを作成した。インボイス制度に従った請求書明細に変更し、計画通り滞りなく対応した。

8. タスクシフトの充実・推進

- ・PBPM（プロトコルに基づく薬物治療管理）の推進と拡充
 - 新規PBPM申請は5件、実施件数は7,015件となった（前年比105%）。令和3年度5,126件、令和4年度6,674件と比して増加しており、医師の負担軽減に寄与していると考えられる。

2 令和5年度実績

薬剤部は医薬品および医療材料の安定供給、適正な在庫管理とともに安全かつ適正に使用するために下記の事項に取り組んだ。

1. 医薬品情報提供

例年同様、院内医薬品情報誌「DI-Newsくすりの時間」と医薬品情報一元化システム「JUS-DI」の充実に努め、「JUS-DI」に掲示している資料一式を更新した。一昨年、昨年に引き続き、医薬品の供給不安定な状態が続いたが、診療部門、供給部門とも連携を図りつつ、対応することができた。供給状況を考慮した後発医薬品への切替、院内で発生した副作用情報の一元化および医薬品医療機器総合機構への報告を行った。

2. 病棟業務および持参薬管理

薬剤師の病棟配置数は6,266コマ（前年5,830コマ、前年比107.5%）であり、前年度以上の水準で人員配置を行った。薬剤管理指導件数22,540件／年（前年20,357件／年、前年比110.7%）退院時薬剤情報管理指導料8,492件／年（前年8,130件／年、前年比104.5%）を算定し、コマ数の上昇と比例した介入を行うことができた。また、処方提案を2,369件（前年1,713件、前年比138.3%）、プレアボイド報告を450件（前年276件、前年比163.0%）実施、薬学的介入により薬物治療の質を向上させ、医療安全においても貢献することが出来た。

持参薬管理は、重点事項とその結果に記載したとおり、大きな体制変更を実施した。病棟担当薬剤師が病棟で作成する持参薬報告書件数および所要時間の減少は、上述した薬剤管理指導件数の増加にも寄与しているものと考ええる。

3. 調剤業務

投薬窓口のバーコード認証システムを更新し、複数科の有無の確認に加え、薬引換券と投薬する薬を認証することで、渡し忘れ・間違いを防止することが可能となった。

4. 入退院支援

テンプレートを新規導入し、業務の標準化、効率化および他職種との連携強化を図った。新規に入退院支援センターにおけるPBPMを導入し、医師・薬剤師双方の負担軽減を図った。これらの導入により業務を整理するとともに、薬剤師面談場所を20番入退院支援センターに一元化し、業務手順を確立して標準業務手順書を作成した。

5. 注射調剤

高額冷所医薬品管理のためにアルフレッサの管理システムNOVUMの導入を行った。ノヴァムはアルフレッサ、中北薬品、メディセオが対応可能であり、既導入済みのキュービックス（スズケン）も併せると、当院の主要な医薬品卸業者が対応可能となった。

規制医薬品は医薬品メーカーおよび卸業者からの情報提供に対して医薬品情報室と密に連携し、在庫の確保や代替薬の在庫確保に尽力した。

不動薬品に関しては医薬品情報室と連携を取り5品目を採用中止とした。

6. 薬品・医療材料の管理

輸液ポンプを更新に伴い、輸液ルート関連製品の変更を行った。

新型コロナ対策での需要増や中国でのロックダウンの影響により、ディスポキャップやフォーリートレイなど一部の医療材料の供給が不安定になったが、適宜代替品を確保して安定供給に努めた。

原材料費や製造費、輸送費が高騰しており、医療材料の値上がりが相次いだが、安価な同等品への切替や包括契約、割戻契約などを結びコスト削減に努めた。

経腸栄養コネクタをISO対応のものに変更した。

エネルギーコストの増加による製造原価上昇のなか、診療材料償還品目の価格交渉は、回復率85.95の厳しい妥結となった。

7. 化学療法業務

連携充実加算を596件／年（49.6件／月）算定し、院外薬局への抗がん剤治療に関する情報提供の推進に努めた。免疫関連有害事象（irAE）対応マニュアルの項目に皮膚障害および肝障害を追加し、院内でのirAE出現時の対応方法を統一することで抗がん剤の適正使用推進に努めた。化療関連の新規PBPMを6件導入した。曝露対策として、揮発性薬剤を使用する治療に対して閉鎖式ルートの導入を看護部と協同して行った。

8. ICT（感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）への参加

病棟薬剤師との情報共有をもとに抗菌薬ラウンドや血液培養ラウンドに参加し抗菌薬適性使用の評価も行った。加えて、感染対策向上加算1の対象となるカンファレンスに参加した。これら定期的開催されるカンファレンスなどだけでなく、ICT・ASTの一員として感染対策室、微生物検査室等と随時連絡を取り合い院内の感染対策および抗菌薬適正使用に関与した。

9. 治験管理室業務

GCP、各種倫理指針に則り、適正かつ効率的な治験、臨床研究等の実施に取り組んだ。

<治験> 新規受託治験 4件

<臨床研究等> 新規医学系研究実施審査・許可申請 49件

特定臨床研究 4件

症例報告審査 0件

適応外使用審査 2件

10. 実務実習

長期実務実習 3～4期（各11週間）、計10名の実習生を受け入れ指導にあたった。

	2期(5/22～8/6)	3期(8/21～11/5)	4期(11/20～2/11)
愛知学院大学		2	2
金城学院大学	1	1	
名城大学	1		2
鈴鹿医療科学大学		1	
計	2	4	4

11. 教育

・薬剤部勉強会

新型コロナウイルス感染症のため薬剤師勉強会はWebを利用し4回開催した。

2月の第4回は、ハイブリッドで開催した。

開催月	参加者	講師	対象
4月	54名	病態に応じたオピオイドの使用方法について ～安全・安心な医療用麻薬使用のために～	院内外薬剤師
6月	52名	憧れるのはやめましょう ～腎機能に応じた薬物療法を支援できる薬剤師になるために～	院内外薬剤師
8月	42名	医療保険制度（・介護保険制度）について	院内外薬剤師
2月	35名	薬疹・薬物障害	院内外薬剤師

7. 看護部

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 信頼される看護サービスの提供

1) 救急医療・集中治療体制・がん医療の充実

(1) 急変予測の看護実践能力の向上

急変対応の救急蘇生・急変対応の動画を技術研修毎で開催し看護職員の受講修了

(2) 急変等に関する研修の受講

① INARS研修の開催

5月15名・7月15名・10月15名、2月6名修了

合計51名 研修修了者増加

インストラクター3名増加

② ICLS研修

7月18名、10月18名、3月17名修了

合計53名 研修修了者増加

インストラクター前段階3名増加

③ ISLS研修

4月4名、6月6名、3月2名修了

合計12名 研修修了者増加

インストラクター前段階1人増加

④ NCLS研修：3名終了

2) がん看護実践能力の向上

(1) がん基礎研修会の開催 11月18日・19日開催

18日9人受講（院外2人含）、19日10人受講（院外3人含）

(2) がん分野別の研修の開催

8月：呼吸困難 15名、 9月：末梢神経障害 12名、 10月：脱毛 11名

1月：放射線皮膚炎 1名、 2月：全身麻酔の術後管理 6名

3月：医療用麻薬の使用と副作用 7名

2. 医療の質向上

1) 認知力を低下させない

院内デイサービスの拡充を目標に6月、7月は平均6～7名/週で患者利用

8～9月は対象病棟のコロナ感染患者増加により、院内デイサービスを一旦中止。10月より再開し、5～6名/週の利用あり

年度内実績は、実施日数：177日間（稼働日の72.2%）利用延人数：318名

部署スタッフから院内デイサービスを行った患者が夜間睡眠確保や表情が穏やかになった等の意見あり

2) ACPの浸透

緩和ケア認定看護師でACP資料を作成し、ナーシングスキルの動画閲覧ができるようにした

3月に看護職者で視聴済み

12月倫理委員会全体研修を看護要員で受講

倫理4分割法を配布し活用を推進

3. 医療安全の充実

1) 転倒転落事故を起こさない

転倒転落評価のタイミングの項目、入院中の履物についての説明用紙を配布した

2) 不必要な身体拘束をしない

行動制限ガイドラインの周知および行動制限が減少する活動を実施した

1患者あたりの平均身体拘束日数は年間通して6.7日で増加はしなかったが、日数の減少には至らなかった

3) 誤嚥させない

摂食嚥下チームにより経口摂取開始時フローチャートが修正され1月より使用開始

フローチャートに沿った食事内容が提供できるようになった

4. 働きやすさを実感できる職場環境

1) 時間外勤務の削減

年間を通じて看護補助者へタスクシフトを行った

夜勤：前年比85%（年間1064時間減）

日勤：前年比91%（年間2,898時間減）

長日勤：前年比118%（年間1,060時間増）

遅番：前年比103%（年間47時間増）

2. 令和5年度実績

1. 合同就職説明会

日程	名称	参加人数
7月9日	マイナビ看護セミナー	147人
2月10日	マイナビ看護セミナー	102人
3月3日	マイナビ看護セミナー	53人
合計		302人

2. 学内説明会

日程	名称	参加人数
4月7日	日本赤十字豊田看護大学（動画提供）	不明
5月12日	豊田地域看護専門学校	27人
7月22日	厚生連内部看護専門学校	65人
7月31日	修文大学	1人
8月7日	名古屋女子大学	3人
12月16日	日本福祉大学	29人
12月21日	人間環境大学	22人
11月18日	学芸大学（WEB）	39人
12月9日	岐阜保健大学（WEB）	29人
1月27日	椋山女学園大学（WEB）	1人
合計		216人+ a

3. 就職説明会・施設見学会

日 程	参加人数
8月11日(金)	6人
8月19日(土)	6人
8月26日(土)	5人
1月6日(土)	9人
2月26日(月)	9人
3月2日(土)	4人
3月16日(土)	7人
3月18日(土)	9人
3月19日(火)	6人
3月23日(土)	4人
3月28日(木)	11人
8月11日(金) WEB	2人
8月19日(土) WEB	3人
8月26日(土) WEB	5人
1月6日(土) WEB	5人
3月2日(土) WEB	1人
3月16日(土) WEB	6人
3月23日(土) WEB	5人
合 計	103人

4. 1day仕事体験

日 程	参加人数
7月24日～9月8日	96人
12月25日～12月29日	20人
2月26日～3月22日	71人
合 計	187人

5. 学生・実習生受け入れ状況

① 中学生看護体験

日程	中学校名	参加人数
6月8日(木)	美里中学	1人
6月15日(木)	上郷中学	3人
6月22日(木)	猿投中学	3人
6月14日(木)	南山中学	1人
9月28日(木)	保見中学	2人
10月3日(火)	高橋中学	1人
10月31日(火)	高岡中学	2人
11月2日(木)	豊南中学	1人
合 計	8校	14人

② 7/25 高校生看護体験

高校名	参加人数
三好高校	2人
松平高校	2人
豊田東高校	7人
衣台高校	1人
豊田高校	4人
豊田北高校	2人
豊田西高校	4人
豊田南高校	5人
豊野高校	4人
合計	31人

8/4 高校生看護体験 (WEB)

高校名	参加人数
猿投農林高校	1人
豊田北高校	7人
豊田東高校	11人
豊田南高校	12人
豊野高校	1人
合計	32人

8/2 愛知県看護協会主催

高校名	参加人数
加茂丘高校	1人
杜若高校	9人
豊田東高校	4人
衣台高校	3人
豊田高校	6人
豊田北高校	3人
豊田西高校	6人
合計	32人

③ 看護学生

学校名	日程	人数 (延人数)
加茂看護専門学校 1年生	7日間	40人(280)
2年生	35日間	37人(1,295)
2年生 訪問看護	18日間	8人(144)
3年生	107日間	34人(3,538)
3年生 訪問看護	67日間	26人(2,436)
豊田地域看護専門学校 2年生 小児	13日間	17人(196)
内科	18日間	17人(196)
3年生 小児	44日間	25人(220)
内科	65日間	28人(390)
日本赤十字豊田看護大学 2年生 基礎	3日間	29人(87)
日本赤十字豊田看護大学 4年生 成人	17日間	21人(165)
日本赤十字豊田看護大学 4年生 統合	3日間	3人(9)
日本赤十字豊田看護学部 訪問看護	15日間	8人(115)
人間環境大学 4年生 国際看護	5日間	1人(5)
名古屋学芸大学 3年生	5日間	5人(25)
3年生 がん看護	9日間	18人(162)
弥富看護学校 3年生 訪問看護	4日間	8人(32)

6. 看護職員採用状況 (令和5年4月1日採用者)

新卒看護師	既卒看護師	合計
58人	2人	60人

7. 看護職員退職状況 (令和5年4月1日～令和6年3月31日退職者)

4月看護師数	退職者数	離職率
649	66	10.17%
新人看護師数	退職者数	新人離職率
58	7	12.06%

8. 医療安全管理部

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. インシデントレポート集計・分析

今年度のインシデントレポート提出目標として、3ヶ月に1報告を目指した啓発活動もあり、インシデントレポート件数は総数5,215件と昨年度より663件増加した。その中でも、診療部528件（213件増）、臨床研修部416（85件増）、診療放射線室171件（91件増）、リハビリテーション室119件（82件増）、臨床工学室72件（39件増）、看護部3,181件（60件増）、地域医療福祉連携部89件（39件増）、保険事業部96件（61件増）と増加した現状であった。また、どの部署においてもゼロレベルの報告をすることを活動とし、859件（293件）の報告があり、少しずつではあるが増加している。今後の課題としては、ゼロレベル報告を記載しやすくするために、インシデント報告システムの必須項目を見直し、ゼロレベル報告を増加できるよう啓発していく。

事象レベル3bレベル以上は92件で昨年度より27件増加（詳細は治療・処置59件（23件増）、ドレーン・チューブ11件（6件増）、薬剤4件（3件減）、療養上の世話9件（4件減）、医療機器2件（±0）、検査7件（5件増））。治療・処置ドレーン・チューブ、検査については、診療部・臨床研修部、看護部からの報告増加に比例している。全体的に、思い込み、ルールの不遵守、コミュニケーションエラーが要因となり医療事故が発生している。また、70歳以上・認知症といった患者的要因もあり、患者の状態を把握し危険予測のもと医療チームで予防対策を検討するといった取り組みを継続していくことは必要である。「ハインリッヒの法則」では、重大事故1件が発生した裏には、中等度の事故29件があり、さらにその背景には300件のニアミスなどの軽微な事故があると言われている。軽微な事象から改善を図り重大医療事故防止につなげる必要があるため、多忙な業務であると思われるが、ヒヤリ・ハット、医療事故報告件数を増やせるよう医療安全管理部としての働きかけが重要である。

2. 医療安全対策地域連携加算ラウンド

- 目的：1. 他施設の医療安全管理体制の実施状況の確認、職場環境を評価する
2. 他施設の評価を受け、問題点を把握し、医療安全管理体制向上の一助とする

- 日時：10月3日（火）豊田西病院で実施 13：30～15：30
10月5日（木）トヨタ記念病院で実施 13：30～16：30
10月17日（火）豊田厚生病院で実施 13：30～15：30

参加施設：トヨタ記念病院、豊田西病院、豊田厚生病院

- 総評の視点：1. 医療安全体制の整備について
2. 医療安全管理のための具体的方策の推進について
3. 医療事故の評価と医療安全対策への反映について
4. 病棟ラウンド結果について
5. 転倒転落防止対策について
6. 患者誤認防止について
7. 4Sについて

コロナ禍では、医療安全対策地域連携加算ラウンドをWeb開催で実施していたが、4年ぶりに現地開催を実施することができた。医療安全管理部のメンバーも入れ替わり、相互ラウンドを初めて対応するメンバーであったこともあり、医療安全活動を通して刺激を受けることができた。また、医療の質向上に貢献していけるようにしていきたい。

3. M&Mカンファレンス開催

院内で生じているインシデント報告よりエラーの分析、および再発防止の観点を重視しカンファレンスを実施している。カンファレンス事例より、各部門から参加していただき、10回／年開催することができた。その



結果、MACTのワーキンググループ活動が開始され、PICCを挿入したまま自宅退院となる患者のルート管理方法をより明確にすることができた。また、入院患者の離院対応についてマニュアルを見直し、透視室でのタイムアウト実施など、業務改善に繋がった事例や手順の見直しをすることができ、再発防止策につながった。事例によっては、チーム医療としての事前評価・情報共有の必要性について振り返りを実施した。これらは、セーフティニュースを活用し周知活動を行っている。継続して、M&Mカンファレンスを実施していく。

4. 外部研修受講

- ・医療安全実践研修会 5名受講済（看護師3名・言語聴覚士・管理栄養士）
- ・医療安全管理者養成研修 4名受講済（臨床工学技士・診療放射線技師・看護師2名）
- ・医療安全対話推進者養成研修 2名受講済（臨床検査技師・看護師）
- ・第25回日本医療マネジメント学会 学術総会（医療安全管理部2名）
- ・総合メディカルWebセミナー（医療安全管理部3名）
テーマ：患者取り違え事故からの24年～日本の医療安全の歴史を振り返る～
- ・安城更生病院主催2023年度 医療安全講演会（4名参加）
テーマ：医療事故の経験から伝えたいこと
- ・第18回医療の質・安全学会 学術集会（医療安全管理部2名参加）
- ・WHO「世界患者安全の日」記念Webシンポジウム2023（医療安全管理部2名）
－医療対話推進者が患者安全に資する体制を構築するために－
- ・令和5年度 医療安全に関するワークショップ（東海北陸厚生局主催）（診療放射線技師・医療安全管理部3名）
- ・顧問弁護士による医療安全管理者対象講習会（医療安全管理部5名）

5. 医療事故対応（事例検討会）の実施

- ・5回 事例検討を実施
- ・6回 顧問弁護士との打ち合わせ会を実施

6. 医療事故調査制度にともなう死亡患者の確認

医療事故調査制度の対象事例はなし

7. マニュアルの整備

医療安全管理指針 修正

目次 修正

第1章・2章・4章 修正

第4章 医療安全対策委員会 規約修正

第5章 報告書安全管理 追加

第6章 医療安全対策 共通編（院内急変対応 追加／削除・薬剤副作用情報 修正）

第7章 医療安全対策 各部門編（栄養管理室 修正・看護部 修正）

2. 令和5年度実績

1. インシデント報告件数（令和5年度）

所属部署別	※41 人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部	165	26	66	60	69	42	35	43	58	37	29	38	25	528
臨床研修部	27	30	43	27	31	37	27	34	34	31	35	33	54	416
診療放射線室	49	6	9	29	18	19	10	18	13	14	13	9	13	171
臨床検査室	66	22	21	20	16	16	21	22	27	33	16	13	23	250
リハビリテーション室	38	8	9	7	6	12	11	10	11	14	9	11	11	119
臨床工学室	21	0	19	9	3	9	3	3	10	4	2	3	7	72
栄養管理室	74	11	10	24	22	16	10	15	4	10	7	16	6	151
薬剤部	63	14	8	9	5	3	5	3	6	8	6	1	6	74
看護部	792	270	252	315	300	264	285	286	257	256	257	223	216	3,181
事務部	165	2	13	11	5	7	0	6	2	0	0	1	4	51
地域医療福祉連携部	54	4	4	8	5	6	2	16	10	16	6	8	4	89
保険事業部	37	4	9	20	6	11	7	13	5	10	5	2	4	96
その他	21	2	2	1	5	0	2	2	1	1	0	1	0	17
合計	1,572	399	465	540	491	442	418	471	438	434	385	359	373	5,215

内容分類別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
薬剤	119	127	122	132	112	113	126	125	138	98	104	88	1,404	
輸血	4	2	1	4	2	2	4	2	7	4	1	9	42	
治療・処置	45	63	59	39	54	43	49	45	48	39	33	51	566	
医療機器等	17	28	22	17	16	18	21	14	16	17	16	11	215	
ドレーン・チューブ	28	30	36	43	28	41	43	37	21	37	30	40	414	
検査	74	94	102	99	70	61	61	88	93	83	44	51	902	
療養上の世話 (転倒・転落)	66 (41)	72 (37)	110 (65)	83 (45)	85 (44)	76 (47)	80 (47)	60 (43)	51 (28)	62 (35)	77 (46)	76 (52)	898 (530)	
その他	文書・書類	17	19	24	33	29	38	42	25	28	19	15	23	312
	情報管理	23	24	46	29	38	22	35	33	26	21	34	14	345
	その他	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	4
	意見・クレーム・暴言暴力等	6	5	18	12	7	4	9	8	6	5	5	10	95
合計	399	465	540	491	442	418	471	438	434	385	359	373	5,215	

【転倒・転落件数】

損傷レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1（なし）	18	9	26	22	23	22	19	26	11	12	18	16	222
2（軽度）	19	23	29	15	17	20	23	14	14	16	22	28	240
3（中度）	3	4	5	5	3	3	1	2	2	3	4	6	41
4（重度）	1	1	1	1	0	1	1	0	0	3	1	1	11
5（死亡）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	41	37	61	43	43	46	44	42	27	34	45	51	514

2. M&Mカンファレンス開催件数・参加人数

月・日	参加人数	月・日	参加人数
4月27日	17名	10月26日	17名
6月22日	19名	11月30日	18名
7月27日	21名	12月28日	16名
8月24日	18名	1月31日	18名
9月28日	16名	3月28日	17名

3. 教育活動内容

1. 研修企画：実践

4月5日	新入職者研修	5月29日 8月28日 11月27日	薬学部研修
4月7日	看護部新人研修	8月31日 9月26日	看護補助者研修
4月12日	研修医研修	10月2日	中途採用職員研修
6月30日 7月3日	ラダーⅠ研修	12月8日	ラダーⅢ研修
7月7日 7月10日	ラダーⅡ研修		

2. 全体研修 開催

第35回 Safety Plus動画講義より「医療安全の基本を知る」 期間：7月3日～7月31日

第36回 オンラインセミナー「事例解説 説明義務違反について」

当日参加：第5会議室 10月25日（水） 17：30～（60分）

Safety Plus 講演動画配信 期間10月30日～11月27日

Safety Plusの研修システムを導入後、eラーニング研修が定着している。全職員の受講状況の把握もしやすく100%受講率を達成することができている。どこでも受講できることがメリットであり、時間外での集合研修より、eラーニング研修が時代的にもあっていると評価している。

3. 医療事故ワークショップ

第30回 医療事故ワークショップ 開催

開催日時：令和6年2月29日（木）15：00～16：00

講師：愛知県厚生連顧問弁護士

内容：実際に起こった医療事故をもとに、原因の究明、再発防止の検討
事故体験を共有することで、意識と行動の変化を促す

対象：職員各部署から厳選

感染動向を考慮し、4年ぶり、第30回、2月29日と記念すべき日に開催することができた。

当日会場に来場された方84名のうち69名、アンケート回収率82.1%であった。

「あなたの期待と研修（講演）内容との一致」「研修の分かりやすさ」の項目では69名の人が良い印象。「研修に興味を持った点」については、それぞれの立場からグループワークを通し、医療者間のコミュニケーションや記録の重要性について共通理解できたと思われる。また、Team STEPPSやメンタルモデルの共有が、法律の観点から考えることができたことで学びが深まったと考える。

グループワークについては、医療安全対策委員がファシリテータとなり、会を円滑に進行することができたと感じている。79.7%の方が、研修時間は適切であったと回答いただいている。各部署代表者が参加され、事故体験を共有したことを、それぞれの立場で各現場にフィードバックしていただくことで、意識と行動の変化が促されると良い。

4. 第13回 医療安全フォーラム

目標：各部署が自部署事例の分析を行い、対策を見出し、改善に取り組むことが出来る

発表：取り組みは全部署であるが、発表は令和5年度担当部署

方法：発表内容はSafety Plusを利用し閲覧およびアンケート実施にて参加とした。

期間：令和5年1月10日（火）～令和5年2月10日（金）

受講率：93.3%

※興味をひいた取り組み内容の部署

1位 医療安全管理室（酸素ボンベの適正保管）

2位 外来Aブロック（誰が使用しても間違えないマニュアルを作る！）

3位 臨床工学室（CARTにおける患者認証システム構築）

アンケートの自由記載には、「他部署、多職種の改善策を参考に、自部署でも活用し医療事故予防に努めたい。」「今後も続けていただきたい。」「自身の業務に役立てたい。」「どの部署も大変勉強になりました。」などの意見があった。今後も、医療の質向上、また、医療安全文化の醸成に向け医療安全フォーラムを継続して実施していく。

5. 院内パトロール実施

6月16日	時刻確認パトロール
7月21日	患者確認パトロール
9月15日	リストバンド装着確認パトロール

6. 医療安全推進週間（11月19日～11月25日）

全職員の名札に黄色リボンを付け医療安全推進週間の意識付けを行う

目的：「患者の安全を守るための共同行動（PSA）」の一環として、医療機関や医療関係団体等における取り組みの推進を図り、またこれらの取り組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的としている（厚生省ホームページより抜粋）

対象：全患者、全職員

内容：○患者向け⇒1階外来通路（医療安全推進週間期間中）

- ・患者相談窓口 「よろず新聞」
～医師にかかる心得10を活用していますか～
- ・緩和ケア委員会 「あなたは大切なことを信頼できる人に伝えられていますか？
人生会議、始めてみませんか？」
- ・臨床検査室 「検査の結果をかならず聞きましょう！」
- ・医療安全管理室 「患者誤認防止ポスター」「推進週間のポスター」
- ・外来 「病院受診時のお願い」

○職員向け⇒11月21日22日 講義室AB 展示

- ・摂食・嚥下障害看護認定看護師 「適切な諸形態選択による誤嚥・窒息防止への取り組み」
- ・皮膚排泄ケア認定看護師 「ちょっと待て！その褥瘡要注意」
- ・救命救急センター病棟委員会 「RRTの活用」
- ・救命救急センター外来委員会 「コードブルー」
～あなたも豊田厚生病院のチームの一員です～
- ・感染制御室 「感染対策」
～今こそ押さえておきたいポイント～
- ・臨床工学室 「NEW ME machine introduction～show must go on～」
- ・臨床検査室 「バーコードラベルに潜む危険性」
- ・患者相談室 「互いの理解につなげるために対話しよう」
～小さなボタンのかけ違いが泥沼化～
- ・医療安全管理室 「こんなことも知って欲しい」
- ・業者（ニプロ） 「誤針防止付翼状針を体験してみよう」

参加：691名

7. 定期巡回パトロールやインシデントレポートからの業務改善活動

- ・定期巡回パトロール結果から手順の不順守については、現場へのフィードバックを実施した。
また、以下の内容について手順の見直し、追加がされた。

【継続】酸素ボンベの管理方法（保管方法、搬送時の運用など）・金庫管理薬（2重ロック、暗証番

号の管理)

【見直し】救急カート管理方法（看護業務委員会・薬剤部で検討：保管薬剤・器具の種類、点検方法、配置方法）

【追加】セントラルモニターの入床手順・装着時の記録（看護業務委員会・看護記録委員会・MACT）
輸液ポンプの管理方法（看護手順委員会）

・インシデントレポートから実施した業務改善活動

【継続】KPの定義やカルテへの記載方法、患者宅への訪問時の運用、放射線レポートの未読対応
解剖/Ai同意書運用マニュアル作成

【追加】骨折で受診した患者への説明用紙の作成、患者行方不明時の対応方法、CVカテーテル固定
方法

排便造影・注腸・胃透視検査同意書の作成

掲示物発行：医療安全情報（医療事故情報収集等事業） セーフティニュース、看護部お便り 1回／月

9. 感染制御部

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応

① 院内感染対策の取り組み

令和5年5月8日より、COVID-19の感染症法上の取扱いが5類へと移行したことに伴い、院内感染対策マニュアルの項目の追加、修正を実施した。これまでの経験と国内外のガイドライン等を参考に、絵や表を取り入れるなど工夫し、わかりやすいマニュアルを作成、院内の職員に周知徹底を行った。

② 外来患者対応

5類移行後は、手指衛生や個人防護具など基本的な感染対策を実施しながら、通常の外来でCOVID-19診療を行えるよう体制を整備した。発熱などの有症状者は、他患者と動線を分けるため「感染待合」を設置し運用しており、今後も継続予定である。

③ 入院患者対応

5類移行後は確保病床を撤廃し、すべての病棟でCOVID-19患者を受け入れる体制を整備した。

2. 地域連携の充実

① 定期カンファレンスの開催

西三河北部医療圏における感染対策カンファレンスを、当院とトヨタ記念病院の合同開催にて4回／年実施した。5類移行後のCOVID-19対応や、地域の感染流行状況などについて情報を共有した。また、継続して実施している抗菌薬や耐性菌、手指消毒剤の使用量などのサーベイランスの結果報告等を実施し、地域全体で感染対策に取り組んだ。今後も継続して実施していく。

② 指導強化加算ラウンドの実施

感染症専門医・感染管理認定看護師にて、感染対策向上加算において連携している医療機関へのラウンドを実施し、感染対策に関する問題点や不安な点について助言を行った。

③ 新興感染症を想定した訓練の実施

新興感染症を想定した訓練を11月に実施した。コロナ禍であり、対面での訓練は叶わなかった。事前に場面を想定した動画を撮影し編集したものを、オンラインで参加施設につなぎ、ディスカッションを行った。今後必ず起きると予想される、予期せぬ感染症の流行に備え、地域全体で対応できるよう、訓練も工夫して取り組んでいく。

3. 教育活動の充実

① 全職員に対する研修会の開催

Safety Plus（オンライン研修）にて、2回／年、職員対象の感染対策研修会を実施した。標準予防策については委託・派遣職員を含む全職員対象に実施し、主催した研修2回ともに参加率100%を達成することができた。また、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師対象に、抗菌薬適正使用についての研修を実施した。

② リンクナース活動

感染対策看護部会（リンクナース会）では、院内パトロールチーム・標準予防策チーム・血液体液曝露チームに分かれ、グループ活動を展開した。院内パトロールチェックリストの見直しを実施し、パトロールを展開、針捨てBOXの使用状況などの確認を行い、血液体液曝露の件数減少への取り組みを実施した。また、リンクナースが中心となり各部署で手指衛生の直接観察法を実施し、手指衛生の遵守率向上に取り組んだ。ICTラウンドにリンクナースが参加することで、院内の感染対策の実施状況を知り、自部署の活動に活かすことができた。今後も継続して取り組んでいく。

看護部新人研修では、リンクナースが中心となって教育活動を展開した。手指衛生の手技、個人防護具



の着脱方法、廃棄物の処理方法、滅菌物の取扱いなどを実践指導し、新人看護師が現場に配属された後すぐに感染対策を実践できるような研修内容となった。

4. 抗菌薬適正使用支援の充実

血液培養陽性患者に対し、ほぼすべての症例で即時介入を実施。週に1回抗菌薬ラウンドおよび血液培養ラウンドを実施し、研修医・内科専攻医を含めた多職種で検討を行った。

2. 令和4年度実績

1. 教育活動

開催月日	研修会名
令和5年4月5日	新入職員研修（全職種対象） 「院内感染対策の実際」
令和5年4月11日	看護部新人研修「感染対策の概要」 「針刺し、血液・体液曝露防止対策の実施と事故後の対応」他
令和5年4月12日	研修医オリエンテーション 「感染対策の基本と新型コロナウイルス感染症対応の実際」 「針刺し・粘膜曝露について」
令和5年4月28日	新人薬剤師研修 「標準予防策・経路別予防策（薬剤師向け）と無菌調製」
令和5年5月15日 5月16日	看護部ラダーⅠ研修 「標準予防策・感染経路別予防策」
令和5年6月1日 6月2日	看護部ラダーⅡ研修 「デバイス関連感染・手術部位感染」 「感染対策上問題となる微生物とその対策」他
令和5年6月14日	リハビリテーション室勉強会 「感染対策の基本」
令和5年7月10日	4C病棟勉強会 「メタロβラクタマーゼ産生緑膿菌について」
令和5年8月17日 9月11日	ナースアシスタント研修 「感染対策の基本」
令和5年9月4日 ～9月29日	第25回院内全体講演会（Safety Plusにてオンライン講習） 全職員対象「感染対策の概論③標準予防策」 医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師対象「抗菌薬を大切にしよう！③」
令和5年10月2日	中途採用者研修（全職種対象） 「院内感染対策の実際」
令和6年2月13日 ～3月8日	第15回豊田感染症フォーラム（Safety Plusにてオンライン講習） 全職員対象「感染対策の概論④標準予防策」 医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師対象 「抗菌薬の適正使用とは AMRに立ち向かうために①」
令和6年3月7日	手術室勉強会 「手術室の標準予防策－患者さんと私たちを感染症から守る対策－」

2. 各種サーベイランス

JANIS（厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業）参加状況

- ・検査部門サーベイランス
- ・手術部位感染（SSI）部門サーベイランス（COLO・REC）
- ・集中治療室（ICU）部門サーベイランス

J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）参加状況

- ・抗菌薬使用状況（入院・外来）
- ・手指消毒使用量

- ・デバイス関連感染
- ・微生物／耐性菌関連

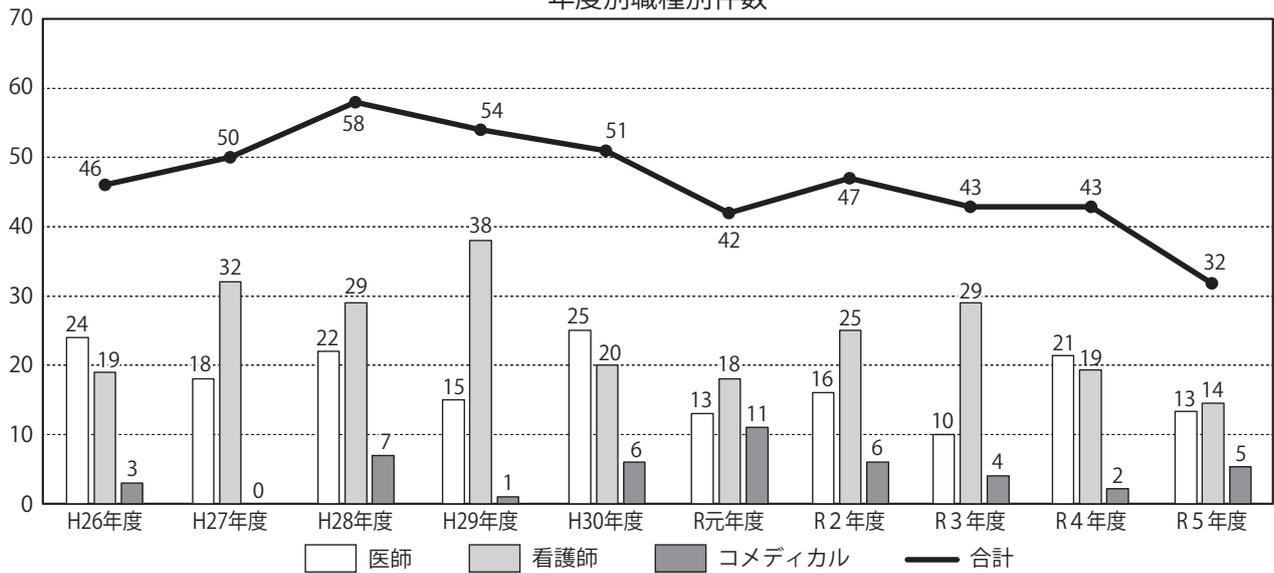
デバイスサーベイランス実施状況

- ・中心静脈カテーテル関連血流感染（CLABSI）
- ・尿道留置カテーテル関連尿路感染（CAUTI）
- ・人工呼吸器関連肺炎（VAP）

3. 針刺し・切創・粘膜曝露対策

針刺し・切創・粘膜曝露についてのデータ収集を継続して実施している。令和5年度は、32件／年（100稼働病床あたりの針刺し件数4.0）の事例が発生、前年度（43件／年）と比較し、大きく減少した。全国平均（100稼働病床あたりの針刺し件数6.6）と比較しても、当院の針刺し件数は少ない傾向であると言える。

年度別職種別件数



4. 地域連携

《西三河北部医療圏感染対策カンファレンス》

参加施設：豊田厚生病院、トヨタ記念病院、他10医療機関

豊田加茂医師会、豊田市保健所、愛知県衣浦東部保健所

開催月日	内 容	主 催
令和5年5月18日	・新型コロナウイルス感染症5類変更後の各施設の情報共有 ・季節性インフルエンザサーベイランス年間報告 ・サル痘について情報提供	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
8月17日	・豊田市保健所管内における感染症の発生状況等について情報共有 ・新型コロナウイルス感染症5類変更後各施設の情報共有	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
11月16日	・新興感染症の発生を想定した訓練	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
令和6年2月15日	・耐性菌発生状況 ・アルコール使用量／抗菌薬使用量のサーベイランス報告	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)

《感染対策向上加算ラウンド》

- ・加算1 相互ラウンド：豊田厚生病院→トヨタ記念病院（9月15日）
トヨタ記念病院→豊田厚生病院（10月20日）
- ・加算2 & 3 ラウンド：足助病院（10月18日）

名豊病院（10月31日）
 家田病院（11月14日）
 みよし市民病院（12月5日）

＜地域連携部主催 医療従事者研修＞

- ・感染対策研修会－基本的な感染対策から 昨今の状況を踏まえた理解－
 開催日：8月2日、9月20日

5. ICTラウンド（毎週金曜日）

毎回テーマを絞って、病棟・外来系のラウンドを実施。

- 4月…環境整備（ミキシング台の環境、滅菌物の管理、薬剤管理等）
- 5月…環境整備（ゴミの分別）
- 6月…デバイス関連感染（尿道留置カテーテルの管理、末梢静脈カテーテルの管理等）
- 7月…環境整備・デバイス関連感染（ゾーニング、吸引時の防護具着脱等）
- 8月…手指衛生（アルコール手指衛生・培養）
- 9月…手指衛生（アルコール手指衛生・培養）
- 10月…環境整備（パソコンのキーボード培養）
- 11月…環境整備（ミキシング台の環境）
- 12月…環境整備（ゴミの分別、ゾーニング、滅菌物の管理等）
- 1月…感染経路別予防策（嘔吐物の処理、病室のゾーニング）
- 2月…个人防护具（防護具着脱手順）
- 3月…手指衛生（流水と石けんでの手洗い）

6. 血液培養ラウンド（毎週水曜日）・抗菌薬ラウンド（毎週木曜日）

- ・血液培養ラウンド
 血液培養陽性：1,179例に介入 うち血流感染：36例
- ・抗菌薬ラウンド（AST）
 対象症例数：1,525例 うちコメント症例数：75例

7. ICTニュースの発行

- 4月…「その皮膚症状、疥癬ではありませんか?!」
- 5月…「COVID-19が5類感染症になりました」
- 6月…「注意！麻疹が各地で発生しています」
- 7月…「医療廃棄物、正しく分別できていますか？」
- 8月…「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」
- 9月…「その手袋、正しく使えていますか?!」
- 10月…「抗菌薬が足りない?!」
- 11月…「抗菌薬適正使用マニュアルが変わります」
- 12月…「季節性インフルエンザとCOVID-19 同時流行?!」
- 1月…「間違いやすい・忘れやすい対策まとめ」
- 2月…「COVID-19 感染拡大しています！」
- 3月…「麻しん（はしか）が流行の兆し！」

10. 地域医療連携課（地域医療連携係）

急性期病院として期待される要望事項の把握に努め、地域医療機関との交流を密にし、地域医療連携がスムーズに行えるように受け入れ体制を充実させる。

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 地域医療機関との連携強化

- ① 地域医療機関への表敬訪問の実施（44件）
 - ・当院独自の「脳卒中二次予防」「心不全地域連携パス」の連携先医療機関の新規拡大のため、担当医師と医療機関への訪問を行った。また、「TAVI」のPRや呼吸器外科の新規紹介目的の訪問も行った。
- ② 6大がん地域連携パス受け入れ医療機関拡大
 - ・開業医訪問の際、新規届出および追加届出依頼を行うとともに、届出未医療機関との連携パスを希望する患者が発生した場合、新規届出依頼及びパスの概要説明を行った。（令和5年度実績393件）
 - ※新規発件数は愛知県の医療機関で第2位

2. 勉強会・交流会の開催等

- ① 豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催
 - ・令和5年4月19日（水）（令和5年度第1回）WEBおよび書面開催
 - ・令和5年7月19日（水）（令和5年度第2回）WEBおよび書面開催
 - ・令和5年10月18日（水）（令和5年度第3回）WEBおよび書面開催
 - ・令和6年1月18日（水）（令和5年度第4回）WEBおよび書面開催
- ② 看護技術研修会
 - ・令和5年6月21日（水）WEB開催 院外参加者7名
 - ・令和5年7月12日（水）WEB開催 院外参加者2名
 - ・令和5年8月2日（水）WEB開催 院外参加者14名
 - ・令和5年9月20日（水）WEB開催 院外参加者18名
 - ・令和5年10月4日（水）WEB開催 院外参加者8名
 - ・令和5年11月15日（水）WEB開催 院外参加者8名
 - ・令和5年12月6日（水）WEB開催 院外参加者4名
- ③ 第24回 豊田厚生地域医療連携交流会開催
 - ・令和5年5月20日（土）実開催 参加者202名
- ④ 令和5年度 豊田加茂地域医療連携交流会
 - ・令和5年11月11日（土）実開催 参加者43名（当院参加者）
- ⑤ 乳腺勉強会
 - ・令和5年10月11日（水）実開催 参加者58名
 - ・令和6年2月21日（水）実開催 参加者53名
- ⑥ 豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同CPC
 - ・令和6年3月13日（水）実開催 参加者73名

2. 令和5年度実績（地域医療支援病院運営委員会資料より抜粋）

① 登録医数・登録医療機関数（令和5年度末）

	登録医数	登録医療機関数
医 科	277	215
歯 科	164	149
合 計	441	364

② 紹介関連実績 ※地域医療支援病院紹介率

	紹介件数	紹介率※
医 科	29,815	75.3%
歯 科	2,731	

③ 逆紹介関連実績 ※地域医療支援病院紹介率

	逆紹介件数	逆紹介率※
医 科	25,277	86.3%
歯 科	2,269	

④ 紹介の地域医療連携課経由の有無

連 携 課 経 由	25,246
連 携 課 経 由 外	7,300
延 紹 介 患 者 数	32,546
経 由 割 合	77.6%

⑤ 診察紹介患者の入院実績

診 察 紹 介	23,427
入 院（再 掲）	6,927
入 院 割 合	29.6%

⑥ 科別紹介関連実績

診 療 科	計	内 訳	
		外 来	入 院
内 科	1,440	1,273	167
脳神経内科	1,951	1,637	314
呼吸器内科	1,543	1,115	428
消化器内科	3,007	2,227	780
肝臓内科	249	211	38
循環器内科	4,892	4,033	859
内分泌代謝内科	617	443	174
腎臓内科	696	525	171
膠原病内科	121	118	3
血液内科	364	298	66
総合内科	567	500	97
精神科	217	217	0
小児科	1,228	995	233
外科	923	553	370
血管外科	264	166	98
乳腺外科	316	247	69
小児外科	2	2	0
消化器外科	174	33	141
整形外科	1,872	1,445	427
脊椎外科	563	336	227
形成外科	930	757	173
脳神経外科	604	409	195
呼吸器外科	107	47	60
心臓外科	240	219	21
皮膚科	1,057	951	106
泌尿器科	1,347	1,014	333
産婦人科	1,101	814	287
眼 科	875	602	273
耳鼻咽喉科	1,657	1,420	237
放射線科	790	789	1
麻 酔 科	53	48	5
歯科口腔外科	2,727	2,153	574
合 計	32,546	25,619	6,927

⑦ 科別逆紹介関連実績

診療科	計	内 訳		
		紹介元へ	紹介元以外へ	当院患者を紹介
内 科	1,069	699	363	12
脳神経内科	2,045	1,521	413	111
呼吸器内科	935	451	478	6
消化器内科	2,681	2,333	285	63
肝臓内科	159	132	9	18
循環器内科	6,079	5,253	770	56
内分泌代謝内科	1,175	329	647	199
腎臓内科	902	522	315	65
膠原病内科	31	8	23	0
血液内科	387	232	152	3
総合内科	625	231	394	0
精神科	191	61	118	12
小児科	211	135	75	1
外 科	2,091	1,834	212	45
血管外科	195	149	32	14
乳腺外科	98	64	13	21
小児外科	0	0	0	0
消化器外科	31	18	13	0
整形外科	1,790	236	1,512	42
脊椎外科	319	170	127	22
形成外科	515	381	110	24
脳神経外科	397	74	315	8
呼吸器外科	14	12	1	1
心臓外科	310	259	38	13
皮膚科	556	319	213	24
泌尿器科	342	121	217	4
産婦人科	245	62	179	4
眼 科	679	399	233	47
耳鼻咽喉科	397	313	84	0
放射線科	779	777	1	1
麻酔科	22	8	14	0
歯科口腔外科	2,269	2,119	146	4
合 計	27,546	19,211	7,515	820

⑧ 地域別紹介件数

豊 田 市	23,475
みよし市	4,111
そ の 他	4,960
合 計	32,546

⑨ インターネット予約システム利用状況

地域医療連携課経由	25,246
インターネット予約（再掲）	9,951
インターネット予約割合	39.4%

⑩ 高度医療機器利用実績

内容	計	内 訳	件 数
放射線関係	1,683	CT	858
		MRI	648
		RI	7
		PET-CT	11
		骨密度	157
		上部消化管透視	0
		下部消化管透視	2
内視鏡・生理検査関係	1,472	上部内視鏡	130
		下部内視鏡	133
		腹部超音波	271
		心臓超音波	375
		甲状腺超音波	154
		頸動脈超音波	143
		その他超音波	3
		脳波	7
		その他	256
合 計			3,155

※その他の超音波は下肢血管

※その他はホルター心電図・トレッドミル・神経伝導検査・肺機能検査など

⑪ 開放病床(25床)利用実績

紹介患者延利用日数	1,779
利 用 率	19.5%

11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 署内の協力・応援体制の確立に関する取り組みと成果

- ① 患者の思いを汲んだ退院支援を滞りなく実践するために、スタッフ全員による応援体制を確立
 - ・スタッフ全員での応援体制のマニュアルの作成において、応援体制の目的・目標を明示した。7月までは繰り返し話し合いを重ねて意見を汲み取り、次回の評価日と検討する日を決めて応援体制を実践、PDCAサイクルで評価をした。また、部署内のスタッフ同士および病棟看護師が、「退院支援の進捗状況」を一目で共有できるように掲示板への退院支援進捗状況の記載方法を統一した。そして、全員のコンセンサスを得ながら新体制マニュアルを完成させ、スタッフ全員による応援体制の確立をした。
 - ・取り組みの成果として、複数の時短勤務者、パート勤務者がいる体制のなか、長期休暇を要するスタッフもあり、コロナ罹患によるスタッフの急な休みも重なったが、応援体制確立による協力体制で退院支援を滞りなく維持できるようになった。また、スタッフへのアンケート結果では、「取り組んでよかった」「在宅支援コーディネーター間の連携で継続支援ができるようになった」「時短でも仕事がしやすくなった」と回答があった。

2. 退院支援の質向上に関する取り組みと成果

- ① 在宅支援コーディネーターのスタッフが退院支援を行うための必要な知識習得と実践のレベルアップ
 - ・退院支援カンファレンスに求められる内容が、記録用紙に記載できているか現状を把握した。ACPや身体拘束、倫理的アセスメントを取り入れた退院支援カンファレンスの実践を目的に学習会を開催。「患者の思い」を中心に退院支援を進める大切さと倫理的アセスメントの実践が重要であることを共有した。そして、「患者の思い」の共有およびカンファレンス記録用紙への記載の充実、臨床倫理4分割法に基づいた倫理的アセスメントの実践に取り組んだ。
 - 取り組みの成果として、退院支援カンファレンス用紙への「患者の思い」の記載率が7%→89%へ、倫理的アセスメントの記載率も9%→94%へと大幅な成果が得られた。この成果は、スタッフが、患者の思いを共有した上で倫理的アセスメントのもと退院支援の実践に取り組んだと考えられ、患者・家族の意思を確認し理解・共感できる力を高めたと考える。
 - ・退院支援カンファレンス用紙の記録の改善を確認し、患者・家族の思いにそった実践をしている事例を在宅支援コーディネーター係会議で報告し、良い点を挙げて振り返りの実施と共有を行った。また、退院支援カンファレンスにおけるファシリテーターの役割と重要なポイントについて学習会を開催。ファシリテーターの役割と情報収集の重要なポイントを掲示し、役割を意識して実践を継続した。
 - 学習会および実践の成果については「退院支援実践自己評価尺度」を用いて学習会前と取り組み後の評価を実施した。評価の結果は、「患者・家族からの情報収集」の項目における「入院前のADL」について「情報を取り入れたカンファレンスができた」との回答率が40%→100%、「患者の社会背景」について「情報を取り入れたカンファレンスができた」との回答率は10%→80%へ改善した。また、多くの項目で改善が認められ、ファシリテーターのレベルアップに繋がった。
- ② 病棟看護師へ退院支援のしくみについて学習会を実施し共に退院支援に取り組む
 - ・病棟専任リーダーより、新人研修会で新人看護師を対象に「退院支援について」の学習会を実施した。新人看護師へのアンケート結果では、「わかった」との回答率は100%であった。
 - ・在宅支援コーディネーター係長より、病院内の全部署の業務係長を対象に「退院支援のしくみ」について学習会を実施した。学習会后、各部署の業務係長より、自部署のスタッフ全員を対象として「退院支援のしくみ」の学習会を開催していただいた。学習会を受けたスタッフのアンケート結果では、「退院支援のしくみがわかった」との回答率は100%であった。また、自由記載では「退院支援の流れを理解することで、普段から必要な情報を得る必要があると感じた」「病棟での退院支援や入院後の退院困難な要因の評



価も算定につながる大事なものとわかった」「自宅退院に向けた調整は、専従と病棟看護師が協力して、患者の希望の生活に近づくように頑張りたいと思った」などの回答があり、退院支援の理解を得ることができ、共に退院支援に取り組む土台に繋がった。

- ・全部署への学習会後は、病棟専任看護師や専従看護師より病棟スタッフへ働きかけ、学習会への質問や実践において生じた疑問への回答に対応した。病棟看護師との協働による退院支援の実践に繋げる取り組みを継続した。
- ・これらの取り組みの大きな成果として、今年度は病院機能評価受審があり、学習会において「退院支援のしくみ」に加えて、「診療報酬に沿った退院支援の記録の手順」の統一も図り、病棟看護師と共に退院支援に取り組んだ。病院機能評価では問題なく評価を得た。

3. 地域の関係機関との連携強化

【豊田市市役所】

豊田加茂医療連携交流会 1回/年

入退院調整ワーキンググループ 2回/年

4. 地域クリニカルパス推進

【脳卒中地域連携パス運用会議】年3回開催

令和5年8月31日「地域連携診療計画の評価と見直しについて」Web開催

令和5年12月21日「地域連携診療計画の評価と見直しについて」Web開催

令和6年3月21日「令和4年度実績報告」「地域連携診療計画の評価と見直しについて」Web開催

【大腿骨頸部骨折地域連携パス運用会議】年3回開催

令和5年6月15日「新規参加病院承認」「地域連携診療計画書の評価と見直しについて」Web開催

令和4年10月19日「連携パス記載項目の修正・更新について」「二次骨折継続管理料の現状と課題」Web開催

令和6年2月27日「急性期病院実績報告」Web開催

5. 在宅支援コーディネーターとしての質向上とキャリアアップ

「第24回豊田厚生病院地域医療連携交流会」3名参加

「第28回豊田加茂在宅医療講演会」3名参加

「豊田市における40歳未満のがん末期患者へのサービス利用勉強会」13名参加

「令和5年度退院調整看護師養成研修」講師

「令和5年度訪問看護職員養成講習会」講師

「加茂看護専門学校 授業」講師

「第9回豊田厚生病院がん看護基礎研修会」講師

2. 令和5年度の実績

令和5年度の退院調整における体制は、退院調整看護師2名、MSW1名であり、昨年度より1名人数が少ない体制で退院調整の実践をした。新規依頼件数は、794件（前年度比90%）と、昨年度より減少している。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になったことによる施設での面会制限の緩和により、施設や転院を希望する患者が増えてきたことが影響していると考えられる。退院調整対応患者疾患分類をみると、悪性新生物が379件（前年度比87%）と全体の48%を占めている。そのため、ACP、ターミナル期の継続看護、家族看護、倫理的アセスメントなど退院支援における知識のレベルアップに取り組み、「患者の思い」を中心に据えた退院調整と多職種連携を実践した。

一方、病棟専任看護師における退院支援体制は、子育て世代など時短勤務等のスタッフが7割を占める体制であった。そのため、患者の思いを汲んだ退院支援を滞りなく継続するために、スタッフ全員による応援体制

の確立に取り組んだ。取り組みの成果として、長期休暇を要するスタッフもあるなか、コロナ罹患などによるスタッフの急な休みも重なったが、応援体制確立による協力体制により退院支援を滞りなく維持することができた。当院は在院日数が10-14日と短いため、退院支援を滞りなく実践することは重要である。患者に不利益を与えることなく安心した退院を支援することができたと考える。厳しい体制のなかであったが、入退院支援加算1の算定件数は、8,682件（前年度比103%）と昨年度をさらに上回る成果を上げ、病院への収益にも貢献することができた。

また、今年度は病院機能評価の受審があり、病院の看護師全体に「退院支援のしくみ」と「診療報酬に基づく記録の手順」の統一を働きかけ、正しい記録のあり方と内容の充実に向けて取り組むことができた。

① 退院調整対応件数

	2023年度
新規件数	794件
継続延べ件数	242件
合計	1,036件

② 疾患分類

	2023年度
新生物	379件
神経系	65件
循環器系	95件
呼吸器系	80件
消化器系	43件
その他	132件

③ 退院時転帰先

	2023年度
在宅	439件
転院	69件
施設	6件
死亡	75件
合計	589件

④ 退院支援計画書・介護支援連携

	2023年度
入退院支援加算1	8,682件
地域連携診療計画加算	305件
介護支援等連携	110件
多機関共同指導加算	48件

※外来患者の対応件数を除く

⑤ 地域連携パス件数

	2023年度
大腿骨頸部骨折	130件
脳卒中	204件
胃がん	66件
胃がん（ESD）	8件
大腸がん	117件
乳がん	118件
肝臓がん	0件
肺がん	63件
前立腺がん	28件
在宅緩和ケア	10件
認知症	20件
BKP術後骨粗しょう症	7件
C K D	3件
心不全	27件
脳卒中2次パス	27件
合計	828件



12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）

令和5年度は、総対応件数としては令和3年度くらいの水準に戻った。しかし、新規の相談依頼の件数は過去最多であった令和4年度の2,843件を上回る2,894件であった。新規依頼が増えているのに総対応件数が減ったのは、周りの医療機関のコロナ対策の水準が落ち着いたことで、スムーズに退院が進むようになったことの影響が大きいと考えられる。

新規の依頼件数が増えているのは、身寄りのない単身者の身元保証の問題や金銭管理の問題など、根本的にソーシャルワーカーの介入を必要とする患者が相変わらずに増えていると考えられる。また、利用者の医療機関に対する要望が過度な期待に繋がり、医療機関としてどこまで対応するべきかを迷うような事例も増えてきている。

がん相談で想定していた復職支援の相談への対応は令和4年度からほとんど増えていない。

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 後方病院や在宅関係機関との連携強化

- ・後方医療機関や施設とは定期的に話し合いを行い、よりスムーズな転院や施設入所ができるように継続的に運用の見直しを行っている。
- ・豊田加茂医師会の退院調整ワーキンググループに参加して、西三河北部医療圏のルールの見直しにも協力した。在宅でのACPが入院時に確認できるようにして、患者の思いを反映した医療の提供が出来るように関係書類の作成等を行っている。
- ・行政関係の会議では、豊田市の地域包括ケアシステムの基盤整備として市民後見人の養成などへの継続的な協力を行っている。また、身寄りのない単身者の問題については、全国に先駆けて豊田市がモデル事業に取り組んだこともあり、具体的に展開できるように現場目線での話し合いを続けている。併せて、現場での実践ツールを市役所と一緒に作成し、地域関係機関にも参照してもらえるような広報も行った。

2. キャリアアップへの取り組み

- ・両立支援コーディネーターの取得、がん相談支援センター相談員基礎研修会、精神保健福祉士協会研修会など、スタッフの状況に合わせて一步上の資格等の取得や研修への参加に取り組んだ。
- ・がん相談支援センター相談員基礎研修会は、基礎研修Ⅰ・Ⅱの受講に1名が取り組んでいる。
- ・精神保健福祉士協会については、1名が学会発表にも取り組み、その結果として参加者から診療報酬の算定の可能性も教示してもらえたことで、新たな体制整備の足掛かりとなっている。
- ・入院時重症患者メディエーター研修も1名受講し、今後に院内の体制見直しに取り組む予定となった。
- ・倫理委員会の立ち上げに伴い、院内の体制整備に繋がるように臨床倫理の考え方の整理を行い、院内のガイドラインの作成もしている。

3. 新人教育を進めるための体制づくり

- ・従来のチーム制をいったん中止して、2名の教育担当者を中心とした新人教育体制に取り組んだ。新人一人一人に細かい指導はできたが、教育担当者のバックアップ体制や新人のメンタルサポート面など、やや課題が残る内容であった。そのため、良かった部分は残しつつ、令和6年度の教育体制を検討するたたき台となった。

4. がん相談の体制充実

- ・緩和ケア病棟の受け入れ態勢の見直しをすすめ、まだ課題は残るものの受け入れ態勢はスムーズになってきている。
- ・がんサロン煌を再開し、患者の声を拾えるような体制づくりをしている。会場確保が出来ず、4回しか

開催できなかったが、ニーズは確認できたため、令和6年度の定期開催に繋げる予定とした。

2. 令和5年度実績

1. 援助内容別対応件数

援助内容	令和5年度		令和4年度	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)
1. 心理・社会的処遇	357	1.2%	449	1.4%
2. 治療と療養生活	402	1.3%	632	2.0%
3. 家族関係・在宅生活	339	1.1%	412	1.3%
4. 受診・入院	522	1.7%	660	2.1%
5. 退院・転院	25,367	84.3%	26,363	82.3%
6. 医療費・生活費・経済	1,188	3.9%	1,292	4.0%
7. 手続き・診断書・保険	1,736	5.8%	2,008	6.3%
8. 職業等社会生活	28	0.1%	40	0.1%
9. その他	150	0.4%	194	0.6%
合計	30,089	100.0%	32,050	100.0%

2. がん相談支援センター 援助内容別対応件数

援助内容	令和5年度		令和4年度	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)
1. 治療・療養生活等	2,255	79.5%	3,772	83.4%
2. セカンドオピニオン	4	0.1%	22	0.5%
3. 治療実績・受診・入院・退院・医療機関紹介	342	12.1%	401	8.9%
4. 医療費・生活費・社会保障制度	170	6.0%	215	4.8%
5. 不安・精神的苦痛・告知・コミュニケーション	17	0.6%	57	1.3%
6. その他	48	1.7%	54	1.2%
合計	2,836	100.0%	4,521	100.0%

3. 関係機関との会議等への参加状況

豊田市要保護児童・DV対策協議会、愛知県児童虐待対応医療機関連絡会、豊田加茂児童虐待等関係機関連絡調整会議、地域連携パス会議（脳卒中・大腿骨骨折・在宅緩和ケア）、豊田市成年後見・法福連携推進会議、豊田市身寄り無し独居者検討部会、難病ネットワーク三河ブロック連絡員会議、愛知県難病医療協議会・連絡員合同会議、難病地域対策協議会（豊田市保健所）、難病地域対策協議会（衣浦東部保健所）、保健所・難病医療ネットワーク連携会議、認知症に関する交流会、認知症医療連携協議会、豊田市母子医療保健福祉ネットワーク会議、豊田市精神障がい者地域支援協議会、EM-PASS情報交換会、救急隊と医療・福祉合同研修、愛知県がん診療連携協議会相談支援部会、退院調整ワーキンググループ（豊田加茂医師会）等

4. 地域貢献

愛知県医療通訳派遣システム養成講座 講師派遣

- ・名古屋刑務所視察委員会 委員派遣
- ・豊田市成年後見センター市民後見人養成講座 講師派遣
- ・豊田市訪問看護育成センター 講師派遣
- ・愛知県医療ソーシャルワーカー協会新任者養成委員会 講師派遣
- ・実習生対応（他職種含む） 等



5. 患者会開催状況（事務局を医療福祉相談課が対応しているもの）

- ① オストミー友の会（人工膀胱・人工肛門患者会）— 事務局 医療福祉相談課
 - ・第41回 オストミー友の会
 - 令和6年2月16日
 - 「オストメイトの災害対策～日ごろの備えが大切です～」
 - 講師 福岡沙織氏（皮膚・排泄ケア認定看護師）
 - 「フレイルと健康体操」 講師 吉田成見氏（理学療法士）
 - 参加者：47名（付き添い含む）
- ② ひまわり会（在宅酸素療法患者会）— 事務局 医療福祉相談課
 - ・第45回 ひまわり会
 - 準備はしたが参加者が集まらずに、開催中止
 - 参加者を集める方法など再検討を行った。

13. 豊田厚生訪問看護ステーション

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

- (1) 豊田市内の在宅医療・福祉連携推進計画への参加と地域の多職種連携強化の取り組み、訪問看護師育成と訪問看護ステーションの普及啓発、人材育成活動
 - ① 豊田加茂訪問看護ステーション協議会への参加

隔月1回の定例部会への参加、多職種連携の小チーム活動へ参加し、市内のステーションへ豊田みよしケアネットの普及活動を行った。また、多職種情報交換会では、連携における課題の検討多職種の役割機能についての周知と啓蒙を実施。交流を兼ね、対面で多職種情報交換及び課題検討グループワークを12月に実施した。
 - ② 愛知県訪問看護ステーション協議会主催「訪問看護管理者研修」支援

前年度に引き続き、管理者研修支援者として、GAP分析から自部署での取り組み対策の作成と1日2名の事業所での実習受け入れ等、年間を通して研修支援を担当した。
 - ③ 豊田厚生病院地域医療福祉連携課主催「看護技術研修会」講師

豊田市・みよし市のクリニック及び病院の看護師等に対し、Zoomにて7月に開催。市内の地域包括ケアシステム構築における訪問看護師の役割と、訪問業務について伝達講習を実施した。アンケートから、訪問看護師の役割理解や、連携の重要性、自施設での活用に関心があるという結果が得られた。
- (2) 各種加算算定と安定した経営維持のための取り組み
 - ① 訪問看護カルテのICT化

令和5年度2月～電子カルテ導入の準備を開始し、4月にデータ移行を完了、5月～実績入力とレセプト作業を開始した。導入期の4月は、データ移行の為に新規依頼ケースを制限した。その結果、4月の利用者数と収益が減った。電子カルテ導入により、訪問件数の確保を見込んだが、年間を通して、新規依頼は件数が確保できていたが、訪問キャンセル、入院や終了する利用者数の影響で、利用者数と件数の増加は達成できなかった。

在宅看取りによるターミナルケア加算算定数は年間合計23件、機能強化型訪問看護療養費Ⅰの加算算定要件は達成した。

電子カルテ導入により、看護師のカルテ記載時間（日々実施記録、報告書、計画書等）短縮、訪問中や時間外の利用者情報共有、記録業務による超過勤務時間短縮、レセプト業務の作業効率化などに活用できている。
 - ② 訪問実績のコスト漏れ防止

電子カルテ導入と同時に、スタッフが実績入力を確実に実施するために、加算が一覧で確認できる「訪問コストチェック表」を作成した。訪問実施時に、確認しながら入力を実施している。
 - ③ 運営指導実施の対応

6年に1度の運営指導対応に向けて、事前準備として、マニュアルや基準の見直し、算定要件を満たすカルテ記録の見直し、特にターミナルケア加算を中心に学習会と記録評価を実施しカルテ準備をした。当日の指摘事項として、在宅看取りでの訪問時間の実績についての指摘が2件あった。契約時書類のうち、個人情報の取り扱いについての署名欄についての指導があった。
- (3) 安心安全な看護の提供、利用者・家族に信頼される対応の実現
 - ① ACPサポートを含めた入院先との連携

訪問開始時に、利用者と家族へ「大切にしている事」「これから希望する療養先」を確認し、院内電子カルテへ入力（ACP付箋でマーク）を実施。入院時には看護サマリーへの記載により、療養場所が変わっても多職種でACPを共有し、サポートが継続できるよう働きかけた。
 - ② 新規利用者カンファレンス、デスカンファレンスを実施し、看護師全体で看護計画の見直し、訪問時ケアの検討を行った。デスカンファレンスでは、病状アセスメントと実施できた看護ケア、倫理の

4 原則に沿い、同施設内のケアマネジャーの参加も促し、振り返りを実施した。

③ 糖尿病看護認定看護師による在宅でのフットケア継続

前年度から取り組んでいる。院外の訪問看護指示医師から指示を受け、利用者へ同意を交わし、グラインダー等を使用する専門的なフットケアを実施（計13名）した。結果は画像データにて主治医へ報告した。爪白癬や清潔ケア、スキンケア、履物指導など自己管理方法について継続できるよう指導を行い、利用者からはQOL向上や、創部が治癒する等効果的な結果が得られている。

(4) 働きやすい職場環境整備

① 電子カルテ導入

訪問先でのタブレット入力により、訪問記録の負担が減った。訪問先でも緊急時の情報共有ができ、複数名での対応判断ができた。訪問経験の浅いスタッフも、タブレットを介し相談ができるため、訪問先で安心・安全な判断や対応ができる環境が確保できた。

② パースデー休暇取得、月に1回のノー残業デイの取り組み実施

全スタッフ、5日以上長期休暇取得。

③ 緊急当番の業務負担軽減

緊急呼び出し訪問により、深夜加算対象の時間帯（22時～6時）に出動した場合の、翌日の勤務について見直した。また、休日に定期訪問がある場合は振出振休で対応、5日以上日勤が続かないよう有休で調整した。

④ 毎月、訪問看護報告書作成の超過勤務が継続しており、時間内に入力できる時間を確保した。

訪問件数を確保した状態で訪問予定計画を作り、係長とリーダーを中心に取り組んだ。訪問看護報告書記入の為の超過勤務時間は減少している。

2. 令和5年度実績

訪問看護カルテのICT化により、記録時間の削減や訪問利用者数及び訪問件数の増加を見込み、予算を立てたが、利用者の入院や施設入所、受診によるキャンセルなどで、1年を通して減少のまま経過した。在宅看取り件数は、院内外からの依頼に対応し、年間20件以上の確保ができた。

前年度比) 利用者数91% 訪問件数95%
介護保険収益92% 医療保険収益83%

1人1日当たり平均訪問件数は年間平均2.9件で前年度を下回った。訪問看護収益はマイナス4,820千円で、前年度比94%であった。利用者の月単価は、介護、医療共に増えているが、訪問件数が伸びなかったことで、全体の収益増には至らなかった。

利用者の新規依頼は46%が院内の在宅支援コーディネーターだが、前年度より15%低下している。逆に院外からの依頼は32%から43%に増加している。院内外の依頼件数を確保し、利用者数と件数の増加が次年度の課題である。院内のケアマネジャーからの紹介は0件、包括支援相談員からの紹介は5件と少ないため、増加に向け課題の抽出と対策を実施していく。

(1) 訪問実績

	年間利用者数 (延べ人数)	年間訪問件数 (延べ件数)	訪問看護【収益】 (千円)	ターミナルケア加算算定数
医療保険	484	3,032	39,414	17
介護保険	818	4,182	43,552	5
計	1,302	7,214	82,965	22

(2) 利用者月単価

	介護保険	医療保険	全体
令和5年度	53,846	81,187	64,033

(3) 新規依頼の紹介元

紹介元		介護	医療	計
院内	在宅支援コーディネーター	7	34	41
	居宅介護支援事業所	0	0	0
	地域包括支援センター	4	1	5
	医療福祉相談課	1	0	1
	医師	0	3	3
	小計	12	38	50
院外	他施設より（他病院・診療所等）	1	2	3
	居宅介護支援事業所	20	8	28
	地域包括支援センター	7	1	8
	小計	28	11	39
合計		40	49	89

(4) 自宅にて他界した件数とターミナルケア加算算定割合

	自宅にて他界した件数	自宅他界のうちターミナルケア加算算定件数	算定割合
令和5年度	23	22	96%

※ターミナルケア加算算定不可

	件数	理由
令和5年度	1	訪問日数不足（退院同日死亡）

(5) 学生・実習生受け入れ状況

学校名	人数
加茂看護専門学校	9クール 40名
学校法人愛西学園 弥富看護学校	2クール 8名
愛知県看護協会管理者研修	2名1日
豊田訪問看護師育成センター実務研修	1名3日



14. 居宅介護支援事業所（豊田厚生介護保険センター）

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. ACPの強化

- (1) ACPについて勉強会開催（ACPの正しい知識・場面アプローチ方法・本人のためのACP支援）
 - ・スタッフ1回ずつ企画開催：7月2回、11月1回実施
- (2) ACPに関する記録
 - ・ターミナルケースの各スタッフの記録の確認
 - ・9月運営指導時ターミナルケース記録確認、指摘事項なし
- (3) 事例検討会
 - ・部署内にて7月2回、10月2回、12月2回、1月2回実施
 - ・連携部内NS会にて4回、SW会1回、他法人との合同事例検討会にて1回実施（計14回）
 - ・ケアマネ支援が一人では負担感を感じるケースについては、各々同行し対応できた
 - ・アンケートにより達成度を確認（前年度と比較しACPに関して5段階中4「意識が高まった」と100%返答あり）

2. 居宅介護支援事業所の特定事業所医療介護連携加算の算定が維持できる（法改正により条件変更の可能性あり、法改正前の要件を満たしていく）

- ・令和5年3月1日～令和6年2月28日まで間、在宅看取り15件、その内がん末期ターミナルケアマネジメント加算件数8件算定（令和3年介護保険法改正あり、特定事業所加算Ⅳが特定事業所医療介護連携加算として名称変更、がん末期ターミナルケアマネジメント加算5件以上必要、令和6年4月介護保険法改正あり、令和6年度も算定可能となった。他の要件も満たしている。）
- ・退院退所加算76回算定（加算要件は35回以上）
- ・週1回ケアマネ会議を開催し、新規ケースや問題ケースなどの情報を共有
- ・時間外携帯当番を365日対応
- ・運営基準減算に該当しないように適正にケアマネジメント業務を実施
- ・短期間で終了するケースや状態悪化にてプラン発生につながらないケースが多いため、今後も新規ケースの継続対応が必要
- ・特定事業所加算基準の遵守状況に関する所定の記録を毎月末まで作成し、5年間保存
- ・豊田市集団指導・講習会・運営指導の情報を適宜スタッフと共有

3. ケアマネ実務研修実習指導

- ・コロナ感染対策しながら1名実習受入れ対応（特定事業所加算Ⅲの要件の1つである）

2. 令和5年度実績

1. ケアプラン作成

令和5年度	
件数	収益
1,183	21,608,110

- ・特定事業所加算Ⅲ（300単位）・特定事業所医療介護連携加算（125単位）算定継続中
- ・活動実績は、ケアプラン件数は前年度比89%、収益は前年度比89%、新介護支援ソフト移行期間中に、職員自身でマスタ登録・データ移行入力のため新規ケース対応を一時制限していたことと入院等にてケアプラン発生しなかったケースがいたためと予測
- ・急性期病院の中にある居宅介護支援事業所のため、主に医療依存度の高いケースやがん末期のケースが

安心して自宅療養できるように受け持ち対応している。医療依存度の高い場合やがん末期ケースの場合、状態変化しやすいケースが多い。急変にて相談対応は行ってもプランにならないケースが80件あった

- ・がん末期ケースでターミナルケアマネジメント加算算定件数8件（加算要件として5件以上必要）
- ・入院時医療連携加算3日以内57件、7日以内7件算定
- ・退院退所加算76回分算定（カンファなし連携1～2回、カンファ有り連携1～3回含む）（加算要件として35件以上必要）

2. 要介護別件数

要介護度別	令和5年度
要介護1	327
要介護2	402
要介護3	205
要介護4	95
要介護5	154
計	1,183

3. その他

(1) 新規・終了など

	令和5年度件数
新規利用契約者	69
中止者（入所等）	27
死亡者	31
利用者（電話相談・訪問対応以外）	1,614
他事業所へのケース紹介（再掲）	0

(2) 院外ケアマネから主治医連絡・入院時情報提供書対応件数（地域医療連携課事務担当）

主治医連絡票対応件数	508
介護保険医療連携用情報提供書対応件数	724

(3) 令和3年12月～地域総合支援室事務員2人兼務体制とし、令和4年度に居宅介護支援事業所として受け持ち利用者数を拡大できるように試行、令和4年6月居宅介護支援事業所変更届提出したが、以後スタッフの体調不良などから地域総合支援室3部署兼務は問題点も多く、居宅新事業所として必要な時間は確保できなかった

(4) ICT導入に向けて、令和5年3月新介護支援ソフト・ノートパソコン導入

業者でのデータ移行は最低限であり、職員自身でマスタ登録・データ移行入力作業が多く、一時新規ケースの受け入れを制限しながら対応

(5) 感染に関するBCP（事業継続計画）を修正、災害に関するBCPを作成

15. 豊田厚生地域包括支援センター

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

*活動目標は3年ごとに“3年後を見据えた長期的な目標”を立案。令和5年度は3年のうちの最終年度であった。

【活動目標】

- ・地域の理解や協力により、認知症の方が地域で活躍できる場を増やすことができる。
- ・生きがいを見つけ、自身の健康に目を向ける高齢者が増える。
- ・多様な機関や地域支援者が連携して、複合課題を抱える世帯や支援が必要な高齢者を支える地域支援ネットワークの構築ができる。

1. 地域の方々が認知症について考える機会を作り、認知症の方が安心して外に出られる機会や環境を整える。

(重点事項)

- ① 福祉フェスティバルで地域住民向けの認知症サポーター養成講座を開催
- ② 季刊誌を活用して地域住民に認知症サポーター養成講座の受講勧奨を行う
- ③ 認知症サポーター養成講座受講者へサポーター登録勧奨を行う
- ④ すべてのささえあいネット登録機関を訪問
- ⑤ まごころフェスタにおいて全世代に啓発、情報発信を行う
- ⑤ 若年性認知症本人家族会「スマイル」の継続支援
- ⑥ 認知症カフェ「スイカフェ」を共催

(成果) すべて予定通り実施

- ① 6月24日(土)福祉フェスティバルにて開催、19名の方が受講。
- ② 季刊誌の夏号で受講勧奨を行った。
- ③ 季刊誌の夏号にて登録勧奨を行い、12月7日ステップアップ講座を開催し登録勧奨を行った。
- ④ 8～12月に登録事業所54ヶ所を訪問した。
- ⑤ 10月29日(日)まごころフェスタ展示にて、包括PR、認知症、ACPについての啓発を行った。11月26日(日)浄水駅前マルシェに参加し、健康相談ブースを担当した。
- ⑥ 市高齢福祉課と毎月共催。当年度をもって終了となった。
- ⑦ 老人保健施設さなげと毎月共催。7月よりカフェタイムを再開した。

2. 地域の高齢者の実態把握を行い、必要な支援につなげるとともに、将来の在りたい姿について考え、行動できる高齢者が増えるよう働きかける。

(重点事項)

- ① 民生委員の「ひまわり活動」に同行する等、一人暮らし登録者の生活状況の把握を行う
- ② 自治区長や民生委員等が「支援が必要」と考える高齢者を確認し実態把握を行う
- ③ 「健診未受診・医療保険未使用」の80～84歳の方の実態把握を行い、必要な支援につなげる
- ④ 季刊誌を活用し、人生会議やわたしのノートを啓発する。
- ⑤ 「わたしのノート」を配布した人の作成状況などを確認する。
- ⑥ 健康増進、介護予防に関する講座を企画、開催する。

(成果) すべて予定通り実施

- ① 民生委員の「ひまわり活動」に同行、電話等での実態把握を全件実施し、困り事の聴き取り、必要な支援へつなげるなどの対応ができた。

- ② 自治区長や民生委員より気になる高齢者の情報提供をいただき、実態把握を行った。
- ③ 該当者3名のうち2名を訪問、介護保険申請、サービス利用の調整を行った方がいた。
- ④ 季刊誌の秋号に掲載し発行した。
- ⑤ 一人暮らしの方29名、高齢者のみ世帯20世帯に作成状況、その後の気持ちの変化を聴きとりした。
- ⑥ 伊保原ふれあいカフェ、エスライフや民生委員より依頼があり講座を開催した。

3. 地域で活躍するケアマネ、民生委員、地域住民、ささえあいネット登録機関などと支援を必要としている高齢者の情報を共有し、個別支援から地域課題に取り組む地域支援ネットワークの組織づくりへつなげる。

(重点事項)

- ① ケアマネ意見交換会を病院と共催
- ② 地区のケアマネに社会資源や施策、制度等を情報提供する
- ③ 地区内の居宅へ困難事例の聴き取り、助言を行い、必要に応じて地域ケア個別会議を開催
- ④ ささえあいネット登録機関へ、みまもりほっとパーキング事業への協力をはたらきかける
- ⑤ 集いの場へのコーディネート事業に協力する
- ⑥ タワーマンションやスーパー、薬局に包括のPRポスター掲示を働きかける
- ⑦ 区民会館等に相談カードとポストの設置を働きかける

(成果) すべて予定通り実施

- ① 9月22日(金)に開催、外部からは40名ほどの参加があった。
- ② 西部ブロック主任介護支援専門員活動チームで作成した市内の配食サービスの情報を、地域のケアマネに配布した。
- ③ 5月30日に豊田厚生、第2とよた苑を訪問、6月19日に介護老人保健施設さなげ、メグリア浄水を訪問し、利用者の情報共有や困り事の聴き取りなどを行った。
- ④ 全登録機関を訪問しはたらきかけを行ったが、新たに参入いただける事業所はなかった。
- ⑤ 認知症カフェSuiCafeの案内をし、閉じこもりがちな高齢者を集いの場への参加につなげることができた。
- ⑥ タワーマンションを多く展開するトヨタすまいるライフにはたらきかけ、包括PRポスターの掲示をお願いすることができた。
- ⑦ 自治区の区長へ相談し、ポスト設置について了解をいただいた。

2. 令和5年度実績

1. 相談に対する対応件数(件) ※地域包括支援センター支援システム実績

電話	訪問	来所	その他	合計(件)
5,601	1,339	650	285	7,875

2. 介護予防支援実績

件数(件)	収入(円)	前年度比
974	4,642,458	120%

3. 介護予防ケアマネジメント実績

件数(件)	収入(円)	前年度比
581	2,798,470	116%

4. 会議・研修等参加実績 合計111回

会議・研修名等(一部)・回数	
民生委員児童委員地区協議会	11回
サービス連絡調整会議	13回
地域包括支援センター連絡会議	12回
ケース検討会議(スクリーニング会議、コア会議含む)	2回
認知症初期集中支援チーム員会議	0回

5. 人材育成等計画の実績

事業区分	実施の有無
①センター職員の資質向上のための研修機会の確保	○
②センター職員と法人担当者との業務上の意見交換	○
③包括的支援事業に専念できる環境の整備	○
④3職種確保のための対応策	○
⑤そのほか法人独自の取組(任意)	○

16. 保健事業部 健康管理室

1. 令和5年度に実施した重点事項とその成果

1. 健康管理業務の充実

地域住民の方々が当健康管理センターを活用して、健康活動につなげて頂けるよう以下の事を実施しました。

① プレミアム脳ドックの開設

従来の脳ドックにAI解析脳年齢と認知症スクリーニング検査を加え提供を開始しました。

② 子宮がん検診枠の提供

需要が多く対応ができていなかった女性特有のがん検診に関して、検診枠を増枠するなど体制整備をしました。受診予定者に子宮がんオプションを電話連絡し勧めることで増収を図りました。(売上453,200円)

③ 二次検診（精密検査）受診の支援

健康管理室と病院予約センターで二次検診受診の外来予約を866件実施しました。次年度は対象者のがん検診（胃・肺・大腸・乳・子宮・前立腺）受診者に加え、心電図異常に対しても予約を開始する体制を整備しました。

2. 職員の健康維持・増進のため、空き枠を有効活用した各種ドックの提供

豊田厚生病院職員が病院の補助を受け各種ドックを受診できる体制を確立しました。

空き枠を使用し、脳ドック174件（売上6,705,960円）、肺ドック3件（49,140円）、人間ドック35件（1,071,700円）提供できました。

3. 地域住民への情報提供 市民公開講座

・YouTube配信 5月18日から『認知症予防「プレミアム脳ドック」を受けませんか』

『早期発見が大切「特定健診・がん検診」を受けよう』の2題を配信しました。

・2024年2月17日『今日の健康 明日への安心 さあ、健康管理センターへ行こう！』と題し開催しました。骨年齢、血管年齢、体組成、肌年齢、mCQトライアルの無料体験を提供しましたところ好評を得ました。参加者約80名

4. 人間ドック健診施設機能評価

2023年12月27日に受審し、更新の認定を頂きました。

2. 令和5年度の実績

令和5年度の受診者総数は20,533名（職員健診含む）、総収入583,706千円、前年度に比べ10,646千円増収（前年対比101.9%）となりました。令和5年度の稼働日数は265日で、1日当たりの平均受診者数は77.5名（職員健診含む）、また一日当たりの平均収入は2,203千円で、受診者一人当たりの平均単価は28,428円（前年対比100.9%）となりました。各種健診別の受診者数の前年度比はドック107.4%、企業健診等、全国協会健保92.6%、豊田市国保特定健診97.9%、豊田市がん検診104.0%でした。全体的に新型コロナウイルス蔓延前の水準を上回るまで回復してきました。

1. 令和5年度のがん検診の精査率

令和6年4月1日現在

	総受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
胃がん	10,232	765	7.5	556	72.7	8	0.08
肺がん	17,532	299	1.7	183	61.2	3	0.02
大腸がん	12,656	771	6.1	490	63.6	11	0.09
前立腺がん	2,261	164	7.3	89	54.3	12	0.53
子宮がん	4,440	52	1.2	30	57.7	0	0.00
乳がん	5,417	193	3.6	172	89.1	18	0.33

※胃がん検診で、食物残渣多量、描出不良、撮影不可等の理由にて検査未実施者は総数に含まず

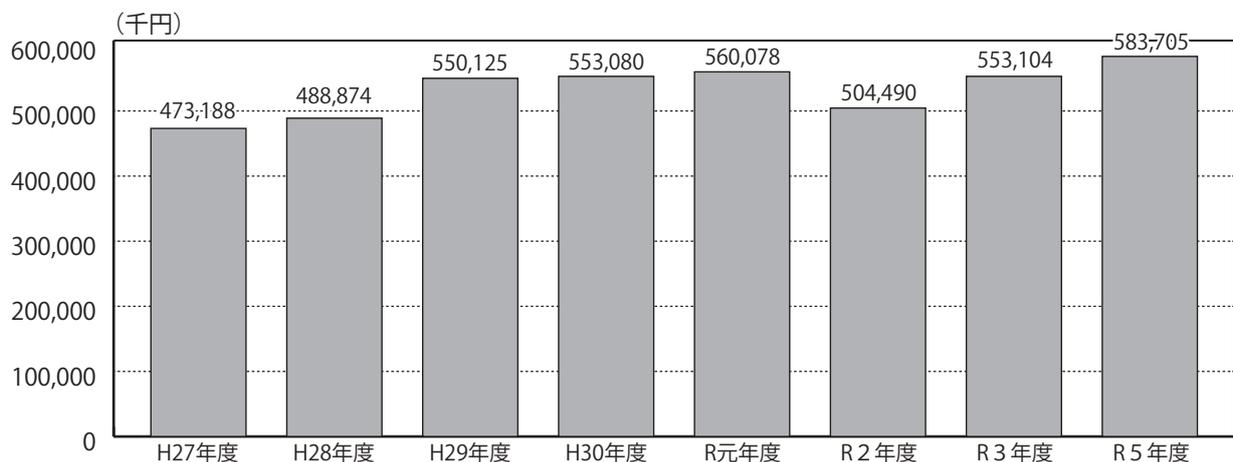
※各精検受診者数は、令和6年4月1日までに当健康管理室に報告されたもののみとする

※精検受診率は1年遅れで集計

2. 健康管理室利用者数前年度比較

	令和5年度	令和4年度
人間ドック	4,151	3,948
JA組合員人間ドック	74	78
脳ドック	1,337	1,139
PET検診	163	125
肺ドック	292	317
レディースドック	390	354
甲状腺ドック	82	80
もの忘れドック	0	0
豊田市国保特定健診	4,407	4,503
特定健診（集合契約A）	558	514
保健指導（動機付け）協会健保含む	215	218
保健指導（積極的）協会健保含む	233	229
全国協会健保 一般	1,762	1,943
〃 付加・差額	343	329
〃 乳・子宮がん	499	597
〃 肝炎	7	11
企業健診・身体検査	2,832	3,389
被爆健診	78	78
職員健診	2,902	2,805
保健指導（動機付け）	16	32
保健指導（積極的）	14	9
豊田市がん検診 胃がん	3,419	3,478
〃 大腸がん	4,787	4,887
〃 肺がん	4,308	3,815
〃 子宮がん	1,351	1,358
〃 乳がん	1,828	1,939
〃 前立腺がん	797	899
〃 肝炎	283	377
〃 総合健診	227	240
〃 乳がん検診（無料券）	40	45
〃 子宮がん検診（無料券）	8	7
受診者数（職員健診含む）	20,553	20,294
収 益(円)	583,705,653	573,059,621

3. 健康管理室収益推移



Ⅲ 職員活動

1. 研究業績

緩和ケア内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	食道がんに伴うがん性疼痛および腰椎椎間板ヘルニア併発患者の腰背部痛の鑑別に硬膜外ブロックが有用であった1症例	小島康裕	村松雅人	Palliative care research:2023年18巻4号p.241-245	誌上発表
2	Epipericardial fat necrosis (心膜外脂肪壊死) による胸痛を認めた卵巣癌の1例	村松雅人	新保暁子、櫻井悠介、西村大作 小島康裕、西村栄輝、近藤有 塩崎沙耶、安井 円、巖野久美子	第28回日本緩和医療学会学術大会	6月30日 ～ 7月1日

血液内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版	平賀潤二		一般社団法人日本血液学会編	誌上発表
2	Pora-R-miniCHP療法の認容性および有効性：単施設後方視的検討	鈴木杏奈	原田靖彦、寺島浩史、平賀潤二	第84回日本血液学会学術集会	10月13日
3	血液悪性腫瘍に対する化学療法における従来の中心静脈カテーテルと比較したPICCの安全性および管理性	原田靖彦	寺島浩史、平賀潤二	第84回日本血液学会学術集会	10月14日
4	喫煙がびまん性大細胞型B細胞リンパ腫治療後の予後に与える影響	平賀潤二	寺島浩史、原田靖彦	第84回日本血液学会学術集会	10月15日
5	血液疾患患者におけるCOVID-19重症化因子に関する多施設共同研究		岡本晃直、笠原千嗣、澤ひとみ 熱田由子、荒 隆英、丸茂義晃 堀尾知弘、細井裕樹、正木康史 木村俊一、小宅達郎、近藤英生 池田大輔、鈴木康裕、平賀潤二 尾関和貴、梶口智弘、倉橋信悟 西山誉大、森下喬允、金谷 穰 吉田全宏、齊藤繁紀、山本秀行 後藤尚絵、入山智沙子、岡本昌隆 富田章裕 藤田医科大学病院血液内科(略) 豊田厚生病院血液内科(略)	第84回日本血液学会学術集会	10月15日
6	診断に苦慮したBRAF遺伝子再構成を認めた組織球肉腫の1例	須川耀祥	平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日
7	当院で施行されたがん遺伝子パネル検査における二次的所見の検討	平賀潤二	原田靖彦、針山由美、新城加奈子 宇佐美雅之、久留宮康浩	第21回日本臨床腫瘍学会学術集会	2月23日

循環器内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	Tip detection法を用いて治療したLAD病変の一例	羽賀智明	小林優大、桐谷元樹、大垣内琢也 井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子 長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太 中込敏文、豊 陽祐、藤田雅也 大橋大器、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第48回東海北陸地方会	5月12日



2	LADの高度石灰化病変の Nightmare case	早川 輝	羽賀智明、桐谷元樹、大垣内琢也 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀 仁美、中込敏文、豊 陽祐 藤田雅也、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第48回東海北陸地方会	5月12日
3	OASで石灰化病変に立ち向かおう！ ～OASの基礎から応用まで～	窪田龍二		日本心血管インターベンション治療学会 第48回東海北陸地方会	5月13日
4	RCAのcalcified noduleに対してDCAを施行した一例	桐谷元樹	窪田龍二、小林優大、大垣内琢也 早川 輝、岡本峻幸、櫻井礼子 佐橋智博、堀 仁美、中込敏文 羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也 大橋大器、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第48回東海北陸地方会	5月13日
5	RCA入口部の石灰化病変に対してRotational atherectomyを施行した1例	大垣内琢也	窪田龍二、岩田恵輔、井関彰太 櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美 近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明 豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器 金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第48回東海北陸地方会	5月13日
6	ST junction高度石灰化かつ冠動脈閉塞リスクを伴う「y severe AS」に対して two-step inflation techniqueでTAVIを行った一例	豊 陽祐	桐谷元樹、大垣内琢也、岩田恵輔 井関彰太、櫻井礼子、長井 伸 近藤喜代太、堀 仁美、中込敏文 羽賀智明、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第48回東海北陸地方会	5月13日
7	Maze手術後のMarshall reentry atrial tachycardiaにアブレーションを施行した二例	岡本峻幸	金子鎮二、早川 輝、大垣内琢也 桐谷元樹、中込敏文、櫻井礼子 堀 仁美、豊 陽祐、羽賀智明 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 篠田政典	第161回日本循環器学会東海地方会	6月3日
8	His近傍心室期外収縮にreversed C-curve techniqueを用いて治療した1例	大垣内琢也	金子鎮二、鈴木智理、桐谷元樹 早川 輝、岡本峻幸、櫻井礼子 堀 仁美、羽賀智明、豊 陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 篠田政典	第161回日本循環器学会東海地方会	6月3日
9	起始異常を伴う右冠動脈のSTEMIにprimary PCIを施行した二症例	岡本峻幸		KENKO Live	6月23日
10	A case of localized reentry tachycardia with epicardial circuit	桐谷元樹	金子鎮二、大垣内琢也、岡本峻幸 早川 輝、櫻井礼子、佐橋智博 堀 仁美、中込敏文、羽賀智明 豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	第69回日本不整脈学会 学術集会	7月5日
11	Effect of Closed Loop Stimulation on chronotropic incompetence	藤田雅也	金子鎮二、篠田政典	第69回日本不整脈学会 学術集会	7月7日
12	Experience of high power dragging radiofrequency ablation for single ring box isolation by TactiFlex	中込敏文	金子鎮二、井関彰太、長井 伸 堀 仁美、近藤喜代太、羽賀智明 豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	第69回日本不整脈学会 学術集会	7月7日
13	EXPERIENCE OF TACTIFLEX FOR BOX ISOLATION	Reiko Sakurai	Shinji Kaneko, Masaya Fujita, Takuya Ogaito, Keisuke Iwata, Shota Iseki, Shin Nagai, Hitomi Hori, Kiyota Kondo, Toshifumi Nakagomi, Tomoaki Haga, Yosuke Tatami, Taiki Ohashi, Ryuji Kubota, Motoki Kiriya, Masanori Shinoda	第69回日本不整脈学会 学術集会	7月7日

14	LADとD1のcrush stent後のD1 stent内高度石灰化再狭窄病変に対して、guide extension catheterを用いてrotational atherectomyを行った1例	豊 陽祐	大垣内琢也、桐谷元樹、早川 輝 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀 仁美、中込敏文、羽賀智明 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、篠田政典	TOPIC2023	7月13日
15	Rotational Atherectomyに難渋したRCAの偏心性石灰化病変の一例	早川 輝	羽賀智明、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀 仁美、中込敏文、豊 陽祐 藤田雅也、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	TOPIC2023	7月13日
16	CABG後グラフト閉塞患者の、再狭窄を繰り返す左冠動脈回旋枝病変ならびに左冠動脈主幹部分岐部病変に対してDCA, OASによりsingle stent strategyで治療しえた一例	岡本峻幸		TOPIC2023	7月13日
18	高度石灰化を伴う慢性閉塞性病変に対してrota atherectomyが有用であったが、strategyの組み立てに検討の余地があった1例	窪田龍二		TOPIC2023	7月13日
17	側枝保護に工夫を要したLAD完全閉塞病変の一例	羽賀智明	堀 仁美、豊 陽祐、藤田雅也 大橋大器、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	TOPIC2023	7月14日
19	A case of 3VD with a LMT calcified lesion that was successfully debulked by adequate selection of guiding catheter.	大垣内琢也	羽賀智明、小林優大、桐谷元樹 堀 仁美、豊 陽祐、藤田雅也 大橋大器、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	8月4日
20	A case of emergent use of rotational atherectomy for LMT with thrombus and severe calcification	小林優大	豊 陽祐、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、早川 輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀 仁美、中込敏文 羽賀智明、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	8月4日
21	A case of LMT lesion with severe calcification and attenuated plaque with CKD	羽賀智明	大垣内琢也、桐谷元樹、櫻井礼子 堀 仁美、中込敏文、豊 陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、篠田政典	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	8月4日
22	Bronchial-coronary arteryを利用して治療を行ったLCX CTOの一例	羽賀智明	大垣内琢也、桐谷元樹、櫻井礼子 堀 仁美、中込敏文、豊 陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、篠田政典	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	8月5日
23	進行した腎機能障害を有する非透視PCI患者における周術期ヘモグロビン低下と臨床的転帰への影響について	豊 陽祐	大垣内琢也、桐谷元樹、早川 輝 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀 仁美、中込敏文、羽賀智明 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、篠田政典	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	8月5日
24	後負担の重要性を再認識させられたショック・肺水腫を呈した閉塞性肥大型心筋症（HOCM）の一例	上手万里	羽賀智明、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、早川 輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀 仁美、中込敏文 豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月21日
25	A Case of LAD ostial CTO with trifurcated LMT	羽賀智明		Complex Cardiovascular Therapeutics 2023	10月21日
26	治療方針に難渋した拡張相肥大型心筋症の1例	早川 輝	山口尚悟、岩出和馬、松本大輝 岡島 嵩、光田貴行、石川真司 植村祐介、竹本憲二、度会正人	日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月22日



27	心房細動アブレーション後にbiatrial ATを含む3種類のATを発症した一例	桐谷元樹	金子鎮二、大垣内琢也、早川輝 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、中込敏文、羽賀智明 暁陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月22日
28	長期持続性心房細動に対するアブレーションに際しSpatiotemporal electrogramが有効であった一例	小林優大	金子鎮二、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、早川輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀仁美、中込敏文 羽賀智明、暁陽祐、藤田雅也 大橋大器、窪田龍二、篠田政典	日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月22日
29	Vein of Marshallがbiatrial tachycardia回路の一部と考えられ治療に難渋した心房頻拍アブレーションの1例	大垣内琢也	金子鎮二、桐谷元樹、岡本峻幸 早川輝、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、羽賀智明、暁陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 篠田政典	日本循環器学会東海地方会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月22日
30	TAVI前にPCIを行うかどうか議論を要したCKD合併very severe ASの一例	暁陽祐	佐橋智博、堀仁美、中込敏文 羽賀智明、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	ストラクチャークラブ・ジャパン2023ライブデモンストレーション	11月4日
31	早期にCovered stentが再閉塞し、穿通にConfianza12を要した1例	早川輝	羽賀智明、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、中込敏文、暁陽祐 藤田雅也、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	日本心血管インターベンション治療第49回東海北陸地方会	11月10日
32	Debulking deviceとIntravascular Lithotripsyを用いて2期的にPCIを施行したLADの高度石灰化病変の一例	羽賀智明	大垣内琢也、桐谷元樹、早川輝 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、中込敏文、暁陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、○篠田政典	日本心血管インターベンション治療第49回東海北陸地方会	11月10日
33	J型ワイヤーにて肺出血をきたした心房細胞ablationの一例	金子鎮二		カテーテルアブレーション関連秋季大会2023	11月18日
34	BOX隔離術における左右同時隔離の達成率の検討	佐橋智博	金子鎮二、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、早川輝、櫻井礼子 堀仁美、中込敏文、羽賀智明 暁陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	カテーテルアブレーション関連秋季大会2023	11月18日
35	高齢者の心房細動に対する初回アブレーションの予後の検討	岡本峻幸	金子鎮二、大垣内琢也、桐谷元樹 早川輝、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、中込敏文、羽賀智明 暁陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	カテーテルアブレーション関連秋季大会2023	11月18日
36	房室結節ablation後CRTPを植え込み左室閾値上昇にて左脚ペーシングを行った一例	金子鎮二	大垣内琢也、桐谷元樹、早川輝 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、中込敏文、羽賀智明 暁陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	第16回植え込みデバイス関連冬季大会	2月9日
37	Have advances in drug therapy improved the prognosis of heart failure patients before and after the Fantanctic Fourera	早川輝	羽賀智明、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀仁美、中込敏文、暁陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、篠田政典	第88回日本循環器学会学術集会	3月8日
38	Analysis of Single Ring Box Isolation by High Power Dragging Radio frequency Ablation	中込敏文	金子鎮二、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、早川輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀仁美、羽賀智明 暁陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、篠田政典	第88回日本循環器学会学術集会	3月9日

39	Left Ventricular Hypertrophy might be Associated with the Late Recurrence of Atrial Fibrillation afterCatheter Ablation	櫻井礼子	羽賀智明、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、佐橋智博、堀 仁美 中込敏文、豊 陽祐、藤田雅也 大橋大器、窪田龍二、金子鎮二 篠田政典	第88回日本循環器学会 学術集会	3月9日
40	Comparison of New and Conventional Treatments of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction in Real World	大垣内琢也	羽賀智明、桐谷元樹、早川 輝 岡本峻幸、櫻井礼子、佐橋智博 堀 仁美、中込敏文、豊 陽祐 藤田雅也、大橋大器、窪田龍二 金子鎮二、篠田政典	第88回日本循環器学会 学術集会	3月10日
41	Long-term Clinical Out come of Catheter Ablationfor Atrial Fibrillation in Octogenarians and Nonagenarians	Takayuki Okamoto	Masanori Shinoda、 Shinji Kaneko、Ryuji Kubota、 Taiki Ohashi、Masaya Fujita、 Yosuke	第88回日本循環器学会 学術集会	3月10日
42	Safety and efficacy of de-novo catheter ablation forAtrial fibrillation in octogenarians and nonagenarians	岡本峻幸	金子鎮二	第88回日本循環器学会 学術集会	3月10日
43	PolarX fitによるcryoablation通常使用にて僧帽弁峡部blocklineが完成していた1例	金子鎮二		第4回日本不整脈心電 学会東海・北陸支部地 方会	3月23日
44	下行大動脈に圧排された左房を有する心房細動に対して肺静脈隔離を行った1例	岡本峻幸		第4回日本不整脈心電 学会東海・北陸支部地 方会	3月23日
45	下行大動脈に圧排された左房を有する心房細動に対して肺静脈隔離を施行した一例	岡本峻幸	金子鎮二	第4回日本不整脈心電 学会東海・北陸支部地 方会	3月23日

消化器内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	Real-world effectiveness of ustekinumab for patients with ulcerative colitis :a systematic review and meta-analysis	内田元太		Nagoya Journal of Medical Science	誌上発表
2	Real-World Effectiveness and Risk Factors for Discontinuation of Ustekinumab in Ulcerative Colitis	内田元太		Inflammatory Intestinal Diseases	誌上発表
3	総胆管結石採石術後に対する生理食塩水洗浄	田ヶ原俊徳	内田元太、都築智之	第66回日本消化器内視鏡学会東海地方会	12月2日

総合内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	一過性意識消失で救急搬送された患者の原因検索の現状	西本泰浩		第120回日本内科学会講演会	4月15日
2	歯科治療歴を有する患者に生じた化膿性咀嚼筋炎の1例	松山怜奈	伊藤怜花、加藤誓子、渡口賢隆 西本泰浩	第250回日本内科学会東海地方会	6月25日
3	意識障害と多臓器不全を来したSFTSの1例	山田崇義	伊藤怜花、加藤誓子、渡口賢隆 西本泰浩	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日
4	Staphylococcus lugdunensisを起因菌とした感染性心内膜炎に感染性脳動脈瘤破裂を併発し死亡した1例	鈴木日向	伊藤怜花、山田崇義、加藤誓子 渡口賢隆、西本泰浩	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日



内分泌代謝内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	高齢者2型糖尿病透析患者における持続血糖測定が有用であった1例	玉腰徳子		第250回日本内科学会東海地方会	6月25日
2	敗血症性ショックと鑑別を要した副腎不全、仮面尿崩症の一例	関本ちひろ	玉腰徳子、戸松瑛介、増田 富、澤井喜邦	第23回日本内分泌学会東海支部学術集会	10月7日
3	甲状腺乳頭癌の血糖マネジメント中に先端巨大症を診断した一例	増田 富	関本ちひろ、玉腰徳子、戸松瑛介、澤井喜邦	第33回臨床内分泌代謝Update	11月3日
4	COVID-19感染後に副腎皮質機能低下症をきたした一例	戸松瑛介	澤井喜邦、増田 富、玉腰徳子、関本ちひろ	第33回臨床内分泌代謝Update	11月4日
5	血糖マネジメントにカーボカウントを導入したGAD抗体陽性劇症1型糖尿病の1例	増田 富	戸松瑛介、澤井喜邦	第27回日本病態栄養学会年次学術集会	1月28日
6	糖尿病患者に対するisCGMの活用における有効性の検討	関本ちひろ	玉腰徳子、戸松瑛介、増田 富、澤井喜邦	第252回日本内科学会東海地方会	2月18日

腎臓内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	血漿交換・ステロイド療法にも関わらず、急激な経過で多臓器不全を来した血栓性血小板減少性紫斑病の一例	吉岡知輝	山田拓弥、斉藤絢恵、神田亜希子、渡邊絢史、伊藤岳司、倉田久嗣	豊田加茂医学会	7月8日
2	コロナワクチン接種を契機として発症し、血液透析で改善したメトホルミン関連乳酸アシドーシスの1例	加納夏実	渡邊絢史、山田拓弥、斉藤絢恵、神田亜希子、吉岡知輝、倉田久嗣	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	総合司会	倉田久嗣	豊田加茂医師会共催豊田加茂CKDセミナー	4月26日
2	座長	渡邊絢史	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日

脳神経内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	当院で経験した重症筋無力症の臨床的特徴に関する検討	佐藤萌美	武重万里子、糸見百合子、市川 慶、大村政人、池田昇平、富田 稔、服部直樹	第64回日本神経学会学術大会	6月2日
2	抗AChR抗体の無症候陽性例に対する免疫チェックポイント阻害薬投与の検討	池田昇平	市川 慶、糸見百合子、大村政人、佐藤萌美、武重万里子、加藤 潤、服部直樹	第64回日本神経学会学術大会	6月3日
3	CIDPの各病型と神経病理所見	池田昇平		第64回日本神経学会学術大会	6月1日
4	MALDI-TOF MSを用い起因菌を同定したStreptococcus vestibularis髄膜炎の1例	大村政人		第166回日本神経学会東海北陸地方会	7月29日
5	脊髄症を示唆する症候を呈しランダム皮膚生検で診断した血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の1例	市川 慶	大村政人、佐藤萌美、武重万里子、池田昇平、富田 稔、服部直樹	第166回日本神経学会東海北陸地方会	7月29日

6	頭部MRIにて海馬萎縮と一過性の基底核異常信号を認めた抗LGI1抗体陽性辺縁系脳炎の1例	足立涼輔	市川 慶、大村政人、佐藤萌美、武重万里子、池田昇平、富田 稔、服部直樹	第166回日本神経学会東海北陸地方会	7月29日
7	中心静脈栄養中に進行する視神経障害で発症し、セレン欠乏症による栄養欠乏性視神経症の診断に至った1例	宮澤実里		第41回日本神経治療学会学術集会、品川	11月5日
8	強皮症腎クリーゼが誘因となりPRESを来した1例	松波亜佐子		第41回日本神経治療学会学術集会、品川	11月5日
9	劇症の経過を呈し死亡に至ったStreptococcus intermediusによる多発脳膿瘍の1例	市川 慶	大村政人、佐藤萌美、武重万里子、池田昇平、高橋美江、富田 稔、服部直樹	第167回日本神経学会東海北陸地方会	11月18日
10	呼吸筋麻痺を主症状とし呼吸不全で死亡したTDP43病理を伴う筋萎縮性側索硬化症の1剖検例	加納夏実		第167回日本神経学会東海北陸地方会	11月18日
11	脊椎カリエス術後に交通性水頭症で発症し、イソニアジド髄腔内投与、腰部膿瘍ドレナージ術などの集学的治療で改善を得た結核性髄膜炎の1例	加納夏実		第168回日本神経学会東海北陸地方会	3月9日
12	抗LGI1抗体陽性辺縁系脳炎3例の検討	足立涼輔		第168回日本神経学会東海北陸地方会	3月9日
13	難治性けいれん発作を来し、頭部MRIにて多発脳病変を呈した抗GAD抗体関連脳炎の1例	橋本明香里		第168回日本神経学会東海北陸地方会	3月9日

総合内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	心膜炎を合併した抗ARS症候群の1例	五十嵐達哉	伊藤怜花、山田崇義、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩	第252回日本内科学会東海地方会	2月18日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	渡口賢隆	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日

内科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	Impellaサポート下にLADに対してRotational atherectomyを思考した多肢病変の一例	小林優大	羽賀智明、桐谷元樹、大垣内琢也、井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、暁 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会第48回東海北陸地方会	5月12日
2	診断に苦慮したBRAF遺伝子再構成を認めた組織球肉腫の1例	須川耀祥	平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦	日本内科学会東海支部主催 第251回東海地方会	10月15日
3	長期持続性心房細動に対するアブレーションに際し、Spatiotemporal electrogramが有効であった一例	小林優大	金子鎮二	日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月22日
4	強皮症腎クリーゼが誘因となりposterior reversible encephalopathy syndrome(PRES)を来した1例	松波亜佐子	市川 慶、大村政人、佐藤萌美、武重万里子、池田昇平、高橋美江、富田 稔、服部直樹	第41回日本神経治療学会学術集会	11月5日



5	Cross-modal plasticity after early visual deprivation depends on microglial elimination of inhibitory synapses	橋本明香里		NEUROSCIENCE 2023	11月13日
6	難治性けいれん発作を来たし、頭部MRIにて多発脳病変を呈した抗GAD抗体関連脳炎の1例	橋本明香里	大村政人、市川 慶、佐藤萌美、武重万里子、池田昇平、高橋美江、富田 稔、服部直樹	第168回日本神経学会東海北陸地方会	3月9日

救急科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	豊田厚生病院研修並びに救急医療体制について	吉田健一郎		ERアップデート2023臨床研修プログラム研究会(日本救急医学会)	7月8日
2	心停止が持続していたが、合目的な行動を取った一例	吉田健一郎	竹村元太、中島成隆、西本泰浩	第51回日本救急医学会総会学術集会	11月28日
3	めまいを主訴に救急搬送された症例の検討	西本泰浩	吉田健一郎、竹村元太、中島成隆	第51回日本救急医学会総会学術集会	11月29日
4	めまいを主訴に救急搬送された症例の検討	西本泰浩	吉田健一郎、竹村元太、中島成隆	第51回日本救急医学会学術集会	11月29日
5	当院におけるECPRの現状と今後に向けて	中島成隆	吉田健一郎、竹村元太	第51回日本救急医学会総会学術集会	11月30日
6	近年の救急車台数の増加・「断らない医療」とICU患者の予後の関連	竹村元太	吉田健一郎、中島成隆、西本泰浩、水野敬輔、菅原 元	第51回日本集中治療医学会学術集会	3月14日

形成外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	1症例の2回の外鼻全層欠損に対して、前額皮弁による再建を2回行った経験	川端明子	石塚直太、大和義崇、今井弘恵、茂木公佑、水野玲子	第66回日本形成外科学会総会・学術集会	4月27日

外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	経皮的血管縫合デバイス使用後に総大腿静脈狭窄及び深部静脈血栓症を合併した1例	大澤拓哉	水野敬輔、秋田直宏、等々力広業、藤澤建太、吉川尚吾	第51回日本血管外科学会学術総会	5月31日
2	術前診断が非浸潤性小葉癌であった4例	加藤真由子	久留宮康浩、丹羽多恵、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、浜辺健太、大澤拓哉、等々力広業、秋葉嘉将	第31回日本乳癌学会学術総会	6月29日
3	Distal pancreateosplenectomy for pancreatic cancer following endovascular stenting for superior mesenteric artery stenosis due to atherosclerosis	南 貴之	久留宮康浩、世古口英、菅原 元、井上昌也	第35回日本肝胆膵外科学会学術総会	7月1日
4	当院における術前化学療法を行ったBulky N2と大型3型、4型胃癌症例の検討	久留宮康浩	世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、浜辺健太	第78回日本消化器外科学会総会	7月12日
5	新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる急性虫垂炎緊急手術症例への影響	権田紘丈	加藤健宏、世古口英、菅原 元、井上昌也、南 貴之、杉浦孝太、山口真和、浜辺健太、久留宮康浩	第78回日本消化器外科学会総会	7月14日

6	閉塞性大腸癌に対する、初期治療選択による短期成績・術式選択への影響	山口真和	久留宮康浩、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、権田紘丈、杉浦孝太、浜辺健太	第78回日本消化器外科学会総会	7月18日
7	BRCA遺伝子変異陽性乳癌に対する1次1期乳房再建	久留宮康浩	丹羽多恵、権田紘丈、山口真和、加藤真由子	第20回日本乳癌学会中部地方会	9月2日
8	腹腔内出血で発症した出血性胆嚢炎の1例	菅原 元		第15回日本acute care surgery学会	10月6日
9	当院における括約筋間直腸切除術(ISR)の治療成績	久留宮康浩		第78回日本大腸肛門病学会学術集会	11月11日
10	経腔的後腔壁挙上を併用しロボット支援下直腸切除術を施行した2例	加藤健宏	久留宮康浩、世古口英、山口真和	第78回日本大腸肛門病学会学術集会	11月11日
11	術前化学療法を行った局所進行直腸癌の検討	久留宮康浩		第85回日本臨床外科学会総会	11月16日
12	直腸脱合併例に対するLSC with Ventral Rectopexy の手術手技	加藤健宏		第5回日本骨盤臓器脱手術学会LSCビデオセミナー	11月18日
13	胸部下部食道の突発性食道破裂に対して腹腔鏡アプローチを選択した1例	山口真和	久留宮康浩、世古口英、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、権田紘丈	第36回日本内視鏡外科学会総会	12月8日
14	当科におけるロボット支援下胃切除術の初期成績～腹腔鏡下手術との比較～	井上昌也	久留宮康浩、世古口英、南 貴之、権田紘丈、山口真和	第36回日本内視鏡外科学会総会	12月8日
15	COVID-19パンデミック後の急性虫垂炎症例の検討	権田紘丈	加藤健宏、世古口英、井上昌也、南 貴之、山口真和、久留宮康浩	第37回日本内視鏡外科学会総会	12月8日
16	糞便による閉塞性大腸炎の1例	菅原 元	加藤健宏、南 貴之	第36回日本外感染症学会総会学術集会	12月16日
17	腹腔内再発巣切除を繰り返している脱分化型脂肪肉腫の1例	世古口英	久留宮康浩、水野敬輔、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、秋田直宏	第7回日本サルコーマ治療研究会学術集会	2月10日
18	腹腔鏡下に切除した胃GIST再発の1例	石田航大	久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、南 貴之、権田紘丈、山口真和、中根有登、等々力広菜、加藤真由子、岩田侑也、小池愛理子	第27回愛知内視鏡外科学研究会	2月24日
19	直腸瘤/直腸脱の病態と外科治療	加藤健宏		第17回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会	3月17日
20	加咽頭癌術前に腸管壊死を発症し右半結腸切除後、2期的に根治術を施行した1例	石田航大	山口真和、世古口英、加藤健宏、権田紘丈、藤澤建太、中川竣介	第60回日本腹部救急医学会総会	3月21日

口腔外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	頬部に発生した軟部組織巨細胞腫の1例	河合孝真	兼子隆次、澤木 康	第42回日本口腔腫瘍学会・学術大会	1月25日

呼吸器外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	医学部生・研修医から「選ばれる」外科系科を目指して～「ワークライフマネジメント」推進の提案～	岡阪敏樹	伊藤俊成、石谷紗希	第123回日本外科学会定期学術集会	4月27日



2	診断および術式選択に苦慮した胸腔内多発デスマイド型線維腫症の1例	石谷紗希	岡阪敏樹、伊藤俊成	第123回日本呼吸器学会東海地方会	6月4日
3	膿性心嚢水の胸腔内穿破を伴った化膿性心外膜炎の1例	伊藤俊成	岡阪敏樹、石谷紗希	第40回日本呼吸器外科学会学術総会	7月13日
4	右側胸部痛を契機に発見され、複数回の生検により診断し得た組織球肉腫の一例	伊藤俊成	秋葉嘉将、石谷紗希、岡阪敏樹	第64回日本肺癌学会学術集会	11月3日

産婦人科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	LP併用療法が著効しLynch症候群関連腫瘍と考えられる子宮体癌の教訓的事例	大澤奈央	新保暁子、古井達人、告野絵里 神谷知都世、新城加奈子、針山由美	第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	7月14日
2	当院での腹腔鏡下仙骨脛固定術における治療成績	神谷知都世	大澤奈央、寺沢直浩、堂山 瑠 新保暁子、新城加奈子、針山由美	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	9月15日
3	進行卵巣癌に対する審査腹腔鏡の有用性と課題	新保暁子	大澤奈央、寺沢直浩、堂山 瑠 神谷知都世、新城加奈子、針山由美	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	9月15日
4	緊急腹腔鏡下手術により子宮内膜症が原因と考えられた腹腔内出血の1例	寺沢直浩		第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	9月16日
5	RSCから始めよう	針山由美	田中梨紗子、堂山 瑠、神谷知都世 新保暁子、新城加奈子	第16回日本ロボット外科学会学術集会	2月9日
6	閉経後の子宮内腔高度癒着において細径硬性子宮鏡により細胞診断が可能となった一例	神谷知都世	田中梨紗子、堂山 瑠、新保暁子 新城加奈子、針山由美	第7回日本子宮鏡研究会学術講演会	2月17日
7	RSCから始めよう	針山由美	田中梨紗子、堂山 瑠、神谷知都世 新保暁子、新城加奈子	第17回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会	3月16日
8	前脛壁メッシュと後脛壁縫縮術を併用した腹腔鏡下仙骨脛固定術の治療成績について	神谷知都世	田中梨紗子、堂山 瑠、新保暁子 新城加奈子、針山由美	第17回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会	3月17日

歯科口腔外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	A case of pathological mandibular fracture improved by chemotherapy for multiple myeloma	SAWAKI Tadashi	KANEKORyuji, KAWAITakamasa	Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery	誌上発表
2	口腔外科疾患を有する刑務所受刑者の治療経験	兼子隆次	河合孝真、澤木 廉	Hospital Dentistry & Oral-maxillofacial surgery Vol.35 No.2:115-120 2023	誌上発表
3	当科における上顎洞内異物迷入症例の臨床的検討	伊藤大泰	兼子隆次、河合孝真、澤木 廉	第48回日本口腔外科学会中部支部学術集会	6月4日
4	A study of autopsy cases of oral and maxillofacial malignant tumor	Kaneko Ryuji		25th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery	6月10日
5	当科における上顎洞内異物迷入症例の臨床的検討	伊藤大泰	兼子隆次、河合孝真、澤木 廉	第48回日本口腔外科学会中部支部学術集会	6月4日

6	歯科衛生士学生をめざす学生の喫煙状況、加熱式タバコに対する認識、コチニン指標の受動喫煙と口腔内所見との関係に関する研究	中野瑠稀菜	稲垣幸司、増田麻里、上田裕子 後藤君江、原山裕子、犬塚順子 藤井 稔	第18回日本歯科衛生学会	9月18日
7	認知症を有する口腔癌患者の術後鎮静に対するデクスメトミジンの使用経験	兼子隆次	河合孝真、澤木 廉	第43回日本歯科薬物療法学会	9月22日
8	当科が関わったファブリー病症例	兼子隆次	河合孝真、澤木 廉	第70回日本口腔外科学会 中国四国地方部会	10月7日
9	Numb chin syndromeを初発症状をしたびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 (DLBCL) の3例	河合孝真	兼子隆次、澤木 廉、伊藤大泰 石原拓朗	第68回日本口腔外科学会総会・学術大会	11月10日
10	病的骨折を伴った含菌性嚢胞に対して嚢胞摘出と骨移植を併用した1例	澤木 廉	兼子隆次、河合孝真	第66回NPO法人日本口腔外科学会 中部地方会	10月14日
11	上顎癌の再発・転移に関する臨床的検討	兼子隆次	河合孝真、澤木 廉、伊藤大康 石原拓朗	第72回日本農村医学会学術総会	10月19日
12	頬部に発生した軟部組織巨細胞腫の1例	河合孝真	兼子隆次、澤木 廉	第42回日本口腔腫瘍学会総会	1月25～26日

耳鼻咽喉科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	Grade3,4の突発性難聴に対する高気圧酸素療法 (HBOT) の治療効果の検討と評価	三田直弥	澤部 倫、蒲谷嘉代子、岩崎真一	第33回日本耳科学会総会・学術講演会	11月3日
2	口蓋扁桃摘出後の小児における長期の成長変化についての検討	森 浩紀	有馬菜千枝	第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	11月10日
3	突発性難聴に対する高気圧酸素療法法の付加効果について	三田直弥	澤部 倫、蒲谷嘉代子、岩崎真一	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 第184回東海地方部会連合講演会	12月3日

小児科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	当院における新生児聴覚スクリーニング検査について	梶田光春		第21回三機関合同勉強会	6月8日
2	嘔吐・黒色便で紹介された2例 (バーキットリンパ腫、神経芽腫)	柳澤彩乃	梶田光春、武田将典、生駒雅信	第74回豊田加茂小児科医会例会	7月15日
3	上気道炎の経過中に異常行動を呈した一例 (MRES2型)	柳澤彩乃	梶田光春、武田将典、生駒雅信	第74回豊田加茂小児科医会例会	7月15日
4	眼球の位置異常を認めた1歳女児 (蝶形骨異形成)	柳澤彩乃	梶田光春、武田将典、生駒雅信	第10回尾張東部・豊田小児医療研究会	12月8日
5	乳児期に発達の停止と退行が認められた11か月女児例 (Sandhoff病)	梶田光春		第22回三機関合同勉強会	12月14日
6	発熱持続と全身倦怠感を主訴に受診した9歳男児 (ADEM)	武田将典	柳澤彩乃、生駒雅信、梶田光春	第75回豊田加茂小児科医会例会	2月3日
7	眼の異常で診断に至った2例 (蝶形骨異形成、重症筋無力症)	柳澤彩乃	武田将典、生駒雅信、梶田光春	第75回豊田加茂小児科医会例会	2月3日



講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	第18期アレルギー大学：医学－基礎	中西久美子	アレルギー支援ネットワーク	2023年6月、動画配信
2	食物アレルギー対応研修会 「楽しい集団生活のための食物アレルギーの知識と適切な対応について」	中西久美子	豊田市役所保育課	7月14日
3	アレルギー対応研修会 「学校現場における食物アレルギーの知識と適切な対応について」	中西久美子	豊田市教育委員会 豊田市役所保健給食課	2023年8月、動画配信

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	梶田光春	第74回豊田加茂小児科医会例会	7月15日
2	座長	梶田光春	第118回 東海臨床遺伝・代謝懇話会	3月2日

心臓外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	Outcome of Cryomaze Procedure for Chronic Atrial Fibrillation and Re-Connected Lesions of Recurrent Cases	寺田貴史		Journal of Heart Disorders	誌上発表
2	大腿骨人工骨頭置換術中に発症した肺塞栓症に対して手術を施行し救命した1例	小林明裕	荒木善盛、佐久本一樹、寺田貴史 川口 鎮	第66回関西胸部外科学会学会学術集会	6月8日
3	心臓カテーテル治療合併症に対する緊急手術の検討	寺田貴史	荒木善盛、小林明裕、佐久本一樹 川口 鎮	第66回関西胸部外科学会学会学術集会	6月9日
4	心室ペースメーカーリードにより悪化した三尖弁閉鎖不全症に対し、リード温存で三尖弁置換術を施行した1例	佐久本一樹	荒木善盛、寺田貴史、小林明裕 川口 鎮	第66回関西胸部外科学会学会学術集会	6月9日
5	ハートポジショナーの吸引により右室損傷をきたし、人工心肺使用下に修復を要した1例	小林明裕	荒木善盛、佐久本一樹、寺田貴史 川口 鎮	第27回日本冠動脈外科学会学術大会	7月14日
6	CHARGE症候群に対する心臓手術～ADLの観点から見返す～	野田美香		第76回日本胸部外科学会定期学術集会	10月19日
7	遠位弓部感染性大動脈瘤に対して2度のdebranch TEVARで救命し得た1例	荒木善盛		第61回日本人工臓器学会大会	11月11日

整形外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	TPOをわきまえたEOS治療 －Cast&braceからgrowth friendly surgery 経由 final fusionまで－	辻 太一		第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月13日
2	脳性麻痺側弯症に対する手術治療－当院の現状－	辻 太一	大田恭太郎、館 寛人	第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月13日
3	当院における特発性側弯症の術中出血量について	大田恭太郎	館 寛人、辻 太一	第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月13日

4	当科におけるアバタセプト投与RAにおける完成エコー所見改善効果とPD寛解達成予測因子の検討	金山康秀	服部恭典	第67回日本リウマチ学会学術総会	4月26日
5	患者背景因子の観点から解析した当院におけるサラゾスルファピリジンの治療経過	服部恭典	金山康秀	第67回日本リウマチ学会学術総会	4月26日
6	閉経後骨粗鬆症におけるロモズマブ使用時の骨代謝マーカースの変化と骨密度上昇効果との関連性の検討	服部恭典	金山康秀	第67回日本リウマチ学会学術総会	4月26日
7	成人脊柱変形手術における術中回収式自己血輸血の有用性	辻 太一	大田恭太郎、小見山貴代美、山口佳代、藤本順子、金山康秀	第36回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会	6月16日
8	脳性麻痺側弯症手術における貯血式自己血輸血	辻 太一	大田恭太郎、小見山貴代美、山口佳代、藤本順子、金山康秀	第36回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会	6月16日
9	当科におけるセルトリズマブ投与RAにおける関節エコー所見改善効果と臨床的寛解達成予測因子の検討	金山康秀	服部恭典、前田真崇	日本リウマチ学会中部支部学術集会第34回中部リウマチ学会	9月16日
10	関節リウマチ患者における心血管疾患（CVD）発症リスク因子についての検討	前田真崇	今泉貴広、寺部健哉、服部恭介、金山康秀	日本リウマチ学会中部支部学術集会第34回中部リウマチ学会	9月16日
11	当科における原発性骨粗鬆症に対するロモズマブ投与終了後の逐次療法の治療効果について～24カ月経過例の検討～	金山康秀	辻 太一、二村尚久、服部恭典、前田真崇、高山真央、高山真央、瀧野孝明	第25回日本骨粗鬆症学会	9月29日
12	AICARの細胞内エネルギー代謝変化を介した軟骨保護作用の検討	前田真崇	寺部健哉、金山康秀	第38回日本整形外科学会基礎学術集会	10月19日
13	思春期特発性側弯症（Lenke type5）におけるUIVの設定	大田恭太郎	辻 太一、館寛人	第57回日本側弯症学会学術集会	11月10日
14	JAK阻害剤使用中の関節リウマチ患において白内障手術後眼内炎を発症した一例	高山真央	服部恭典、金山康秀、眼科：山田麻里	第38回日本臨床リウマチ学会	11月18日
15	デノスマブもしくはビスホスホネート製剤からロモズマブに変更した際の治療成績の比較検討	服部恭典	金山康秀、高山真央	第38回日本臨床リウマチ学会	11月18日
16	JAK阻害薬投与症例における関節エコー所見改善効果について～24週経過におけるTNF阻害薬との比較検討～	金山康秀	服部恭典、前田真崇、永田篤志、下竹美由紀、藤田啓介、小山 舞、宇野志保	第38回日本臨床リウマチ学会	11月19日
17	頭蓋頸椎固定症例における呼吸障害出現の小経験	大田恭太郎	辻 太一、館 寛人	第32回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	11月25日
18	人工膝関節全置換術前後における腰椎および大腿骨近位部骨密度変化の検討	服部恭典	金山康秀	第54回日本人工股関節学会	2月23日
19	当科におけるBalicitinib投与RAにおける関節エコー所見改善効果について～TNF製剤との比較検討を含めて～	金山康秀	服部恭典、前田真崇、永田篤志、下竹美由紀、宮地文子、藤田啓介、小山 舞、宇野志保、水野文恵	第67回九州リウマチ学会	3月2日



著書・論文

	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	Evidence of causality of low body mass index on risk of adolescent idiopathic scoliosis: a Mendelian randomization study	Nao Otomo, Anas M Khanshour, Masaru Koido, Kazuki Takeda, Yukihide Momozawa, Michiaki Kubo, Yoichiro Kamatani, John A Herring, Yoji Ogura, Yohei Takahashi, Shohei Minami, Koki Uno, Noriaki Kawakami, Manabu Ito, Tatsuya Sato, Kei Watanabe, Takashi Kaito, Haruhisa Yanagida, Hiroshi Taneichi, Katsumi Harimaya, Yuki Taniguchi, Hideki Shigematsu, Takahiro Iida, Satoru Demura, Ryo Sugawara, Nobuyuki Fujita, Mitsuru Yagi, Eijiro Okada, Naobumi Hosogane, Katsuki Kono, Masaya Nakamura, Kazuhiro Chiba, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Teppei Suzuki, Kotaro Nishida, Kenichiro Kakutani, Taichi Tsuji, Hideki Sudo, Akira Iwata, Satoshi Inami, Carol A Wise, Yuta Kochi, Morio Matsumoto, Shiro Ikegawa, Kota Watanabe, Chikashi Terao	Front Endocrinol(Lausanne) 2023 Jun 20:14:1089414
2	Reasons and risk factors for discontinuation of treatment with any biological disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A long-term observational study	Kenya Terabe, Nobunori Takahashi, Shuji Asai, Yuji Hirano, Yasuhide Kanayama, Yuichiro Yabe, Takeshi Oguchi, Takayoshi Fujibayashi, Hisato Ishikawa, Masahiro Hanabayashi, Yosuke Hattori, Mochihito Suzuki, Kenji Kishimoto, Yoshifumi Ohashi, Takahiro Imaizumi, Shiro Imagama and Toshihisa Kojima	Mod Rheumatol. 2023 Aug 25;33(5):891-898.

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	脳性麻痺側弯症に対する手術治療 - 当院の現状 -	辻 太一	大田恭太郎、館 寛人	第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月13日
2	当院における特発性側弯症の術中出血量について	大田恭太郎	館 寛人、辻 太一	第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月13日
3	患者背景因子の観点から解析した当院におけるサラゾスルファピリジンの治療経過	服部恭典	金山康秀	第67回日本リウマチ学会総会・学術総会	4月26日
4	閉経後骨粗鬆症におけるロモソブマブ使用時の骨代謝マーカーの変化と骨密度上昇効果との関連性の検討	服部恭典	金山康秀	第67回日本リウマチ学会総会・学術総会	4月26日
5	当科におけるアバタセプト投与RAにおける関節エコー所見改善効果とPD寛解達成予測因子の検討	金山康秀	服部恭典	第67回日本リウマチ学会総会・学術総会	4月26日

6	当科における原発性骨粗鬆症に対するロモソズマブ投与終了後の逐次療法の治療成績～24ヶ月経過例の検討～	金山康秀	辻 太一、二村尚久、大田恭太郎 服部恭典、足立 維、館 寛人 渡部 拓、前田健登	第96回日本整形外科学会学術総会	5月11日
7	成人脊柱変形手術における術中回収式自己血輸血の有用性	辻 太一	大田恭太郎、小見山貴代美、泉あかね 山口佳代、藤本順子、木村有里 金山康秀	第36回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会	6月16日
8	脳性麻痺側弯症手術における貯血式自己血輸血	辻 太一	大田恭太郎、小見山貴代美、泉あかね 山口佳代、藤本順子、木村有里 金山康秀	第36回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会	6月16日
9	当科におけるセルトリズマブ投与RAにおける関節エコー所見改善効果と寛解達成予測因子の検討	金山康秀	服部恭典、前田真崇	第34回中部リウマチ学会	9月16日
10	関節リウマチ患者における心血管疾患（CVD）発症のリスク因子についての検討	前田真崇	泉 貴広、寺部健哉、佐藤 良 服部恭介、金山康秀	第34回中部リウマチ学会	9月16日
11	側弯症の基本と治療の実際-当院の取り組み-	辻 太一		名古屋大学整形外科グランドカンファレンス	9月21日
12	医療安全対策について	金山康秀		名古屋大学整形外科グランドカンファレンス	9月21日
13	当科における原発性骨粗鬆症に対するロモソズマブ投与終了後の逐次療法の治療効果について～24ヶ月経過例における検討～	金山康秀	辻 太一、二村尚久、大田恭太郎 服部恭典、前田真崇、館 寛人 高山真央、瀧野孝明	第25回日本骨粗鬆症学会	9月29日
14	閉経後骨粗鬆症患者に対するロモソズマブ使用時の骨代謝マーカーの変化と骨密度上昇効果との関連性の検討	服部恭典	金山康秀	第25回日本骨粗鬆症学会	10月1日
15	AICARの細胞内エネルギー代謝変化を介した軟骨保護作用の検討	前田真崇	寺部健哉、金山康秀	第38回日本整形外科学会基礎学術集会	10月19日
16	思春期特発性側弯症（Lenketype5)におけるUIVの設定	大田恭太郎	館 寛人、辻 太一	第57回日本側弯症学会学術集会	11月10日
17	JAK阻害剤使用中の関節リウマチ患者において白内障手術後眼内炎を発症した一例	高山真央	服部恭典、金山康秀	第38回日本臨床リウマチ学会	11月18日
18	デノスマブもしくはビスホスホネート製剤からロモソズマブに変更した際の治療成績の比較検討	服部恭典	高山真央、金山康秀	第38回日本臨床リウマチ学会	11月18日
19	JAK阻害薬投与症例における関節エコー所見改善効果について～24週経過例におけるTNF阻害薬との比較検討～	金山康秀	服部恭輔、前田真崇、高山真央 永田篤志、下竹美由紀、宮地文子 藤田啓介、小山 舞、宇野志保	第38回日本臨床リウマチ学会	11月19日
20	頭蓋頸椎固定症例における呼吸障害出現の小経験	大田恭太郎	館 寛人、辻 太一	第32回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	11月25日
21	骨盤内ガーゼオーマの1例	瀧野孝明	辻 太一、二村尚久、大田恭太郎 服部恭典、前田真崇、館 寛人 高山真央、金山康秀	第261回整形外科集談会東海地方会	12月9日
22	人工膝関節全置換術前後における腰椎および大腿骨近位部骨密度変化の検討	服部恭典	前田真崇、金山康秀	第54回日本人工関節学会	2月23日
23	当科におけるBaricitinib投与RAにおける関節エコー所見改善効果について～TNF製剤との比較検討を含めて～	金山康秀	服部恭輔、前田真崇、永田篤志 下竹美由紀、宮地文子、藤田啓介 小山 舞、宇野志保、	第67回九州リウマチ学会	3月2日



講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	関節リウマチ治療におけるバリシチニブの可能性	金山康秀	Lilly JAK Online Seminar	5月16日
2	当院における腰部脊柱管狭窄症の手術治療について～術前外来から退院後経過観察まで～	大田恭太郎	地域で支える脊椎脊髄疾患治療連携セミナー	6月1日
3	関節リウマチ治療におけるバリシチニブの可能性	金山康秀	埼玉 関節と免疫を考える会 on Web	6月7日
4	強直性脊椎炎の病態と診断・治療について	金山康秀	ノバルティス社内講演会	6月16日
5	IL-6阻害薬の関節エコー所見改善効果について	金山康秀	MIKAWA IL-6 SEMINAR	6月17日
6	RA治療における薬剤選択 DMARDsからBIO導入TNF製剤の使い分け	金山康秀	あゆみ製薬社内講演会	7月7日
7	関節リウマチ治療におけるフィルゴチニブの可能性	金山康秀	関節リウマチを考える会 in 愛知	7月12日
8	骨粗鬆症治療と地域連携（2次骨折予防も含めて）の重要性について	金山康秀	第2回豊田加茂地域連携フォーラム	7月27日
9	自己抗体（ACPA）と関節リウマチーアバタセプトの可能性ー	金山康秀	オレンシアWEBライブセミナー	8月23日
10	実臨床における骨粗鬆症治療薬の適正使用と二次骨折予防の重要性について	金山康秀	第1回静岡県西部医科歯科連携の会	9月4日
11	脆弱性骨折に対する一次及び二次予防へのアプローチ	服部恭典	整形外科疾患 Total Care Seminar	9月14日
12	関節リウマチ治療におけるバリシチニブの可能性	金山康秀	第4回秋田リウマチ治療トピックスセミナー	9月19日
13	certolizumab pegolその特性と位置付け	金山康秀	Tokai RA expert seminar ～RA 診療の変遷と未来～	9月23日
14	関節リウマチ合併骨粗鬆症治療について	金山康秀	ひいらぎ神経障害性疼痛セミナー in Okazaki	10月5日
15	関節リウマチ治療におけるTNF阻害薬の意義、次世代抗体オゾラリズムマブへの期待	金山康秀	TAISHO関節リウマチWEBセミナー	10月19日
16	関節リウマチ治療におけるフィルゴチニブの役割	金山康秀	愛知リウマチ診療セミナー	11月9日
17	JAK阻害薬の関節エコー所見改善効果について	金山康秀	関節リウマチ診療セミナー in 京都・愛知	11月10日
18	関節リウマチに対する最新の薬物治療	金山康秀	第636回岡崎薬剤師会 薬局研修会	11月15日
19	関節リウマチ治療におけるTNF阻害薬の意義、オゾラリズムマブへの期待	金山康秀	大正製薬社内講演会	11月24日
20	certolizumab pegol その特性と位置付け	金山康秀	関節リウマチWEBシンポジウム	11月28日
21	骨粗鬆症における治療目標達成のための積極的薬物介入のエビデンス	服部恭輔	豊田加茂整形外科医会 学術講演会	11月30日

22	certolizumab pegolその特性と位置付け	金山康秀	関節リウマチExpert seminar	12月16日
23	自己抗体陽性RA患者に対するアバタセプトの活かしどころについて～自験例における関節エコー所見改善効果の検討を含めて～	金山康秀	第11回東京リウマチ登録医の会	1月26日
24	脊椎外科外来診療の実際とジクトルテープの関わり	辻 太一	ジクトルテープ75mg効能追加1周年記念講演会 in 愛知	1月27日
25	脆弱性骨折に対する一次予防および二次予防へのアプローチ	服部恭輔	三整会	2月27日
26	関節リウマチ治療におけるTNF阻害薬の意義と各製剤特性について	金山康秀	田辺三菱製薬社内講演会	3月7日
27	関節リウマチ治療におけるバリシチニブの可能性	金山康秀	RA Expert Web Conference	3月8日
28	骨粗鬆症の診断と最新の治療について～2次骨折予防の重要性～	金山康秀	第37回ばんだね病院健康講座	3月11日
29	関節リウマチ診療における関節エコー活用の取り組みと有用性について	金山康秀	Rheumatoid Arthritis ResearchSeminar	3月23日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	金山康秀	第17回三河骨粗鬆症研究会	4月8日
2	座長	金山康秀	メトジェクト皮下注 インターネットライブセミナーin 東海	4月12日
3	座長	金山康秀	リウマチ診療セミナー in 東海	5月18日
4	座長	金山康秀	第13回三河地区トシリズマブ研究会	5月27日
5	総合座長	辻 太一	地域で支える脊椎脊髄疾患治療連携セミナー	6月1日
6	座長	金山康秀	RAセミナー in 愛知	6月22日
7	座長	金山康秀	UCB PsA WEB Seminar	6月24日
8	座長・司会	金山康秀	地域での二次骨折予防を考える会 in 愛知	6月28日
9	座長	金山康秀	三河メディカル研究会	7月1日
10	座長	金山康秀	豊田骨粗鬆症セミナー	8月30日
11	総合座長	辻 太一	地域で支える脊椎脊髄疾患治療連携セミナー	8月31日
12	座長	金山康秀	愛知県リウマチ治療セミナー	9月1日
13	座長	金山康秀	整形外科疾患 Total Care Seminar	9月14日
14	座長	金山康秀	JAK阻害薬 Safety Update セミナー ～より安全な医療をめざして～	10月11日
15	司会	金山康秀	第10回愛知DMARDs研究会	10月14日
16	座長	金山康秀	RA診療セミナーin東海	10月18日
17	座長	金山康秀	第7回三河OLS研究会	10月28日
18	総合座長	金山康秀	リウマチ合併症セミナー	11月8日
19	座長	金山康秀	第18回三河骨粗鬆症研究会	11月25日
20	総合座長	金山康秀	第9回三河関節エコー研究会	12月2日



21	座長	金山康秀	メトジェクト皮下注 インターネットライブセミナー in 東海	12月7日
22	座長	金山康秀	Arthritis Total Management Webinar	1月19日
23	座長	辻 太一	5th Anniversary Web Seminar ~LDH treatment Historical story~	2月6日
24	座長	金山康秀	TNF阻害薬を再考する ~RFが提起する新たな課題~	2月8日
25	座長	金山康秀	東海リウマチ診療セミナー	2月9日
26	座長	金山康秀	三河脊椎関節炎フォーラム2024	2月10日
27	座長	金山康秀	IL-6 RA Meeting in 三河 5th	2月16日
28	司会	金山康秀	第9回RA-BETTER WEB研究会	2月17日
29	座長	金山康秀	三整会	2月27日
30	座長	金山康秀	ASAHI IL-6 Seminar	3月9日
31	座長	金山康秀	BONE RESEARCH FORUM in OSAKA	3月22日

脳神経外科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	破裂内頸動脈-重複中大脳動脈瘤に対し開頭クリッピング術を施行した一例	額額雄太	住友正樹、河村彰乃、野平翔太、後藤智哉、立花栄二	第103回日本脳神経外科学会中部支部学術集会	4月8日
2	テント上破裂脳動脈瘤手術のクリップアプライ中に一過性の心停止を来した一例	額額雄太	住友正樹、河村彰乃、後藤智哉、安藤祐人、立花栄二	第104回日本脳神経外科学会中部支部学術集会	9月16日
3	脳回転状皮膚が疑われた1例	石塚直太	川端明子、大和義崇、住友正樹	第79回東海形成外科学会	10月14日

泌尿器科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	泌尿器科専門医のための模擬テスト34	宇佐美雅之		科学評論社「泌尿器科」	誌上発表
2	泌尿器科専門医のための模擬テスト34 -解答と解説-	宇佐美雅之		科学評論社「泌尿器科」	誌上発表
3	術後腸閉塞と放射線治療後出血性膀胱炎に対する高圧酸素治療の有用性	東 凌平	宇佐美雅之、名里瑛美、海野奈央子、小林大地、橋本良博、岩瀬 豊、安井孝周	第110回日本泌尿器科学会総会	4月22日
4	カバジタキセルが長期奏功している去勢抵抗性前立腺癌の一例	橋本良博		第71回日本化学療法学会西日本支部総会	11月10日

麻酔科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	がん疼痛および腰椎椎間板ヘルニア併発患者の腰背部痛の鑑別に硬膜外ブロックが有用であった1症例	小島康裕	村松雅人	第28回日本緩和医療学会学術大会	6月30日~7月1日
2	スチール症候群の虚血症状に星状神経節近傍照射とブプレノルフィンが有効であった症例	酒井博生	川口大地、小島康裕	日本ペインクリニック学会第57回学術集会	7月14日

3	耳下腺術後唾液瘻に対して超音波ガイド下耳介側頭神経ブロックが有効と考えられた一例	川口大地	酒井博生、小島康裕	日本ペインクリニック学会第57回学術集会	7月14日
4	環軸椎亜脱臼の有するダウン症小児患者におけるエアウェイスコープを用いた気管挿管の一症例	佐々木和磨	岩 倫、上原博和	日本麻酔科学会東海北陸支部第21回学術集会	9月2日
5	高度気道狭窄を伴う甲状腺腫瘍に対してV-V ECMO使用を考慮した二例	溝口瑛心	小島康裕、上甲利南、川口大地、上原博和	日本麻酔科学会東海北陸支部第21回学術集会	9月2日
6	破裂脳動脈瘤クリッピング術中に心静止をきたした1例	丸山航平	伊藤直人、岩 倫、上原博和	日本麻酔科学会東海北陸支部第21回学術集会	9月2日

眼科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	Retinal microvasculature changes after intravitreal triamcinolone acetonide in diabetic macular edema	Fusae Kato	Miho Nozaki、Aki Kato、Tsutomu Yasukawa	J Clin Med	誌上発表
2	糖尿病眼合併症に対する外科的治療のPitfalls-安全、確実な手術のための注意点-糖尿病網膜症、黄斑浮腫に対するレーザー治療	加藤房枝		第29回日本糖尿病眼学会総会	6月30日
3	増殖糖尿病網膜症に対する27ゲージ硝子体手術の治療成績と合併症の検討	北條貴広	平野佳男、湯口貴彬、木村雅代、森田 裕、安川 力	第29回日本糖尿病眼学会総会	6月30日
4	白内障術後の前房内異物により角膜内皮障害をきたした2例	杉山寛明	北條貴広、高野千夏、加藤房枝、山田麻里	令和5年度名古屋市立大学眼科同窓会学会	10月1日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	山田 麻里	Chugai Retina Conference in 西三河	12月7日

医師臨床研修科

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	腓十二指腸動脈瘤に対して血管内治療を行った2例	藤澤建太	水野敬輔、秋田直宏、大澤拓哉等々力広業、吉川尚吾	第51回日本血管外科学会学術総会	5月31日
2	下大静脈再建を要した下大静脈原発平滑筋肉腫の1例	吉川尚吾	水野敬輔、秋田直宏、大澤拓哉等々力広業	第51回日本血管外科学会学術総会	5月31日
3	菌性感染症を有する患者に生じた化膿性咀嚼筋炎の1例	松山怜奈	伊藤怜花、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩	第250回日本内科学会東海地方会	6月25日
4	R-miniCHP療法の忍容性および有効性・単施設後方的検討	鈴木杏奈	原田靖彦	第85回日本血液学会学術集会	10月13~15日
5	コロナワクチン接種を契機として発症し、血液透析で改善したメトホルミン関連乳酸アシドーシスの1例	加納夏実	渡邊絢史、山田拓弥、斉藤絢恵、神田亜希子、吉岡知輝、倉田久嗣	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日
6	腸球菌菌血症に伴う腰椎椎間板炎を契機に大腸癌を診断した1例	牧野良祐	伊藤怜花、山田崇義、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩	第251回日本内科学会東海地方会	10月15日



7	Stanford A型急性大動脈解離の周術期にLMT-LADの偽腔形成による急性心筋梗塞を発症した一例	高橋泰樹	羽賀智明、桐谷元樹、大垣内琢也 岡本峻幸、早川 輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀 仁美、中込敏文 暁 陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典 (心臓外科) 佐久本一樹、小林明裕、野田美香 川口 鎮、荒木善盛	日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会	10月21日
8	中心静脈栄養中に進行する視神経障害で発症し、セレン欠乏症による栄養欠乏性視神経症の診断に至った一例	宮澤実里	池田昇平、足立涼輔、市川 慶 大村政人、佐藤萌美、武重万里子 富田 稔、服部直樹	第41回日本神経治療学会学術集会	11月5日
9	RCAの巨大血栓を伴う亜急性心筋梗塞に対して、血栓吸引が有効であった一例	上手万里	羽賀智明、大垣内琢也、桐谷元樹 岡本峻幸、早川 輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀 仁美、中込敏文 暁 陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療第49回東海北陸地方会	11月10日
10	Stanford A型急性大動脈解離の周術期に発症したLMT-LADの偽腔形成による急性心筋梗塞に対してprimary PCIを施行した一例	高橋泰樹	羽賀智明、桐谷元樹、大垣内琢也 岡本峻幸、早川 輝、櫻井礼子 佐橋智博、堀 仁美、中込敏文 暁 陽祐、藤田雅也、大橋大器 窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療第49回東海北陸地方会	11月10日
11	呼吸筋麻痺を主症状とし呼吸不全で死亡したTDP43病理を伴う筋萎縮性側索硬化症の1剖検例	加納夏実	池田昇平、市川 慶、大村政人 高橋美江、富田 稔、服部直樹 (愛知医科大学) 陸 雄一、岩崎 靖	第167回日本神経学会東海北陸地方会	11月18日
12	神経線維腫症 I 型併存血胸に対し止血術を施行した一例	市野貴弘	石谷紗希、秋葉嘉将、伊藤俊成 岡阪敏樹	第61回愛知臨床外科学会	2月11日
13	心膜炎を合併した抗ARS症候群の1例	五十嵐達哉	伊藤怜花、加藤誓子、渡口賢隆 西本泰浩、山田崇義	第252回日本内科学会東海地方会	2月18日
14	抗LGI1抗体陽性辺縁系脳炎3例の検討	足立涼輔	大村政人、市川 慶、佐藤萌美 武重万里子、池田昇平、高橋美江 富田 稔、服部直樹	第168回日本神経学会東海北陸地方会	3月9日
15	小児期に外傷再建歴があり膈狭窄と両側卵管留膿腫による直腸瘻を生じた一例	前野有美	田中梨紗子、堂山 瑤、新保暁子 新城加奈子、針山由美、神谷知都世	第144回東海産婦人科学会	3月10日
16	折れた六角レンチによる鋭的肝損傷の1例	中川竣介	山口真和、世古口英、加藤健宏 権田紘丈、石田航大、藤澤建太 古井 香	第60回日本腹部救急医学学会総会	3月21日

診療放射線室

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	循環器領域における皮膚障害リスクのある患者への対応について被ばく線量管理システムを利用した当院の運用	村山和宏		CVIT2023	8月5日
2	冠動脈CT検査における最新のモーションアーチファクト補正技術(Cardio Stillshot)の有用性	柴田英樹	小寺直人、暁 陽祐、窪田龍二 小澤 功	Medix Focus (web公開のみ)	WEB発表
3	VISUAL EVALUATION OF CORONARY CT IMAGES USING LATEST MOTION ARTIFACT CORRECTION TECHNIQUE	柴田英樹	HKosuke Matsubara, Naoto Kotera, Yosuke Tatami, Ryuji Kubota, Ryo Yoshida, Ryosuke Tsuchida, Isao Kozawa	24th Asia-Australasia Conference of Radiological Technologists (AACRT)	8月11日

4	心臓CTにおける動態ファントムを用いたmotion correction reconstructionと血管移動速度の関係性について	柴田英樹	村瀬貴之、小原亮太、吉田 亮功 瓜倉厚志、松原孝祐、小澤 功	第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	10月27日
5	脊椎後方固定手術における放射線被ばくについて	鈴木孝規		令和5年度第1回西三地区会研修会	9月14日
6	当院における被ばく線量管理の現状～DoseManager導入後の変更点～	岡本昂樹	村山和宏、小林晋也、黒瀬颯太	第49回日本心血管インターベンション治療学会	11月10日
7	安城更生病院における静脈路確保の取り組み	椿原隆寿		第15回中部放射線医療技術学術大会	11月26日
8	JA愛知厚生連における人財育成教育プロジェクト活動について	椿原隆寿		第10回厚生連放射線科医療機器ライフサイクルコスト会議	11月29日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	O-arm等 術中放射線被ばくについて	鈴木孝規	第20回日本側弯症学会 研修セミナーアドバンスコース	7月1日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	柴田英輝	第79回日本放射線技術学会総会学術大会	4月13日
2	会長	深田真司	愛知県診療放射線技師会西三地区会	4月1日～
3	座長	深田真司	愛知県診療放射線技師会第1回研修会	5月13日
4	司会	深田真司	愛知県診療放射線技師会第33回診療放射線技師フォーラム	11月16日
5	司会	深田真司	第34回東三河CT研究会	1月13日
6	司会	深田真司	愛知県診療放射線技師会学術大会	3月17日

臨床検査室

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	血液培養よりMycobacteroides abscessus complexが検出された一例	加藤雄大	松本美咲、杉山裕衣、松久保修 永田悠起、木村有里、田中浩一	第72回日本医学検査学会	5月20日
2	トレッドミル運動負荷試験にて迷走神経反射を疑った1例	高本智史	牧野恭子、高橋礼子、藤田啓介 宮地文子、下竹美由紀、田中浩一	第72回日本医学検査学会	5月20日
3	貯血式自己輸血における臨床検査技師としての取り組み	木村有里	辻 太一、太田恭太郎、小見山貴代 泉あかね、山口佳代、金山康秀	第36回日本自己血輸血・周術期輸血学会学術総会	6月17日
4	JA愛知厚生連就職websセミナーを企画しての効果	梅村美穂	加藤雄大、桂川陽平、和田裕司 宮地文子、田中浩一	第22回愛知県医学検査学会	7月2日
5	胸腔内洗浄液のフローサイトメトリー検査が再発診断に繋がった形質細胞腫の一例	酒巻尚子	藤上卓馬、蒲澤康晃、田中浩一 原田靖彦	第22回日本検査血液学会学術集会	7月30日
6	当院において胆汁細胞診より検出されたランブル鞭毛虫の一例	齊間香奈	中島孝輔、榊原達朗、鈴木康太 藤井優子、黒木雅子、木村有里 田中浩一	第22回愛知県医学検査学会	7月2日

7	生理検査における患者急変訓練	福井紅葉	高本智史、藤田啓介、宮地文子 高橋礼子、下竹美由紀、田中浩一	第22回愛知県医学検査学会	7月2日
8	当院における新型コロナウイルス感染症の検査体制と臨床支援	坪崎由夏	窄中美帆、伊藤彰洋、永田篤志 田中浩一	第22回愛知県医学検査学会	7月2日
9	当院の血液培養検査における第3世代セファロスポリン系薬耐性菌の迅速報告体制と臨床的有用性	永田 悠起	酒井幹康、駒井博子、渡口賢隆 田中浩一、木村有里、松久保修 杉山裕衣、横山美咲、浅井梨乃 川端 厚	第72巻5号 日本農村医学会雑誌	誌上発表
10	当院臨床検査室におけるタスク・シフト/シェアに向けた取り組み	高本 智史	藤田啓介、高橋礼子、宮地文子 下竹美由紀、田中浩一	第72回日本農村医学会学術総会	10月20日
11	愛知県豊田加茂地域における感染対策地域連携体制	永田 悠起	駒井博子、木村有里、松久保修 杉山裕衣、横山美咲、浅井梨乃 田中浩一	第72回日本農村医学会学術総会	10月20日
12	当院におけるがん関連遺伝子検査の品質向上への取り組み	榊原達朗	中島孝輔、齊間香奈、加藤雄大 藤井優子、黒木雅子、木村有里 田中浩一	第72回日本農村医学会学術総会	10月20日
13	Streptococcus agalactiae 菌血症の臨床的特徴の解析	加藤雄大	松本美咲、杉山裕衣、松久保修 永田悠起、木村有里、田中浩一	第72巻4号 医学検査	誌上発表
14	当院側彎症手術における最終波形と述語麻痺の関係	林 健太	高本智史、棉本友香、近藤 香 井元悠太	第53回日本臨床神経生理学会学術大会	12月1日
15	次世代を担う若手技師のスキルアップへの取り組み	加藤雄大		令和5年度中部圏支部医学検査学会	12月2日
16	当院におけるCorynebacterium属血液培養陽性例の後方視的検討	加藤雄大		第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2月9日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会 輸血検査	松崎有希奈	厚生連臨床検査技師会	5月28日
2	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会 生化学検査	坪崎由夏	厚生連臨床検査技師会	5月28日
3	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会 血液検査	梅村美穂	厚生連臨床検査技師会	5月28日
4	2023年度臨床検査部会オンラインセミナーVol1	宮地文子	公益社団法人 全国自治体病院協議会	6月14日
5	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会 輸血検査の解説	松崎有希奈	厚生連臨床検査技師会	6月17日
6	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会 生化学検査の解説	坪崎由夏	厚生連臨床検査技師会	6月17日
7	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会 血液検査の解説	梅村美穂	厚生連臨床検査技師会	6月17日
8	Pro/Conセッション どうする血液培養の夜間対応 陽性ボトルの塗沫判定・結果報告 報告するvs報告しない	加藤雄大	日本バクトン・ディッキンソン株式会社	6月24日
9	愛臨技微生物検査研究班研究会 頻出菌を学びなおす Klebsiella pneumoniae 同定と感受性	加藤雄大	愛知県臨床検査技師会	7月1日
10	第20回日本側弯症学会研修会セミナー ～当院における術中脊髄モニタリングの取り組み～	林 健太	日本側弯症学会	7月1日～7月2日

11	超音波造影業務におけるタスク・シフト/シェア	宮地文子	公益社団法人 全国自治体病院協議会	7月1日～10月31日
12	第38回日本神経生理検査研究会中部支部研修会 ～神経伝導検査の基礎～基礎を学んで明日から活かそう～	高本智史	日本神経生理検査研究会	9月30日
13	第9回三河関節エコー研究会	宮地文子	三河関節エコー研究会・アステラス製薬株式会社	12月1日
14	血液検査班基礎講座 末梢血液標本の見方	蒲澤康晃	愛知県臨床検査技師会	1月21日
15	令和5年度愛臨技スキルアップ研修会「続！高齢者領域の検査解釈」R-CPC	藤田啓介	愛知県臨床検査技師会	1月28日
16	令和5年度愛臨技精度管理調査報告会 血液検査研究班	藤上卓馬	愛知県臨床検査技師会	2月10日
17	令和5年度愛臨技精度管理調査報告会 血液検査部門	藤上卓馬	愛知県臨床検査技師会	3月10日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	司会	加藤雄大	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 WEB講習会	5月28日
2	司会	加藤雄大	厚生連8病院 緊急臨床検査士育成支援 模擬試験	6月17日

リハビリテーション室

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	医師主体から多職種チーム主体の心不全地域医療連携を目指して	松沢 匠	窪田龍二、牧知香子、中根麻貴、北平美紅、長谷川麻紀、加藤恭平、足立大典	第27回日本心不全学会学術集会	10月6日
2	近年の当院におけるWallenberg症候群患者の傾向	萩野周作	池田昇平、渡口賢隆	第29回摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	9月3日
3	外来透析患者に対する透析中の運動療法における当院での取り組みと効果	山口梨恵	舟橋宏樹、畑 康夫、酒出篤弥、松田奈美、鈴木歩美、千々岩尚子、倉田久嗣	第72回農村医学会学術大会	10月20日

臨床工学室

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	左心室起源のPVCに対するアブレーション中にST上昇を来した一例	遠藤泉樹	篠田政典、窪田龍二、兵藤好行、沖島正博、酒出篤弥、辻川圭亮、西山和芳	第48回 CVIT 東海北陸地方会	5月12日
2	当院における高気圧酸素療法の変遷～第1種装置の2台運用による効果～	谷川祐樹	兵藤好行、沖島正幸、酒出篤弥、西山和芳	愛知県臨床工学技士会第18回学術大会	6月4日
3	腹水濾過濃縮再静注法（CART）における患者認証システムの導入	谷 亮太	菅 森歩、佐野公俊、酒出篤弥、沖島正幸、兵藤好行、松崎友希奈、松井貴弘、熊谷美希、木村有里	第68回日本透析医学会学術集会・総会	6月16日
4	災害 市街時における地域連携強化の取り組み	佐野公俊	兵藤好行、沖島正幸、酒出篤弥、岩屋奈央子、近藤紀暁	第68回日本透析医学会学術集会・総会	6月16日



5	院内独自のワークシートを用いて SyncAV Plus設定を効率的に	辻川圭亮	金子鎮二、中込敏文、藤田雅也	第69回日本不整脈心電学会学術大会	7月8日
6	高気圧件数増加のための一案～今後の当院の将来を見据えて～	西山和芳	谷川裕樹、兵藤好行	第4回日本高気圧環境・潜水医学会東海北陸地方会	7月8日
7	Open ICU専任CEにおける呼吸療法業務の展望	沖島正幸	兵藤好行、小川正博、酒出篤弥 辻川圭亮、近藤浩史、西山和芳 斎藤委住、谷亮太	第33回日本臨床工学会	7月21日
8	経営者の違いによって生じる医療機器更新時の方針と機器管理者のジレンマ	沖島正幸	兵藤好行、小川正博、酒出篤弥 辻川圭亮、近藤浩史、西山和芳 斎藤委住、谷亮太	第33回日本臨床工学会	7月22日
9	左心室起源のアブレーション中に発生した冠動脈解離腔の特徴的なIVUS画像とその発生機序についての考察	遠藤泉樹	窪田龍二、辻川圭亮、酒出篤弥 小川正博、沖島正幸、兵藤好行 羽賀智明、豊陽祐、篠田政典	第31回日本心血管インターベンション治療学会CVIT2023学術集会	8月4日
10	当院ICUにおける呼吸療法領域の理想と現実	沖島正幸	シンポジスト	第45回日本呼吸療法医学会学術集会	8月5日
11	高気圧酸素療法を併用した脊椎炎に対する過去3年間の治療成績	西山和芳	谷川裕樹、兵藤好行	第57回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会	9月22日
12	当院におけるda Vinci業務の導入	澤田知広	兵藤好行、沖島正幸、小川正博 酒出篤弥、辻川圭亮、西山和芳 近藤浩史、谷亮太、斎藤委住	第72回日本農村医学会学術総会	10月19日
13	臨床工学技士のタスクシフト・シェアに関する当院の考察	沖島正幸	兵藤好行、小川正博、酒出篤弥 辻川圭亮、近藤浩史、西山和芳 斎藤委住、谷亮太、遠藤泉樹 澤田知広、佐野公俊、日焼功貴 菅森歩、手嶋優貴、谷川祐樹 前田優作、市川愛梨、増元聖真	第72回日本農村医学会学術総会	10月20日
14	心カテ業務独り立ちへの道	前田優作	辻川圭亮、三宅真咲、手嶋優貴 日焼功貴、遠藤泉樹、羽賀智明 豊陽祐、窪田龍二、篠田政典	第49回日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会	11月10日
15	OCT撮像時にPush法にて血球除去不良が見られたがDITにて良質な画像が得られた症例の検討	遠藤泉樹	篠田政典、窪田龍二、兵藤好行 沖島正幸、小川正博、酒出篤弥 辻川圭亮、西山和芳	第49回日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会	11月10日
16	OCTを用いて画像診断に至った急性冠動脈症候群の1例	手嶋優貴	篠田政典、窪田龍二、豊陽祐 羽賀智明、沖島正幸、小川正博 酒出篤弥、辻川圭亮、遠藤泉樹 前田優作	第49回日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会	11月11日
17	Omnipolar Technologyにて心房頻拍の起源が特定され奏功した一例	辻川圭亮	金子鎮二、中込敏文、藤田雅也	日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋期大会2023	11月18日
18	アブレーション業務における教育の効率化	日焼功貴	辻川圭亮、中込敏文、藤田雅也 金子鎮二	日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋期大会2023	11月18日
19	FRGalantai社製クリーニングブラシPULLTHRU2の使用経験	西山和芳	寄稿	機関誌 ABIS 雑誌「WALK ON」	12月掲載
20	SyncAV CRTの有用性について (Abbott社)	辻川圭亮	寄稿	Abbott 機関誌	1月掲載
21	当院における手術関連映像システムについて語り合う	澤田知広	パネリスト	第46回日本体外循環技術医学会東海地方学術大会	1月28日

22	Closed Loop Stimulationが心房細動発生を抑制する可能性	辻川圭亮	金子鎮二、中込敏文、藤田雅也 西山和芳、酒出篤弥、小川正博 沖島正幸、兵藤好行	第16回植込みデバイス 関連冬季大会	2月10日
23	集中治療領域での臨床工学技士の呼吸療法教育	沖島正幸	澤田知広、谷 亮太、斎藤委住 中島成隆、竹村元太、中田 陸	第51回日本集中治療医学 学会学術集会	3月14日
24	集中治療室における臨床工学技士のPOCUS介入について	谷 亮太	澤田知広、斎藤委住、沖島正幸 中島成隆、竹村元太、中田 陸	第51回日本集中治療医学 学会学術集会	3月14日
25	臨床工学技士の観点からPICS環境因子を考察する	斎藤委住	澤田知広、谷 亮太、沖島正幸 中島成隆、竹村元太、中田 陸	第51回日本集中治療医学 学会学術集会	3月14日
26	Abbott社製SecureSense機能により不適切動作を回避した一例	辻川圭亮	金子鎮二、中込敏文、藤田雅也 西山和芳、酒出篤弥、小川正博 沖島正幸、兵藤好行	第4回日本不整脈心電 学会 東海北陸支部地 方会	3月23日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	自己血回収装置、術中管理 セミナーアドバンスコース	近藤浩史	日本側弯症学会	7月1～2日
2	自発呼吸試験 (SBT) ハンズオン	沖島正幸	日本臨床工学会	7月21日
3	周術期における人工呼吸管理	沖島正幸	日本集中治療医学会東海地方会CEセミナー	9月23日
4	豊田厚生会のCART	谷 亮太	タカトリ CARTセミナー	9月27日
5	自発呼吸試験 (SBT) の関わり	沖島正幸	福井県臨床工学技士会呼吸療法セミナー	11月7日
6	旭化成メディカルと豊田厚生病院の輪	酒出篤弥	旭化成メディカル社内講演会	2月15日
7	当院のペースメーカー外来について	辻川圭亮	日本文化連 臨床工学部会	3月15日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	世話人	兵藤好行	第4回日本高気圧環境潜水医学会 東海北陸地方会	7月8日
2	座長	兵藤好行	第4回日本高気圧環境潜水医学会 東海北陸地方会	7月8日
3	座長	辻川圭亮	東海テクニカルセミナー2023	7月29日
4	座長	沖島正幸	第23回中部臨床工学会	10月28日
5	コメンテーター	辻川圭亮	AbbottコメディカルWebセミナー	12月11日

栄養管理室

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	誰も教えてくれなかった看取りの栄養ケア	森 茂雄		ニュートリションケア	誌上発表
2	ケアラージティースプーン導入による食具の共有化～患者サービスと医療安全の観点から～	森 茂雄	大田 遥、久保早絢、池田広奈 日比祥代、脇阪涼子、江口真奈美 鈴木祥子、川合 舞、松井 都 澤井喜邦	第38回日本臨床栄養代 謝学会	5月9日
3	がんばる栄養士を応援します！わたしたち施設の期待の星	日比祥代		ニュートリションケア	誌上発表
4	パントリー（病棟）配膳における業務内容と人員配置の課題整理	三河太一	鈴木祥子	第72回日本農村医学会	7月15日
5	地域基幹病院からみた在宅栄養ケアのアウトカム. パネルディスカッションⅢ「在宅や地域の事例から栄養ケアのアウトカムを考える」	森 茂雄		第10回日本在宅栄養管 理学会	7月16日



6	人生の最終段階を含めた虚弱高齢者に対する食支援の在り方について—多職種に対する質問票による課題検討— 公益社団法人勇美記念財団 助成事業報告.	森 茂雄		第10回日本在宅栄養管理学会	7月16日
7	人生の最終段階を含めた虚弱高齢者に対する食支援に対する食支援の在り方に関する研究	森 茂雄		公益社団法人在宅医療助成 勇美財団2021年度助成事業報告	誌上発表
8	人生の最終段階を含めた高齢者に対する食支援の在り方について—多職種に対する質問票による課題検討—	森 茂雄		日本在宅栄養管理学会誌10巻2号	誌上発表
9	終末期の食支援に関わる管理栄養士に対するVSEDの認識調査	森 茂雄		第27回日本病態栄養学会	1月28日
10	人生の最期まで食事を楽しめるレシピ集	森 茂雄		一般社団法人日本在宅栄養管理学会監修 学際企画	誌上発表
11	地域機関病院における濃厚流動食の使用状況の調査	日比祥代	森 茂雄、鈴木祥子、澤井喜邦	第39回日本臨床栄養代謝学会	2月15日
12	特定集中治療室における早期栄養介入管理加算体制構築の取り組み	森 茂雄		第39回日本臨床栄養代謝学会	2月16日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	管理栄養士モリーの経腸栄養の初心者脱出	森 茂雄	メディカ出版 オンラインセミナー	5月1日～3月31日
2	看取りの栄養ケア	森 茂雄	山梨県栄養士会	7月22日
3	診療報酬を意識した病棟業務への取り組み	森 茂雄	ステップアップセミナー	8月5日～8月6日
4	第2回どうする管理栄養士 臨床栄養のプロになるための技術	森 茂雄	大塚製薬工場株式会社	9月13日
5	管理栄養士の病棟業務の実際	森 茂雄	岩手県立病院栄養士会	9月30日
6	高齢者の栄養管理	森 茂雄	千葉県栄養士会	10月15日
7	栄養管理ケアプロセスについて	森 茂雄	愛知県栄養士会	11月5日
8	栄養士の役割と連携	森 茂雄	日本福祉大学中央福祉専門学校 介護福祉科	11月28日
9	摂食嚥下障害の基礎講座	森 茂雄	ステップアップ	12月23日
10	臨床栄養スキルアップセミナー	森 茂雄	ステップアップ	3月16日～3月17日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	排泄ケア・スキンケア他、座長	森 茂雄	第38回日本臨床栄養代謝学会	5月10日

薬剤部

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	入退院支援センターおよび持参薬外来における薬剤師の役割と業務改善への取り組み	金井彩音	横山尚美、成瀬加代、祢宜田和正 三宅芳男、服部直樹	第73回日本病院学会	9月22日
2	入退院支援センターにおける薬剤師業務について	柴田あゆみ	横山尚美、前田健晴、祢宜田和正 三宅芳男	第72回農村医学会学術大会	10月20日

3	Escherichia coliおよびKlebsiella pneumoniae菌血症におけるcefpodoximeディスクを用いた迅速耐性スクリーニングの効果	酒井幹康	酒井隆全、永田悠起、駒井博子 三宅芳男、渡口賢隆、川端 厚 大津史子	第33回日本医療薬学会 年会	11月3日
4	COVID-19患者の外来治療における ニルマトレルビル/リトナビルの費用対効果	水野貴仁	近藤 有、酒井幹康、實安健市 小嶋亮太、三宅芳男	第33回日本医療薬学会 年会	11月3日
5	Cost-effectiveness of nirmatrelvir/ritonavir for high-risk adult outpatients with COVID-19 in Japan	水野貴仁	近藤 有、酒井幹康、實安健市 小嶋亮太、三宅芳男	Journal of Infection and Chemotherapy	誌上発表
6	当院における免疫チェックポイント阻害薬使用患者の副腎機能検査実施状況	榊原崇芳	近藤 有、間瀬 悟、三宅芳男	第33回日本医療薬学会 年会	11月4日
7	全身麻酔下産婦人科手術における5-HT3受容体拮抗薬の術後悪心嘔吐に対する効果の検討	蟹江千雛	酒井幹康、戸田州俊、大岩由香里 三宅芳男	第33回日本医療薬学会 年会	11月3日
8	DPCデータを用いた抗菌薬サーベイランスの精度評価～Point prevalence surveyと比較して～	酒井幹康	酒井隆全、渡口賢隆、川端 厚 三宅芳男、大津史子	第45回日本病院薬剤師会近畿学術大会	1月27日
9	Effect of rapid cefpodoxime disk screening for early detection of third-generation cephalosporin resistance Escherichia coli and Klebsiella pneumoniae bacteremia	酒井幹康	酒井隆全、永田悠起、駒井博子 三宅芳男、渡口賢隆、川端 厚 大津史子	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences	誌上発表

地域医療福祉連携部

学会・研究会発表

	演題	発表者	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	当院精神科外来におけるSWの取り組み	八木隆太		第9回愛知県精神保健福祉士大会	2月3日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	愛知医療通訳システム養成講座「医療機関の仕組みと医療保険制度」	医療福祉相談課長 杉村龍也	愛知県	7月30日
2	豊田市市民後見人養成講座「医療機関と公的医療保険制度」	医療福祉相談課長 杉村龍也	豊田市成年後見支援センター	8月19日
3	愛知県医療ソーシャルワーカー協会新任者研修・医療費、生活相談～医療保険制度・障害年金～	医療福祉相談係長 八木隆太	愛知県医療ソーシャルワーカー協会	10月28日
4	訪問看護師育成事業 がん看護・難病看護 ～MSWからみる地域を支える～	医療福祉相談課長 杉村龍也	豊田市訪問看護師育成センター	11月16日

2. 院内研修活動

1. 全体講演会・全体発表会

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
1	第35回医療安全全体研修	SafetyPlus e-ラーニング研修	医療安全対策委員会	2023.7.3～ 7.31
2	第25回感染対策委員会全体講演会	SafetyPlus e-ラーニング研修	感染対策委員会	2023.9.4～ 9.29
3	第36回医療安全全体研修	SONPOリスクマネジメント(株) シニアコンサルタント 足立尚人 氏	医療安全対策委員会	2023.10.25 2023.10.30～ 2023.11.27
4	第1回豊田厚生病院主催 医療倫理と臨床倫理	日本文化連厚生農業協同組合連 合会 特任指導職 高瀬浩造	教育研修課	2023.12.6
5	第3回Rapid Response System (RRS) 院内研修	東京ベイ・浦安市市川医療セン ター 内藤貴基 氏	救命救急センター病棟委 員会	2023.10.1～ 10.31
6	第3回褥瘡予防対策委員会全体講演会	皮膚・排泄ケア認定看護師 福岡沙織	褥瘡予防対策委員会	2023.10.10～ 11.10
7	第2回情報セキュリティに関する研修	—	医療情報係	2023.10.23～ 2024.1.31
8	第12回臓器移植倫理委員会全体講演会	藤田医科大学保健衛生学部看護 学科准教授 朝居朋子 氏	臓器移植倫理委員会	2024.2.5
9	第20回患者サービス向上委員会 全体講演会	and my・・・ 代表 前川由希子 氏	患者サービス向上委員会	2024.2.1～ 2.15
10	第15回医療安全フォーラム	—	医療安全対策委員会	2024.1.9～2.9
11	認知症サポーター養成講座	認知症看護認定看護師 石川雅恵	地域包括支援センター	2024.2.20
12	第23回保険診療委員会講演会	—	保険診療委員会	2024.1.15～ 1.31
13	第15回豊田感染症フォーラム	SafetyPlus e-ラーニング研修	感染対策委員会	2024.2.13～ 3.8
14	第6回認知症サポート委員会講演会	—	認知症サポート委員会	2024.2.1～ 2.28
15	第19回かも学会	—	教育委員会	2024.2.13～ 2.14
16	第28回豊田がんフォーラム	名古屋大学医学部附属病院 山田剛大 氏	緩和ケア委員会、企画課	2024.3.21
17	第2回虐待対応委員会 研修	—	虐待対応委員会	2024.3.1～ 3.15
18	第4回Rapid Response System (RRS) 院内研修	—	救命救急センター病棟委 員会	2023.3.1～ 3.31
19	クリニカルパス研修	—	クリニカルパス委員会	2023.12.29～ 2024.1.31
20	第24回保険診療委員会講演会	—	保険診療委員会	2024.3.15～ 3.29
21	第2回骨粗鬆症に対する知識の 共有とFLSの意義について	整形外科医長 服部恭典	二次性骨折予防管理カン ファレンスチーム	2024.3.19～ 3.31

2. 研修会・勉強会

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
1	令和5年度新入職員研修	—	教育委員会	2023.4.4～4.5
2	第64回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター副センター長 中島成隆	救命救急センター外来委員会	2023.4.8
3	第95回令和5年4月薬剤師勉強会	緩和ケア内科代表部長 松 雅人	薬剤部	2023.4.19
4	第96回BLS/AED研修会	看護部 宇野由似菜、中山 栞	救命救急センター外来委員会	2023.6.8
5	第97回BLS/AED研修会	看護部 藤崎裕子、伊豫田由希子	救命救急センター外来委員会	2023.9.14
6	第98回BLS/AED研修会	看護部 市野愛実、宮地 徳	救命救急センター外来委員会	2023.12.14
7	第99回BLS/AED研修会	看護部 松本亜紀、宮田麻耶	救命救急センター外来委員会	2024.3.14
8	第1回看護技術研修会	訪問看護ステーション長 齋藤靖子	訪問看護ステーション	2023.6.21
9	第64回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター副センター長 中島成隆	救命救急センター外来委員会	2023.7.22
10	第168回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター外来委員会	2023.6.29
11	第96回令和5年6月薬剤師勉強会	江南厚生病院 薬剤部薬剤課長 鈴木大介	薬剤部	2023.6.9
12	第2回看護技術研修会	訪問看護ステーション長 齋藤靖子	地域医療連携課	2023.7.12
13	第3回看護技術研修会	感染制御係長 駒井博子	地域医療連携課	2023.8.2
14	第4回看護技術研修会	感染制御係長 駒井博子	地域医療連携課	2023.9.20
15	第97回令和5年8月薬剤師勉強会	医療福祉相談課長 杉村龍也	薬剤部	2023.8.16
16	第9回乳腺勉強会	副院長兼外科代表部長兼乳腺外科部長 久留宮康浩 病理診断科代表部長兼臨床検査管理部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催、診療放射線室・臨床検査室・健康管理センター共催、地域医療連携課事務局	2023.10.11
17	第1回BLS/AED臨時講習会	救命救急センター看護係長 岩下香代 看護部 宇野由似菜、中山 栞	救命救急センター外来委員会	2023.8.14
18	第9回豊田厚生病院がん看護基礎研修会	医薬情報係長 近藤有 看護課長 古橋美直子、中王子美保 看護係長 吉田栄里、佐藤修秀、古賀智美、稲熊幸子 看護部 藤本歩、安居 円	緩和ケア委員会	2023.11.18～11.19
19	第5回看護技術研修会	認知症看護認定看護師 石川雅恵	地域医療連携課	2023.10.4
20	第6回看護技術研修会	認知症看護認定看護師 石川雅恵	地域医療連携課	2023.11.15
21	第98回令和5年10月薬剤師勉強会	感染症内科代表部長 川端 厚	薬剤部	2023.10.5



22	第2回令和5年度新入職員研修	—	教育委員会	2023.10.2
23	第66回豊田厚生病院ICLS講習会	循環器内科 大橋大器	救命救急センター外来委員会	2023.10.21
24	令和5年度「診療放射線の安全利用の研修」	SafetyPlus e-ラーニング研修	放射線診断科・診療放射線室	2023.11.13～12.8
25	第1回医薬品安全使用のための研修会	SafetyPlus e-ラーニング研修	医療安全管理室、薬剤部、医薬品安全管理責任者	2023.10.1～10.31
26	第1回診療協同部合同研修会	リハビリテーション室長 仲川 賢	診療協同部	2023.10.27
27	第169回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター外来委員会	2023.9.28
28	第170回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター外来委員会	2023.12.14
29	第7回看護技術研修会	緩和ケア認定看護師 安居 円	地域医療連携課	2023.12.6
30	第8回看護技術研修会	緩和ケア認定看護師 安居 円	地域医療連携課	2024.1.17
31	第10回乳腺勉強会	副院長兼外科代表部長兼乳腺外科部長 久留宮康浩 病理診断科代表部長兼臨床検査管理部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催、診療放射線室・臨床検査室・健康管理センター共催、地域医療連携課事務局	2024.2.21
32	第67回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター副センター長 中島成隆	救命救急センター外来委員会	2024.1.13
33	第41回オストミー友の会	リハビリテーション室 吉田成見 皮膚・排泄ケア認定看護師 福岡沙織	医療福祉相談課	2024.2.16
34	第2回医療機器安全使用のための研修会	臨床工学室 澤田知広	臨床工学室、医療安全管理部、医療機器安全管理責任者	2023.12.5～2024.1.5
35	第99回令和6年2月薬剤師勉強会	皮膚科代表部長 鈴木伸吾	薬剤部	2024.2.1
36	第30回医療事故ワークショップ	後藤・太田・立岡法律事務所 (愛知県厚生連顧問弁護士) 植木祐矢 氏	医療安全対策委員会	2024.2.29
37	第68回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター 竹村元太	救命救急センター外来委員会	2024.3.20
38	令和5年度豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同CPC	総合内科 伊藤怜花、山田崇義 医師臨床研修科 小早川隼輝、野本大二郎	内科（地域医療連携課事務局）	2024.3.13
39	第172回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター外来委員会	2024.3.6

3. 市民講座・市民公開講座

No.	題 名	講 師	主催部署・主催委員会	開催日
1	第111回がんサロン煌	がん相談支援係長 片寄智香子	医療福祉相談課	2023.7.21
2	第1回患者及び家族向け療養教室	腎臓内科 渡邊絢史 栄養管理室 久保早絢	栄養管理室	2023.9.20
3	第2回患者及び家族向け療養教室	内分泌・代謝内科代表部長 澤井喜邦 地域総合支援室 小森正子 栄養管理室 市川日向子	栄養管理室	2023.10.18
4	第112回がんサロン煌	外来がん治療認定薬剤師 加藤 潤	医療福祉相談課	2023.10.27
5	第3回患者及び家族向け療養教室	臨床工学課 酒出篤弥 栄養管理室 寺本 早	栄養管理室	2023.11.29
6	第4回患者及び家族向け療養教室	内分泌・代謝内科代表部長 澤井喜邦 薬剤部 小田康介 栄養管理室 中島朱希	栄養管理室	2023.12.13
7	第113回がんサロン煌	がん化学療法認定看護師 稲熊幸子	医療福祉相談課	2023.12.22
8	第25回市民公開講座	呼吸器外科代表部長 岡阪敏樹 乳腺外科 丹羽多恵 健康管理室長 西森陽子	教育委員会	2024.2.17

IV 委員会活動

1. 委員会一覧

令和3年3月末現在

名称	設置年月日	目的	開催回数
栄養食事委員会(法)(保)	S63.4.1	豊田厚生病院の行う患者の食事療養と及び、賄食に関する必要な事項を検討協議する	4回
治験倫理審査委員会(法)	H9.4.1	委員会は病院長の諮問に応じ、審査の対象とされる治験及び臨床研究等が倫理的及び科学的に妥当であるかを審査することを目的とする。医療の倫理性と患者の人権保護に関する基本的事項を審議及び検討することを目的とする	6回
倫理委員会	R5.8.1	医療の倫理性と患者の人権保護に関する基本的事項を審議及び検討することを目的とする	1回
輸血療法委員会	H10.6.1	「輸血療法の適正化に関するガイドライン」に示された望ましい輸血の管理体制に基づいた適切な輸血療法を推進する（厚生省健康政策局通知健政発第502号、平成元年9月19日制定「輸血療法の適正化に関するガイドライン」）	6回
臓器移植倫理委員会	H14.4.1	医の倫理に基づき検討し、適正に実施する（平成9年法律第104号臓器移植に関する法律（平成9年10月16日施行））	6回
診療録管理委員会(保)	H12.4.20	豊田厚生病院の診療録(電子カルテ含む)および印刷物に関する事項について協議し、診療録の内容の向上と適切な管理を行う	12回
研修管理委員会(法)	H11.5.1	豊田厚生病院および関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理する	3回
臨床研修委員会(法)	H27.4.1	研修医がプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけ、『患者に適切な医療を提供』できるようになる為に、臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	12回
歯科医師研修管理委員会(法)	H24.4.1	歯科研修医が『歯科医師として患者を全人的な視点に配慮した上で、基本的・総合的な臨床能力を修得し、患者や家族の信頼に応じられる姿勢を身に付ける』ことを主旨として、歯科医師臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	3回
栄養サポート委員会	H15.5.1	入院患者の栄養の評価と栄養改善に関する提言を行い、栄養教育を支援する	11回
褥瘡予防対策委員会	H15.5.1	入院患者の褥瘡の発生の予防をし、既造の褥瘡の治療を集約的に行う	6回
摂食・嚥下推進委員会	H16.4.1	豊田厚生病院における摂食・嚥下障害を有する患者の機能評価および機能回復の推進に関する事項について協議する	12回
クリニカルパス委員会	H11.8.6	医療資源の効率的な活用と医療の質の向上を図り、クリニカルパスの作成とその運用についての協議を行い、病院の発展に寄与する	12回
化学療法委員会	H15.10.17	豊田厚生病院の化学療法の安全かつ適正な運用を図り、診療内容の向上に寄与する	12回

診療関連

名 称		設置 年月日	目的	開催回数
診療関連	緩和ケア委員会	H16.4.1	患者のQOLに配慮して様々な苦痛や症状の緩和を図ることを検討し、緩和医療の適応基準や緩和プログラムの具体的な支援について協議する	6回
	がんゲノム医療委員会	R1.10.1	がんゲノム医療に関する検査について、運用の構築や提供体制の整備を図るとともに、検査の実施や進捗状況を管理する	14回
	電子カルテ運用委員会	H20.2.1	豊田厚生病院における医療情報システムを円滑に運用する	6回
	認知症サポート委員会	H28.10.1	認知症の容態に応じた適時・適切な医療を提供するため、職員へ認知症患者のサポートに関する提言を行い、認知症対応能力の向上を目的とする	6回
教育・広報	教育委員会	H15.4.1	職員の知識および患者サービス向上を目的とする	6回
	ボランティア委員会	H6.4.1	職員とボランティアの協議により、地域の人たちのための病院づくりの活動をする	4回
安全管理関連	防災対策委員会(法)	H1.4.1	地震・火災・その他の災害が発生した場合に人的、物的被害を最小限に防止するため防災管理対策を徹底することを目的とする。また、災害拠点病院として常に行動できるよう調整する。	10回
	医療ガス安全管理委員会(法)	H2.4.1	医療ガス（医療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する	1回
	廃棄物管理委員会(法)	H10.8.1	病院としての特殊性に鑑み、廃棄物処理法及び廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアルに従って、主として感染性廃棄物を中心に、加えて一般廃棄物および産業廃棄物について、厚生連廃棄物処理規程に基づき必要な事項を定め、適正な処理を確保し、もって生活環境の保全及び公衆衛生の向上、推進を図る	1回
	感染対策委員会(保)	H3.4.1	豊田厚生病院における院内感染防止に関する事項について協議し、感染対策を立案、実施する	12回
	医療安全対策委員会(保)	H12.4.1	医療事故・再発防止・対策などを検討及び具体化して、患者に安全で質の高い医療を提供する	12回
	医療事故防止対策委員会	H14.4.1	重大な医療事故への具体的対応を行い、併せて再発防止策を検討し、患者に安心と安全な診療を提供する	1回
	虐待対応委員会	H12.11.1	この委員会は、子ども虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者暴力（DV）の予防及び早期発見と被虐待児、被虐待者の救済を目的とする	6回
	透析機器安全管理委員会(保)	H22.4.1	血液浄化療法を安全に運用するため、関連機器の管理ならびに使用する透析液水質管理をする	3回
	コンプライアンス委員会	H25.4.1	この委員会は、コンプライアンスに関する意識の向上とコンプライアンス態勢の確立を図ることを目的とする	5回
	業務改善	患者サービス向上委員会	H13.2.6	医療はサービス業であるとの認識を持って患者により良いサービスを提供する
業務分担推進委員会		H24.4.1	病院勤務医、看護職員・負担の軽減及び処遇の改善を検討することを目的とする	3回



	名 称	設置 年月日	目的	開催回数
経営関連	薬 事 委 員 会	S55.4.22	医薬品その他薬品の管理、適正使用、医療内容の向上および病院経営の発展に寄与する	6回
	医 療 材 料 委 員 会	H16.4.1	医療材料・検査試薬の管理及び適正合理化を図り、医療内容の向上、病院経営の発展に寄与する	6回
	購 買 委 員 会	H8.12.12	事業年度における固定資産枠内取得品目の選定を適正かつ円滑に行う	1回
	保 険 診 療 委 員 会	H12.4.1	診療報酬の効率的な算定、返戻・査定減に関する事項、DPCの運用、適切なコーディングに関する事項および病床管理について協議を行い、病院診療の運営に寄与する	6回
各部門運営関連	放 射 線 安 全 委 員 会 (法)	S60.10.1	法律に基づき、放射線発生装置の取扱いによる放射線障害の発生を防止すると共に、公共の安全を確保する	2回
	中 央 放 射 線 部 運 営 委 員 会	H13.6.1	中央放射線部の適正な活用と質の向上を目的とし、その運営について協議し、病院の発展に寄与する	6回
	臨 床 検 査 運 営 委 員 会 (保)	H12.4.1	臨床検査の適正な活用と臨床検査の質の向上を目的とする	5回
	救 命 救 急 セ ン タ ー 外 来 委 員 会	H15.4.8	救命救急センター外来に係る諸問題を検討し、円滑な救急医療ができる体制を整える	6回
	救 命 救 急 セ ン タ ー 病 棟 委 員 会	H15.4.1	豊田厚生病院におけるICU・HCUの利用状況を把握し、問題点などを検討及び協議する	6回
	中 央 手 術 セ ン タ ー 運 営 委 員 会	H14.4.1	手術室の運営に関わる諸問題を検討し、円滑な手術室の運営ができる体制を整える	6回
職員関連	安 全 衛 生 委 員 会 (法)	H1.4.1	豊田厚生病院における職員の安全と健康を確保し、業務の向上と円滑な遂行を図る	12回
	保 育 委 員 会 (法)	H5.4.1	愛知県健康性農業協同組合連合会 保育所管理要領第4条第3項の規程に基づき、院内保育所、病児保育室、小児病棟、その他附帯する業務の円滑な運営を行う	4回
	総 務 委 員 会 (法)	H10.4.1	愛知県厚生農業協同組合連合会の規程改訂及び病院業務運営の改善向上に関する意見を集約し病院長に具申する	2回
	厚 生 委 員 会	H10.8.1	職員の親睦ならびに資質の向上と、健全明朗な環境を作り上げ、豊田厚生病院の繁栄に寄与する	12回
	人 事 考 課 制 度 推 進 委 員 会	H12.4.1	事業所における人事考課制度の実施・推進を目的とし、人事考課制度の円滑な運用を図る	2回
	看 護 職 確 保 対 策 委 員 会	H25.4.1	看護職の確保に係ることにについて検討することを目的とする	7回
特別	病 院 機 能 評 価 受 審 準 備 委 員 会	H15.4.1	病院機能評価の受審を通じ、より良い病院機能の知識・確立を図ることを目的とする	10回

(法)：法律に基づく設置

(保)：診療報酬に基づく設置

豊田厚生病院 令和5年度年報

2024年11月 発行

発行・編集 愛知県厚生農業協同組合連合会
豊田厚生病院

〒470-0396

愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL (0565)43-5000

印刷部数 240部

印刷 ニチモウ印刷株式会社



JA 愛知厚生連

豊田厚生病院

TOYOTA KOSEI HOSPITAL